

県内湖沼の概要及び水質の概況等

1. 類型指定見直しの対象となる湖沼について	1
1.1 類型指定見直しの対象となる湖沼一覧	1
2. 類型指定見直しのための情報収集・整理項目	4
2.1 情報収集	4
3. 湖沼の概要及び水質と利用の状況	5
3.1 栗駒ダム	5
3.2 花山ダム	12
3.3 鳴子ダム	19
3.4 伊豆沼	26
3.5 長沼ダム	32
3.6 漆沢ダム	39
3.7 南川ダム	46
3.8 釜房ダム	53
3.9 大倉ダム	60
3.10 樽水ダム	67
3.11 七北田ダム	74
3.12 七ヶ宿ダム	81

1. 類型指定見直しの対象となる湖沼について

1.1 類型指定見直しの対象となる湖沼一覧

類型指定を見直す湖沼は、表 1.1-1 に示す 12 湖沼を対象とした。全体の位置図は図 1.1-1 に示すとおりである。また、環境基準の類型指定状況は、表 1.1-2 及び表 1.1-3 に示すとおりである。

表 1.1-1 類型指定見直しの対象となる湖沼一覧

No.	水域名	水域の範囲
1	栗駒ダム	栗駒ダム全域
2	花山ダム	花山ダム全域
3	鳴子ダム	鳴子ダム全域
4	伊豆沼	伊豆沼全域（内沼含む）
5	長沼ダム（長沼）	長沼ダム全域
6	漆沢ダム	漆沢ダム全域
7	南川ダム	南川ダム全域
8	釜房ダム	釜房ダム全域
9	大倉ダム	大倉ダム全域
10	樽水ダム	樽水ダム全域
11	七北田ダム	七北田ダム全域
12	七ヶ宿ダム	七ヶ宿ダム全域

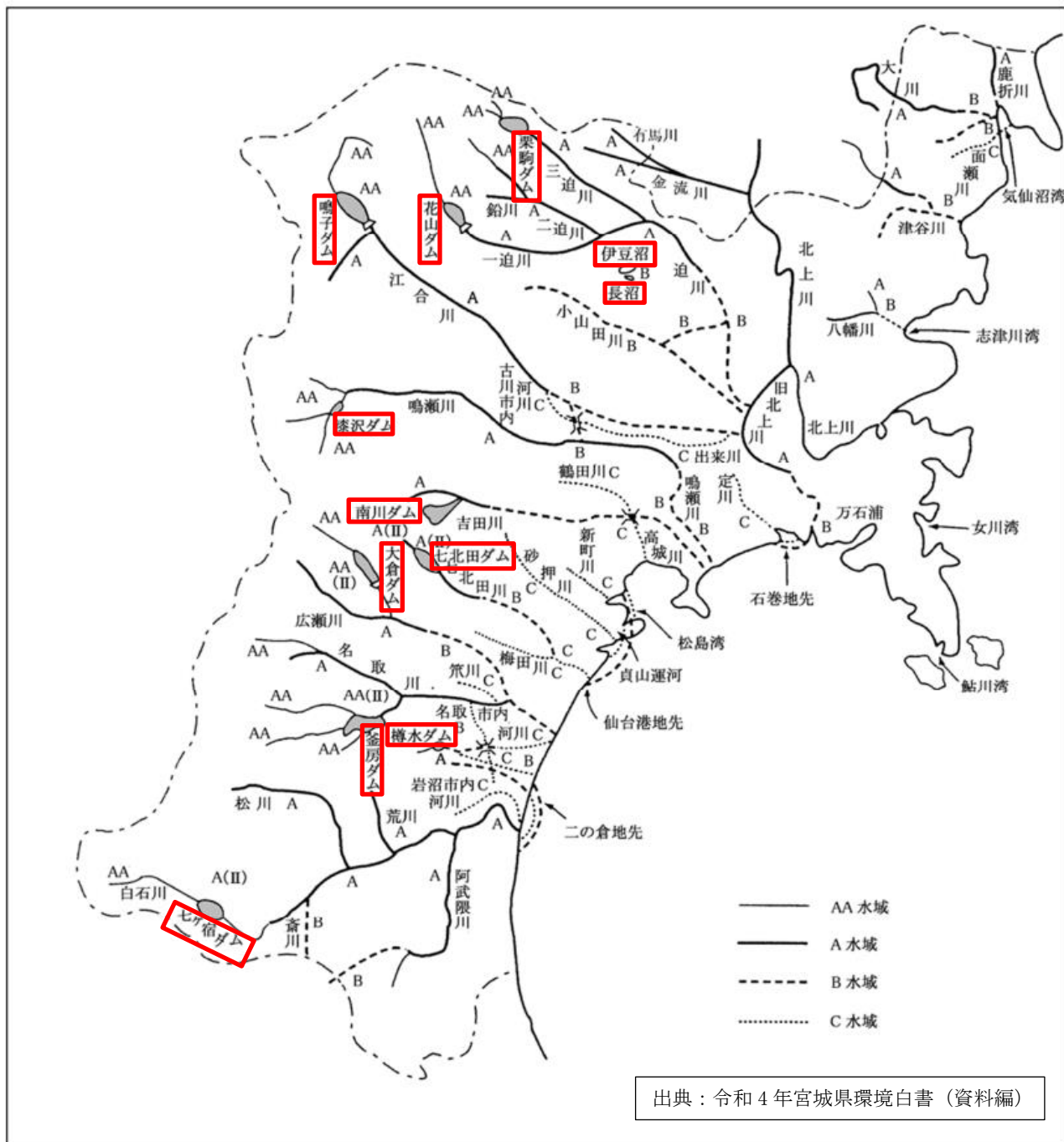


図 1.1-1 対象湖沼の位置図

表 1.1-2 対象湖沼の生活環境の保全に関する環境基準の類型指定状況(指定年順)

水域名	水域の範囲	類型	達成期間	指定年月日
栗駒ダム	栗駒ダム全域	AA	イ	S47. 4. 28
花山ダム	花山ダム全域	AA	イ	〃
鳴子ダム	鳴子ダム全域	AA	イ	〃
漆沢ダム	漆沢ダム全域	AA	イ	〃
釜房ダム	釜房ダム全域	AA	イ	〃
樽水ダム	樽水ダム全域	A	イ	〃
伊豆沼	伊豆沼全域 (内沼含む)	B	イ	S48. 5. 29
長沼ダム(長沼)	長沼全域	B	イ	〃
大倉ダム	大倉ダム全域	AA	ロ	〃
七北田ダム	七北田ダム全域	A	イ	H8. 5. 7
南川ダム	南川ダム全域	A	ハ	〃
七ヶ宿ダム	七ヶ宿ダム全域	A	ハ	H12. 5. 19

表 1.1-3 対象湖沼の窒素及び磷に係る環境基準の類型指定状況(指定年順)

水域名	水域の範囲	類型	達成期間	指定年月日	備考
釜房ダム	釜房ダム全域	Ⅱ	ニ	S61. 2. 25	窒素は当分の間 適用しない
大倉ダム	大倉ダム全域	Ⅱ	ニ	〃	〃
七北田ダム	七北田ダム全域	Ⅱ	ハ	H8. 5. 7	〃
南川ダム	南川ダム全域	Ⅱ	ハ	〃	〃
七ヶ宿ダム	七ヶ宿ダム全域	Ⅱ	イ	H12. 5. 19	〃

注：達成期間の記載について

「イ」：直ちに達成

「ロ」：5年以内で可及的速やかに達成

「ハ」：5年をこえる期間で可及的速やかに達成

「ニ」：段階的に暫定目標を達成しつつ、環境基準の可及的速やかな達成に努める

2. 類型指定見直しのための情報収集・整理項目

2.1 情報収集

類型見直しのため、表 2.1-1 に示す以下の項目について情報を収集し、整理した。

表 2.1-1 類型指定見直しのための情報収集項目及び内容

No.	収集項目	収集内容
1	当該湖沼の概要	・ 名称、水系名、流入河川名、集水面積、環境基準類型等の概要 ・ 総貯水容量、有効貯水量等の諸元 ・ 流域図
2	当該湖沼の貯水状況	・ 管理されている場合はその状況
3	環境基準の類型指定状況	・ 類型指定状況
4	水質の状況	・ 環境基準点の生活環境項目の測定結果（経年変化を含む） ・ N/P の状況
5	利用目的と利用状況	・ 利用目的 ・ 利用状況（水道用水、農業用水、工業用水等）

3. 湖沼の概要及び水質と利用の状況

3.1 栗駒ダム

3.1.1 栗駒ダムの概要

栗駒ダムの概要は表 3.1-1 に、諸元は表 3.1-2 に、流域概要は図 3.1-1 に示すとおりである。
貯水状況は図 3.1-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 198.00m となっている。

表 3.1-1 栗駒ダムの概要

名称	栗駒ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県栗原市栗駒沼倉玉山 1
流入河川名	北上川水系 迫川支川 三迫川
集水面積	53.0 (km ²)
環境基準類型	AA

出典：1. 「栗駒ダムの紹介」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kh-dam/kurikoma-gaiyou.html>)
2. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.1-2 栗駒ダムの諸元

堤頂長	182.0 (m)
堤高	57.0 (m)
総貯水容量	13,715 (千 m ³)
有効貯水容量	12,758 (千 m ³)
滞留時間	91 (日)

出典：「栗駒ダム」(ダム便覧 HP、<http://damnet.or.jp/cgi-bin/binranA/All.cgi?db4=0293>)

注：滞留時間は、有効貯水容量を全流入量(過去 1 週間(令和 6 年 10 月 18 日～25 日)の平均)で除して算出した。

データの出典：「川の防災情報」

(国土交通省 HP、

<https://www.river.go.jp/kawabou/pcfull/tm?itmknCd=7&ofcCd=1025&obsCd=2&isCurrent=true&fld=0>)

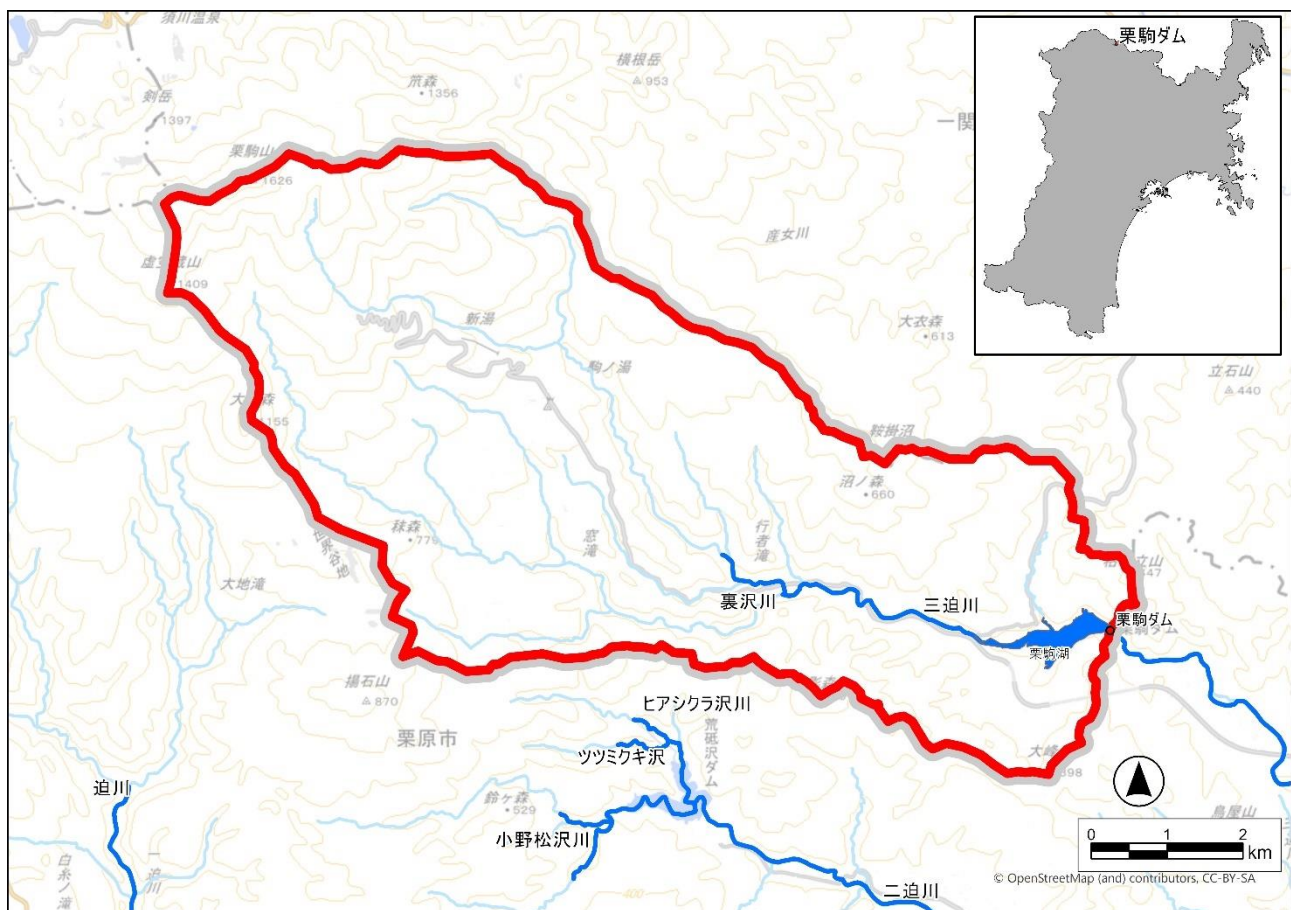


図 3.1-1 栗駒ダムの流域概要図

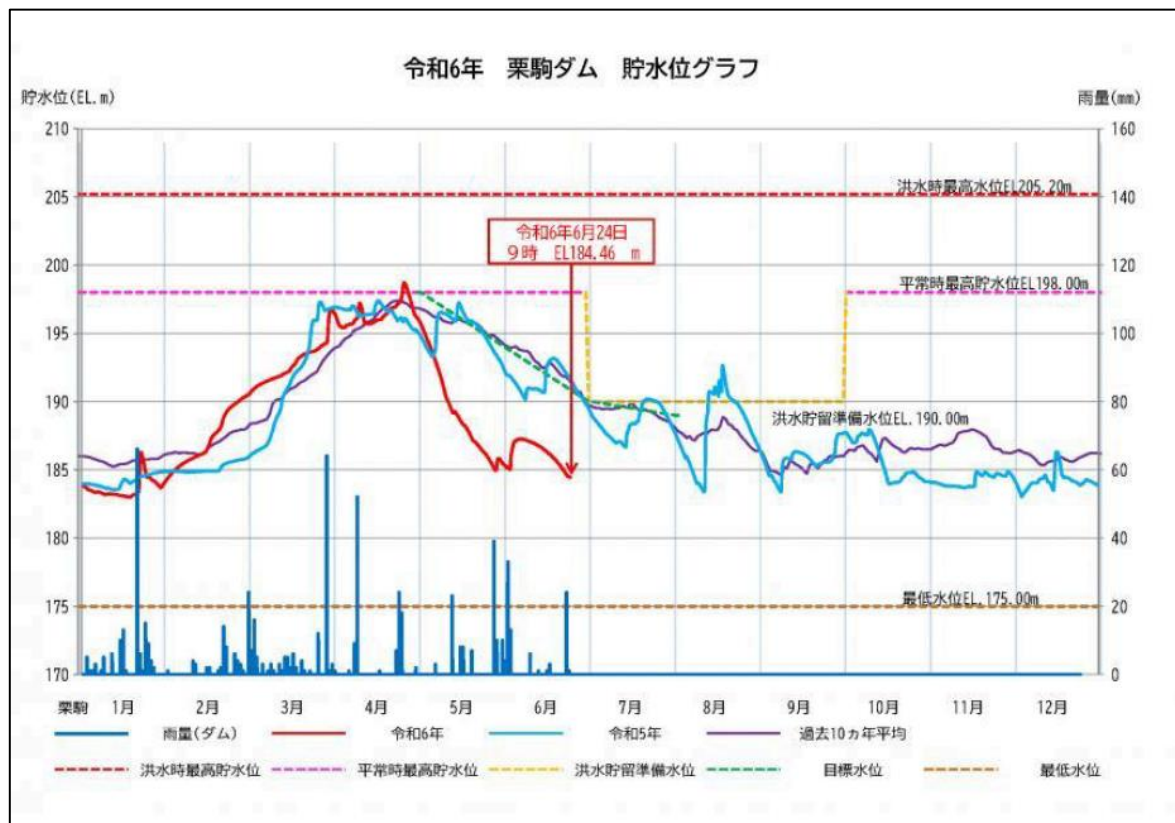


図 3.1-2 栗駒ダムの貯水状況

出典：「県内の河川情報 データー一覧 貯水状況（栗駒ダム）」

（宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kh-dam/chosui-kurikoma.html>）

3.1.2 水質の状況

栗駒ダムの水質測定地点は、図 3.1-3 に示すとおりである。

栗駒ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.1-3 及び図 3.1-4 に示すとおりである。



図 3.1-3 栗駒ダムの水質測定地点

表 3.1-3 栗駒ダムの水質経年変化

栗駒ダム(ダムサイト)【生活環境項目:AA類型】【全窒素・全磷:類型指定なし】

年度	pH(全層)			COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y		最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	6.7 ～ 7.1	0 / 12		0.8 ～ 2.5	8 / 12	1.4	1.5	1 ～ 14	9 / 12	6
H27	6.8 ～ 7.1	0 / 12		0.6 ～ 1.5	10 / 12	1.2	1.2	1 ～ 14	10 / 12	4
H28	6.6 ～ 7.2	0 / 12		0.7 ～ 3.2	10 / 12	1.7	1.7	1 ～ 81	10 / 12	17
H29	7.0 ～ 7.3	0 / 12		1.1 ～ 2.4	12 / 12	1.6	1.6	1 ～ 12	11 / 12	6
H30	6.9 ～ 7.2	0 / 12		1.0 ～ 2.6	9 / 12	1.5	1.6	1 ～ 15	6 / 12	4
R1	6.9 ～ 7.4	0 / 12		0.9 ～ 2.9	9 / 12	1.5	1.7	1 ～ 25	7 / 12	4
R2	7.1 ～ 7.2	0 / 12		0.9 ～ 2.2	9 / 12	1.4	1.6	1 ～ 3	6 / 12	2
R3	7.0 ～ 7.4	0 / 12		0.8 ～ 2.2	10 / 12	1.5	1.9	1 ～ 5	4 / 12	2
R4	6.8 ～ 7.4	0 / 12		1.1 ～ 3.5	12 / 12	1.9	2.1	1 ～ 11	9 / 12	3
R5	7.1 ～ 7.3	0 / 12		0.7 ～ 3.3	10 / 12	1.8	1.9	1 ～ 4	8 / 12	2

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	8.5 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 1,700	6 / 12	350		—		
H27	7.6 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 3,300	7 / 12	410		—		
H28	7.5 ～ 12	0 / 12	10	2 ～ 14,000	7 / 12	1,500		—		
H29	8.2 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 700	6 / 12	130		—		
H30	8.6 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 1,100	5 / 12	250		—		
R1	7.6 ～ 12	0 / 12	10	8 ～ 11,000	5 / 12	1,500		—		
R2	8.1 ～ 13	0 / 12	10	8 ～ 2,400	5 / 12	350		—		
R3	8.3 ～ 13	0 / 12	10	8 ～ 1,300	7 / 12	420		—		
R4	7.7 ～ 13	0 / 12	10	8 ～ 1,400	—	300	1 ～ 8	0 / 12	2	6
R5	7.9 ～ 13	0 / 12	10	17 ～ 4,900	—	970	1 ～ 21	1 / 12	6	17

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.06 ～ 0.32	—	0.17	0.003 ～ 0.021	—	0.009
H27	0.05 ～ 0.30	—	0.15	0.003 ～ 0.022	—	0.011
H28	0.07 ～ 0.26	—	0.14	0.009 ～ 0.10	—	0.030
H29	0.05 ～ 0.29	—	0.13	0.007 ～ 0.026	—	0.016
H30	0.05 ～ 0.17	—	0.10	0.004 ～ 0.024	—	0.011
R1	0.05 ～ 0.16	—	0.10	0.003 ～ 0.021	—	0.009
R2	0.05 ～ 0.15	—	0.08	0.003 ～ 0.009	—	0.005
R3	0.05 ～ 0.12	—	0.07	0.003 ～ 0.011	—	0.006
R4	0.05 ～ 0.19	—	0.11	0.003 ～ 0.015	—	0.008
R5	0.05 ～ 0.22	—	0.11	0.003 ～ 0.017	—	0.008

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—		0.5 ～ 0.6	—	0.5	0.5
H27		—		0.5 ～ 1.4	—	0.6	0.5
H28		—		0.5 ～ 0.7	—	0.6	0.6
H29		—		0.5 ～ 0.7	—	0.5	0.5
H30		—		0.5 ～ 0.6	—	0.5	0.5
R1		—		0.5 ～ 0.6	—	0.5	0.5
R2		—		0.5 ～ 0.9	—	0.6	0.5
R3		—		0.5 ～ 1.0	—	0.5	0.5
R4		—		0.5 ～ 1.9	—	0.7	0.6
R5		—		0.5 ～ 1.3	—	0.6	0.6

注 1) x : 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y : 総測定日数

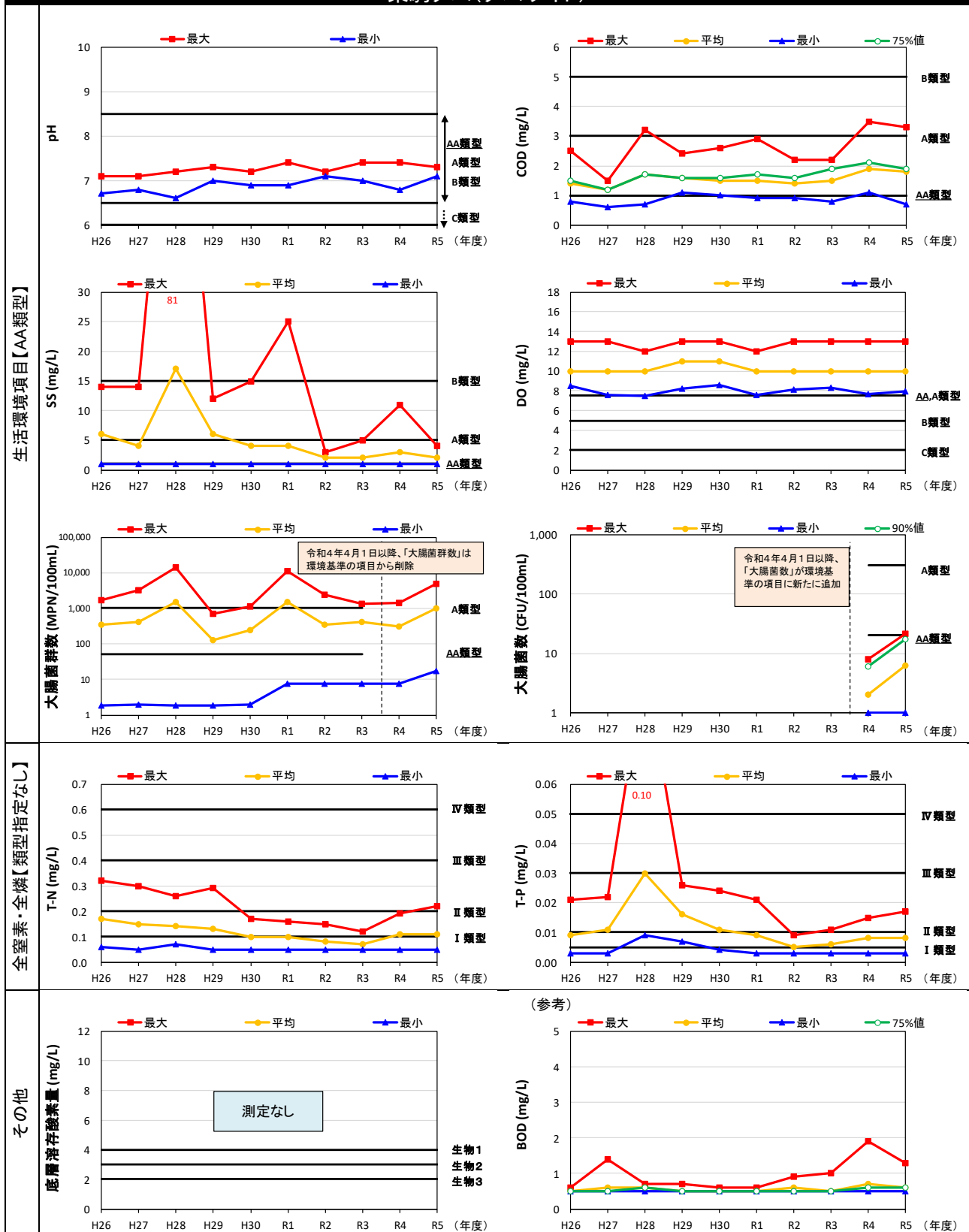
2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

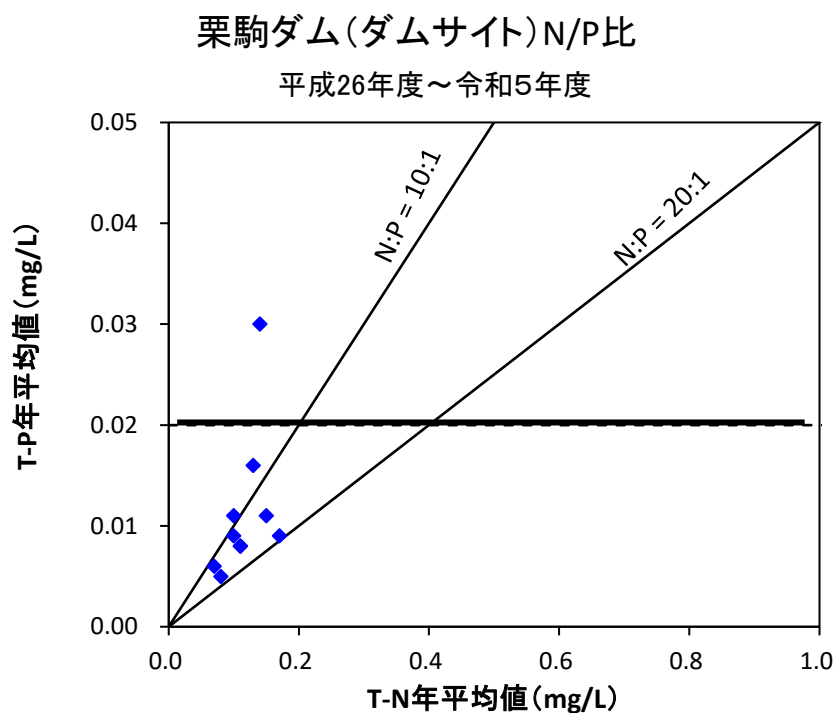
データの出典 : 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

栗駒ダム(ダムサイト)



データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

栗駒ダムの N/P 比は、図 3.1-5 に示すとおりである。



データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

＜参考＞T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全磷比が 20 以下であり、かつ全磷濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.1.3 栗駒ダムの利用目的と利用状況

栗駒ダムの利用目的と利用状況は、表 3.1-4 及び表 3.1-5 に示すとおりである。

表 3.1-4 栗駒ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○		○	○		○		

出典：「栗駒ダムの紹介」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kh-dam/kurikoma-gaiyou.html>)

「栗原市水道ビジョン」

(栗原市 HP、<https://www.kuriharacity.jp/w029/suidovision.pdf>)

表 3.1-5 栗駒ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
灌漑用水	—	—	・2,604ha の耕地に農業用水を補給している。
上水道用水	栗原市	—	・栗原市の浄水場の一つにおいて水源として利用されている。
発電	細倉金属工業株式会社	—	・ダムからの放流水(最大 5.0m ³ /秒)を利用し、最大 2,800kW の発電を行っている。

出典：「栗駒ダムの紹介」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kh-dam/kurikoma-gaiyou.html>)

「栗原市水道ビジョン」

(栗原市 HP、<https://www.kuriharacity.jp/w029/suidovision.pdf>)

3.2 花山ダム

3.2.1 花山ダムの概要

花山ダムの概要は表 3.2-1 に、諸元は表 3.2-2 に、流域概要は図 3.2-1 に示すとおりである。
貯水状況は図 3.2-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 124.60m となっている。

表 3.2-1 花山ダムの概要

名称	花山ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県栗原市花山字本沢淵牛
流入河川名	北上川水系 迫川
集水面積	126.9 (km ²)
環境基準類型	AA、生物 A

出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料
2. 「花山ダムの紹介」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kh-dam/hanayama-gaiyou.html>)
3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.2-2 花山ダムの諸元

堤頂長	72.0 (m)
堤高	48.5 (m)
総貯水容量	36,600 (千 m ³)
有効貯水容量	32,000 (千 m ³)
滞留時間	47 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 25 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。
データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」
(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/181/2022>)

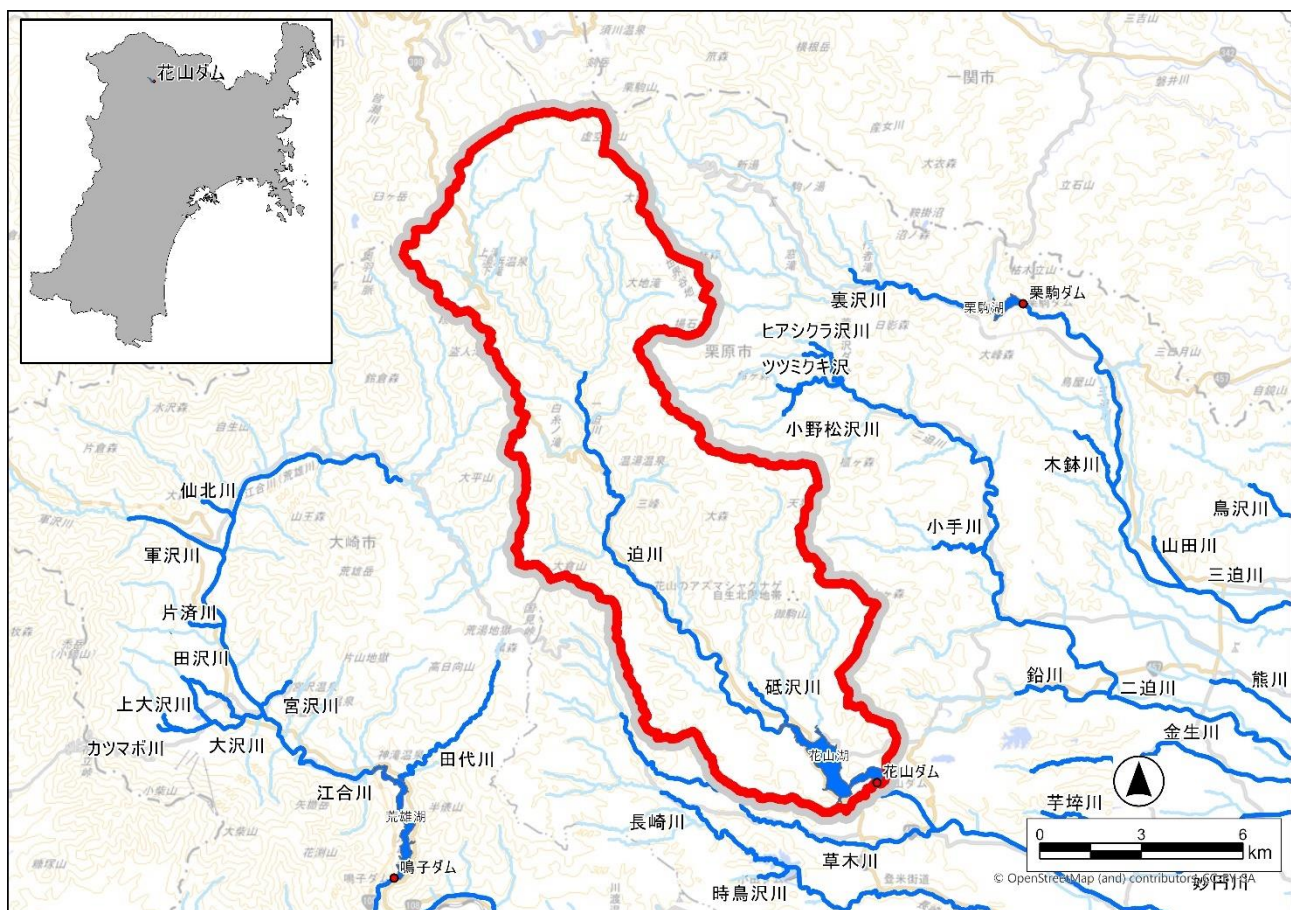


図 3.2-1 花山ダムの流域概要図

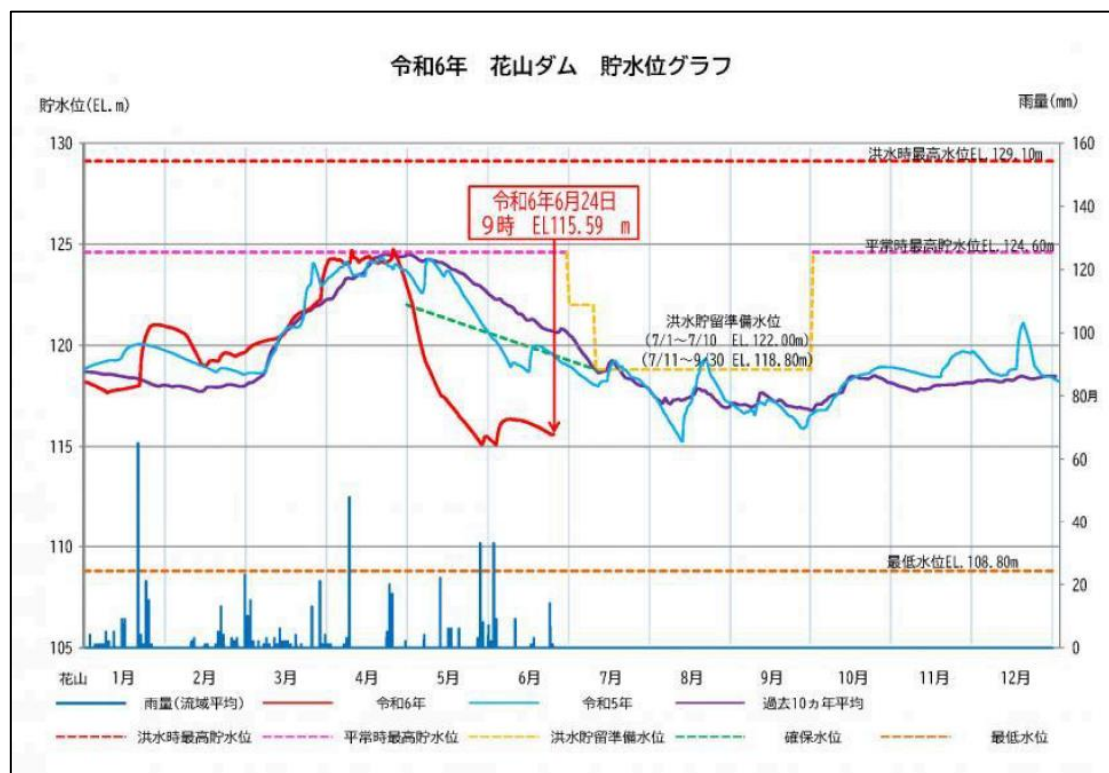


図 3.2-2 花山ダムの貯水状況

出典：「県内の河川情報 データー一覧 貯水状況（花山ダム）」
 （宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kh-dam/chosui-hana.html>）

3.2.2 水質の状況

花山ダムの水質測定地点は、図 3.2-3 に示すとおりである。

花山ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.2-3 及び図 3.2-4 に示すとおりである。

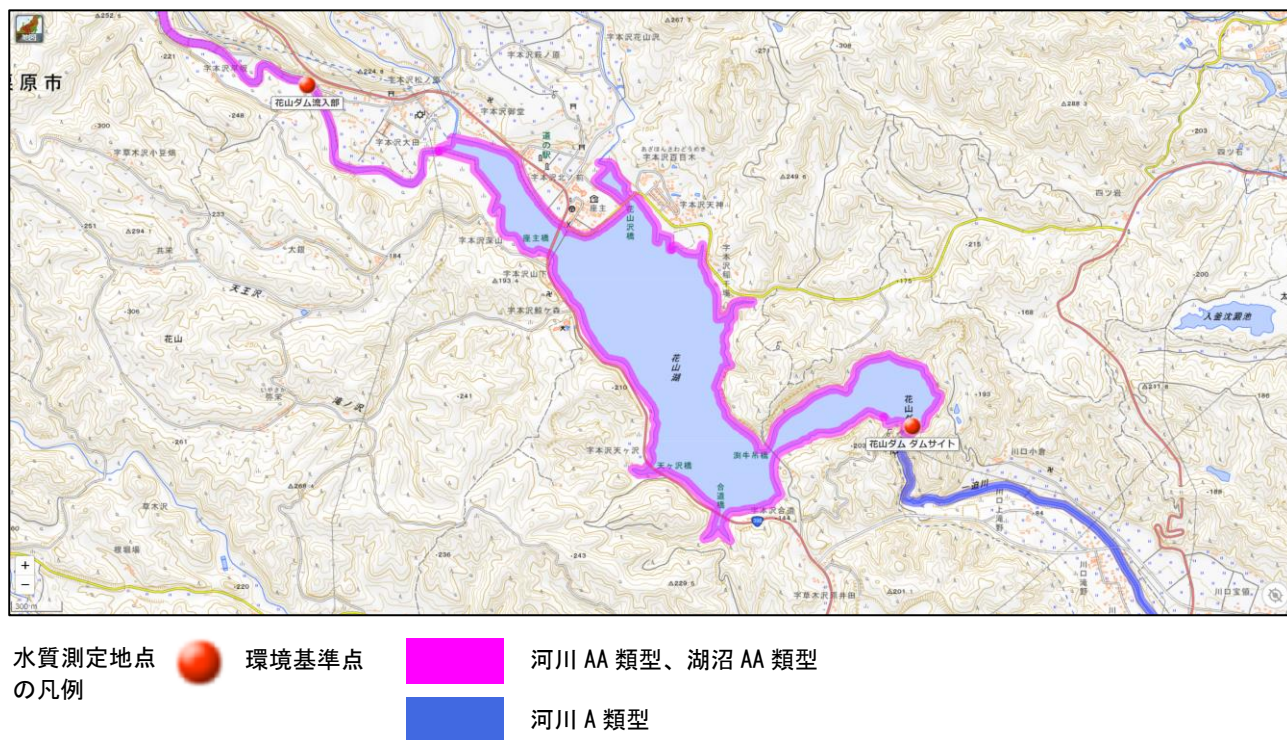


図 3.2-3 花山ダムの水質測定地点

表 3.2-3 花山ダムの水質経年変化

花山ダム(ダムサイト)【生活環境項目:AA類型】【全窒素・全磷:類型指定なし】

年度	pH(全層)		COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y	最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	6.7 ～ 7.7	0 / 12	1.3 ～ 4.3	12 / 12	2.2	2.4	1 ～ 13	11 / 12	5
H27	7.1 ～ 8.0	0 / 12	1.3 ～ 2.8	12 / 12	2.0	2.2	1 ～ 11	8 / 12	4
H28	7.1 ～ 8.0	0 / 12	1.4 ～ 4.1	12 / 12	2.1	2.3	1 ～ 9	8 / 12	3
H29	7.1 ～ 8.4	0 / 12	1.3 ～ 3.8	12 / 12	2.4	2.9	1 ～ 7	4 / 12	2
H30	7.1 ～ 8.2	0 / 12	1.3 ～ 4.1	12 / 12	2.2	2.5	1 ～ 4	6 / 12	2
R1	7.2 ～ 7.7	0 / 12	1.6 ～ 4.1	12 / 12	2.3	2.6	1 ～ 12	7 / 12	3
R2	7.3 ～ 7.9	0 / 10	1.7 ～ 4.0	10 / 10	2.6	3.1	1 ～ 4	5 / 10	2
R3	7.2 ～ 7.8	0 / 12	1.0 ～ 3.2	11 / 12	2.2	2.6	1 ～ 4	7 / 12	2
R4	7.3 ～ 8.3	0 / 12	1.5 ～ 5.0	12 / 12	2.6	2.9	1 ～ 5	7 / 12	2
R5	7.3 ～ 7.9	0 / 12	1.4 ～ 3.7	12 / 12	2.5	2.9	1 ～ 3	9 / 12	2

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	9.3 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 4,900	8 / 12	1,000		—		
H27	8.7 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 1,700	6 / 12	310		—		
H28	8.8 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 240	3 / 12	59		—		
H29	8.5 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 790	6 / 12	120		—		
H30	9.7 ～ 13	0 / 12	11	5 ～ 490	4 / 12	95		—		
R1	8.0 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 4,900	6 / 12	710		—		
R2	8.3 ～ 12	0 / 10	10	8 ～ 17,000	6 / 10	2,300		—		
R3	8.7 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 2,200	7 / 12	290		—		
R4	9.2 ～ 13	0 / 12	11	8 ～ 1,400	—	390	1 ～ 4	0 / 12	2	4
R5	8.2 ～ 13	0 / 12	10	5 ～ 7,900	—	1,000	1 ～ 6	0 / 12	2	5

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.13 ～ 0.36	—	0.23	0.008 ～ 0.037	—	0.016
H27	0.11 ～ 0.36	—	0.20	0.012 ～ 0.025	—	0.019
H28	0.12 ～ 0.26	—	0.17	0.011 ～ 0.024	—	0.017
H29	0.12 ～ 0.28	—	0.16	0.008 ～ 0.025	—	0.015
H30	0.09 ～ 0.22	—	0.14	0.005 ～ 0.024	—	0.013
R1	0.09 ～ 0.24	—	0.15	0.005 ～ 0.025	—	0.013
R2	0.08 ～ 0.28	—	0.15	0.003 ～ 0.021	—	0.012
R3	0.07 ～ 0.16	—	0.12	0.006 ～ 0.015	—	0.010
R4	0.07 ～ 0.33	—	0.17	0.004 ～ 0.024	—	0.012
R5	0.05 ～ 0.23	—	0.15	0.005 ～ 0.031	—	0.013

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—		0.5 ～ 1.3	—	0.8	0.9
H27		—		0.5 ～ 1.9	—	0.9	0.9
H28		—		0.5 ～ 1.3	—	0.8	0.9
H29		—		0.5 ～ 1.4	—	0.8	1.0
H30		—		0.5 ～ 1.2	—	0.6	0.7
R1		—		0.5 ～ 1.1	—	0.7	0.8
R2		—		0.6 ～ 1.5	—	0.9	1.4
R3		—		0.5 ～ 1.1	—	0.7	0.8
R4		—		0.5 ～ 1.8	—	0.8	0.8
R5		—		0.5 ～ 1.2	—	0.7	0.9

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

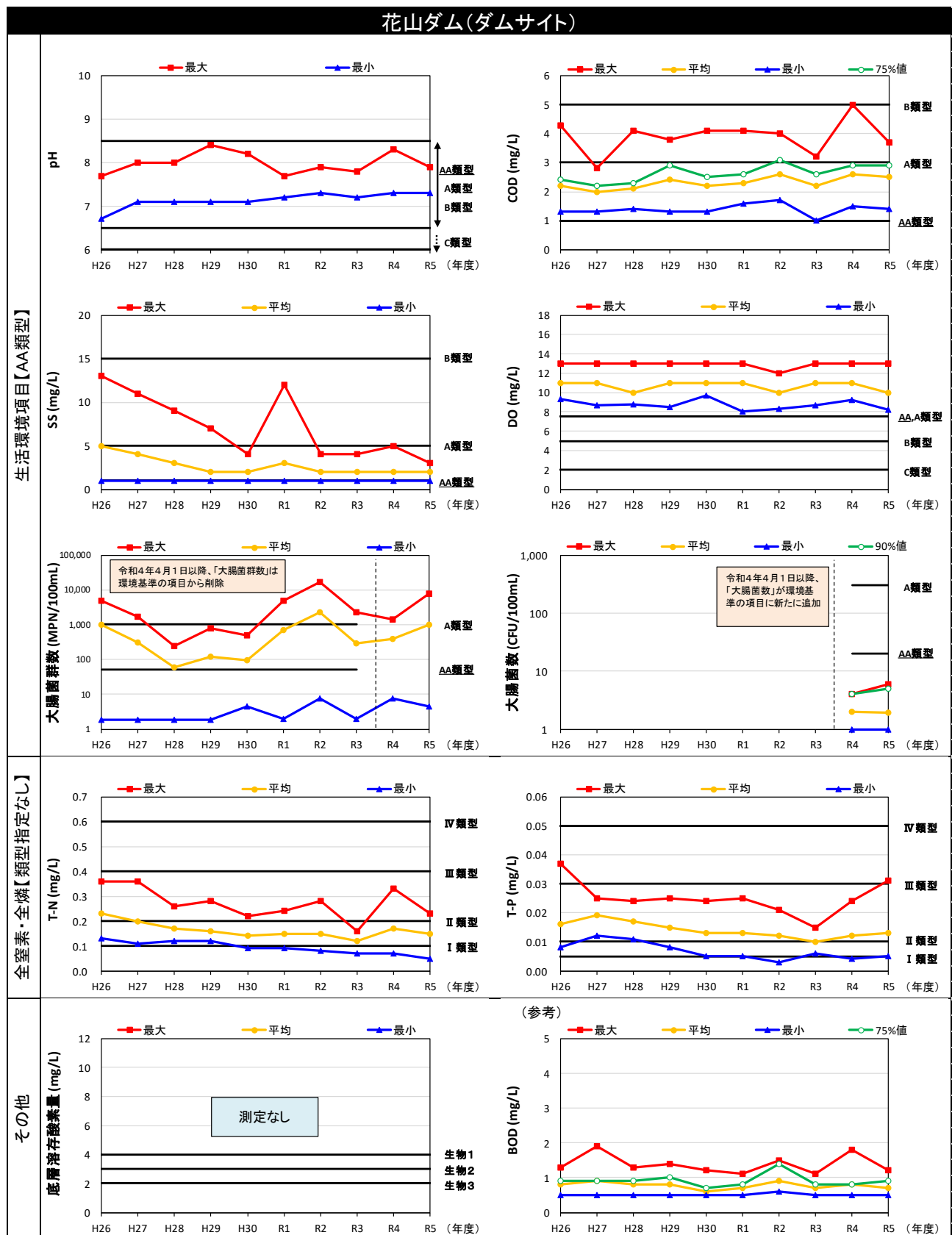


図 3.2-4 花山ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

花山ダム(ダムサイト)の N/P 比は、図 3.2-5 に示すとおりである。

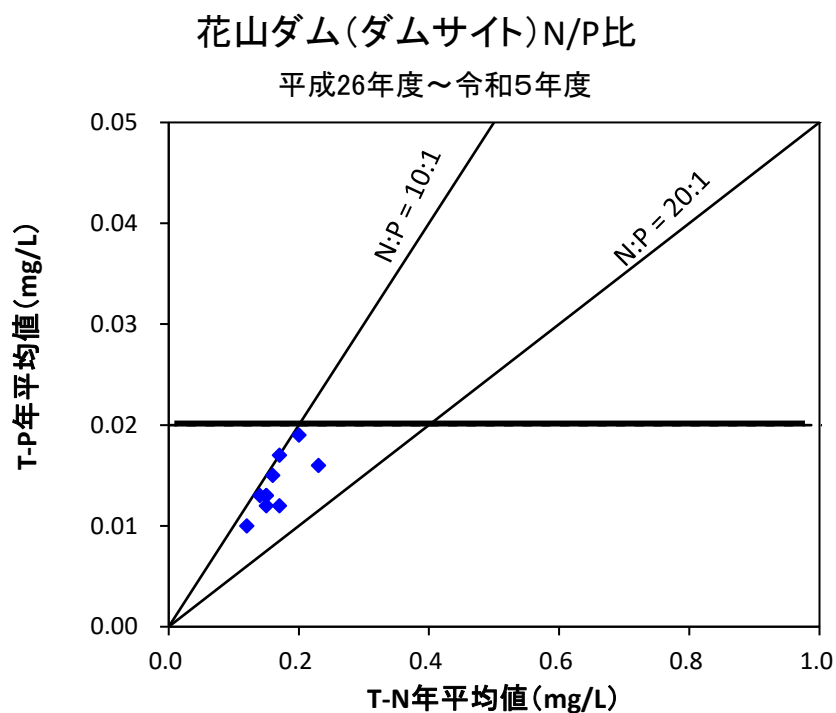


図 3.2-5 花山ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.2.3 花山ダムの利用目的と利用状況

花山ダムの利用目的と利用状況は、表 3.2-4 及び表 3.2-5 に示すとおりである。

表 3.2-4 花山ダムの利用目的

洪水調整	流水機能 維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪 用水	レクリエ ーション
○	○		○	○	○		

出典：「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/181/2022>)

表 3.2-5 花山ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
上水道用水	—	—	・栗原・登米地域に対し、水道用水として最大 19,000m ³ /日を供給している。
発電	細倉金属工業株式会社	—	—

出典：「花山ダムの紹介」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kh-dam/hanayama-gaiyou.html>)

3.3 鳴子ダム

3.3.1 鳴子ダムの概要

鳴子ダムの概要は表 3.3-1 に、諸元は表 3.3-2 に、流域概要は図 3.3-1 に示すとおりである。
貯水状況は図 3.3-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 254.00m となっている。

表 3.3-1 鳴子ダムの概要

名称	鳴子ダム
管理者	国土交通省東北地方整備局
位置	宮城県大崎市鳴子温泉字岩渕
流入河川名	北上川水系 江合川
集水面積	210.1 (km ²)
環境基準類型	AA、生物 A

出典：1. 「鳴子ダムを学ぶ 基本情報」
(鳴子ダム HP、<https://www.thr.mlit.go.jp/naruko/study/outline/data.html>)
2. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.3-2 鳴子ダムの諸元

堤頂長	215.0 (m)
堤高	94.5 (m)
総貯水容量	50,000 (千 m ³)
有効貯水容量	35,000 (千 m ³)
滞留時間	27 (日)

出典：「鳴子ダム」(ダム便覧 HP、<http://damnet.or.jp/cgi-bin/binranA/All.cgi?db4=0290>)

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量(過去 10 年間(平成 25 年～令和 4 年)の平均)で除して算出した。
データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表(流況)」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/20/2022>)

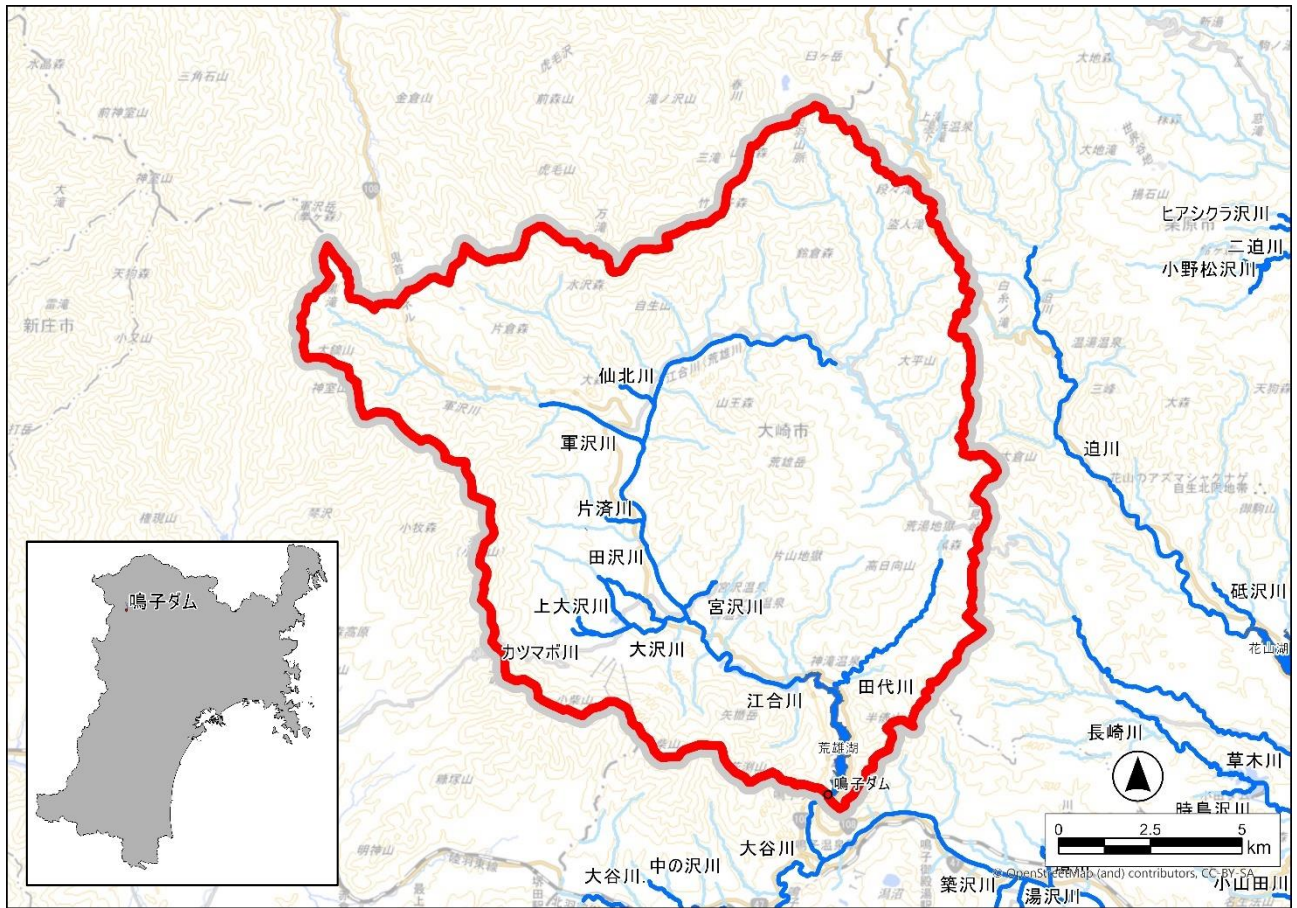


図 3.3-1 鳴子ダムの流域概要図

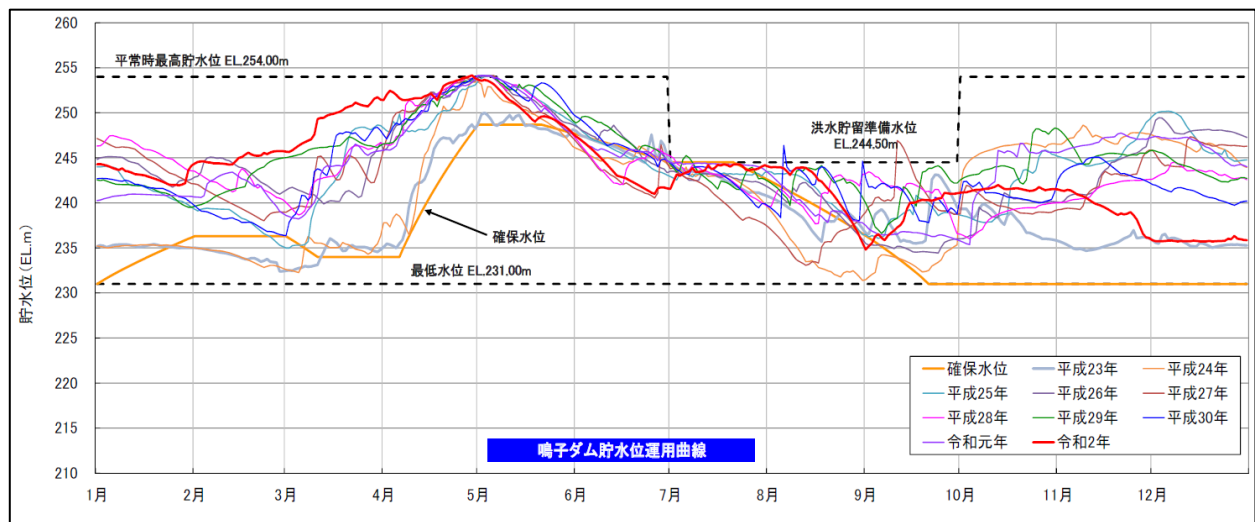


図 3.3-2 鳴子ダムの貯水状況

出典：「令和3年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 鳴子ダム 定期報告書（概要版）」
 （国土交通省 東北地方整備局、令和4年）

3.3.2 水質の状況

鳴子ダムの水質測定地点は、図 3.3-3 に示すとおりである。

鳴子ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.3-3 及び図 3.3-4 に示すとおりである。

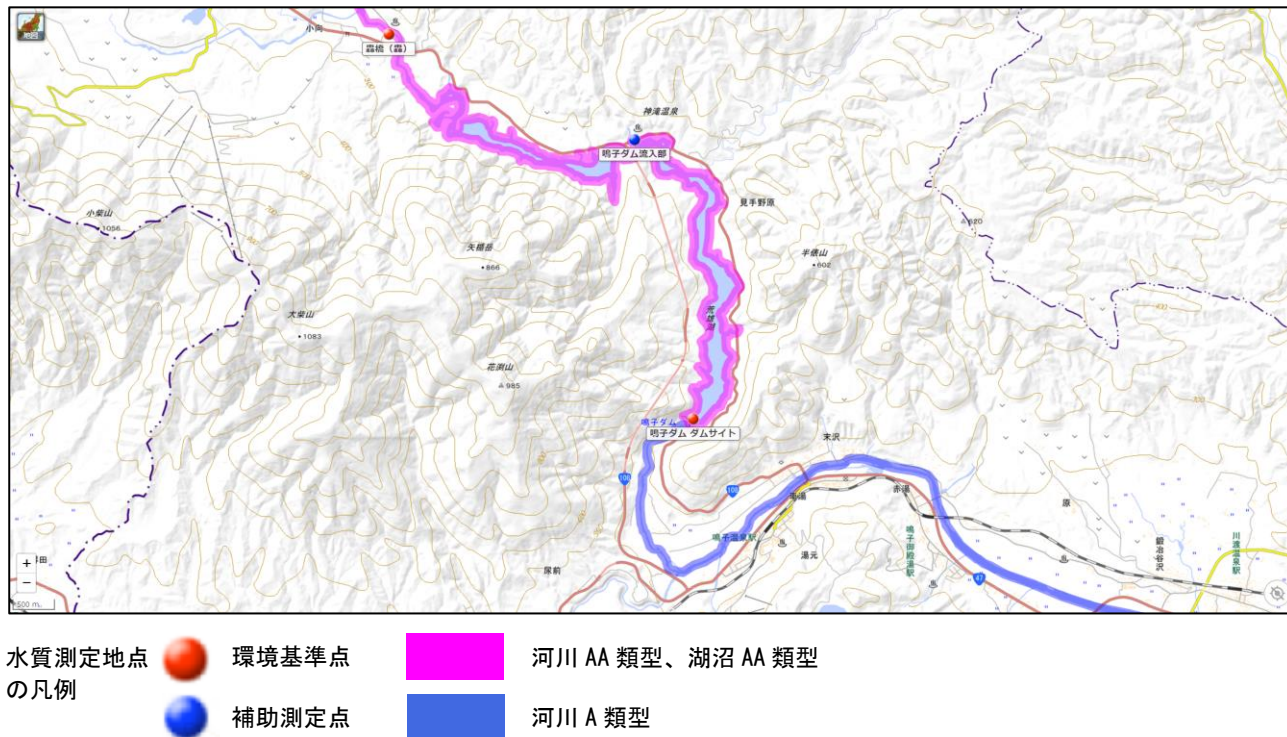


図 3.3-3 鳴子ダムの水質測定地点

表 3.3-3 鳴子ダムの水質経年変化

鳴子ダム(ダムサイト)【生活環境項目:AA類型】【全窒素・全磷:類型指定なし】

年度	pH(全層)		COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y	最小～最大	x/y	年平均值	75%値	最小～最大	x/y	年平均值
H26	6.7 ～ 7.2	0 / 12	0.9 ～ 2.2	11 / 12	1.5	1.7	1 ～ 16	10 / 12	5
H27	6.5 ～ 7.3	0 / 12	0.9 ～ 3.5	11 / 12	1.8	2.0	1 ～ 51	10 / 12	15
H28	6.7 ～ 7.1	0 / 12	0.9 ～ 2.0	10 / 12	1.4	1.6	2 ～ 15	12 / 12	6
H29	6.8 ～ 7.0	0 / 9	1.2 ～ 2.2	9 / 9	1.6	1.7	2 ～ 10	9 / 9	4
H30	6.5 ～ 7.6	0 / 12	1.0 ～ 2.5	11 / 12	1.6	1.9	1 ～ 33	9 / 12	14
R1	6.7 ～ 7.2	0 / 12	1.4 ～ 4.9	12 / 12	2.0	2.1	1 ～ 16	11 / 12	7
R2	6.8 ～ 7.0	0 / 12	1.1 ～ 4.7	12 / 12	2.2	2.6	2 ～ 8	12 / 12	5
R3	6.8 ～ 7.1	0 / 12	1.1 ～ 3.6	12 / 12	1.8	2.2	1 ～ 6	10 / 12	3
R4	6.8 ～ 7.0	0 / 12	0.8 ～ 2.8	11 / 12	1.9	2.1	1 ～ 20	11 / 12	7
R5	6.7 ～ 7.3	0 / 12	1.2 ～ 2.3	12 / 12	1.7	1.9	2 ～ 7	12 / 12	3

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均值	最小～最大	x/y	年平均值	最小～最大	x/y	年平均值	90%値
H26	6.7 ～ 13	1 / 12	9.9	8 ～ 7,200	10 / 12	830		—		
H27	7.0 ～ 12	3 / 12	9.6	13 ～ 31,000	8 / 12	3,100		—		
H28	7.2 ～ 12	2 / 12	9.6	1 ～ 9,000	8 / 12	1,400		—		
H29	7.4 ～ 11	1 / 9	9.8	71 ～ 6,700	9 / 9	1,500		—		
H30	6.3 ～ 12	4 / 12	9.4	6 ～ 14,000	8 / 12	1,700		—		
R1	6.1 ～ 12	4 / 12	10.0	7 ～ 45,000	7 / 11	4,200		—		
R2	6.0 ～ 12	4 / 12	9.1	20 ～ 3,000	8 / 12	900		—		
R3	6.3 ～ 12	5 / 12	9.2	20 ～ 2,100	7 / 12	620		—		
R4	6.8 ～ 13	4 / 12	9.3		—		1 ～ 13	0 / 12	4	10
R5	4.8 ～ 12	4 / 12	8.9		—		1 ～ 10	0 / 12	3	5

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均值	最小～最大	x/y	年平均值
H26	0.15 ～ 0.39	—	0.24	0.009 ～ 0.033	—	0.017
H27	0.11 ～ 0.41	—	0.22	0.008 ～ 0.038	—	0.018
H28	0.09 ～ 0.35	—	0.20	0.011 ～ 0.031	—	0.018
H29	0.17 ～ 0.40	—	0.24	0.007 ～ 0.026	—	0.015
H30	0.10 ～ 0.28	—	0.21	0.009 ～ 0.025	—	0.016
R1	0.11 ～ 0.36	—	0.21	0.009 ～ 0.036	—	0.018
R2	0.11 ～ 0.46	—	0.21	0.011 ～ 0.036	—	0.017
R3	0.15 ～ 0.37	—	0.20	0.010 ～ 0.024	—	0.018
R4	0.18 ～ 0.36	—	0.26	0.008 ～ 0.033	—	0.019
R5	0.19 ～ 0.49	—	0.26	0.012 ～ 0.043	—	0.019

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均值	最小～最大	x/y	年平均值	75%値
H26	3.7 ～ 12	—	8	0.5 ～ 0.9	—	0.7	0.8
H27	4.4 ～ 12	—	7.9	0.5 ～ 1.1	—	0.7	0.8
H28	3.8 ～ 13	—	8.5	0.5 ～ 1.0	—	0.6	0.7
H29	6.7 ～ 11	—	9.1	0.5 ～ 0.8	—	0.6	0.7
H30	2.8 ～ 11	—	7.4	0.5 ～ 1.2	—	0.6	0.6
R1	2.4 ～ 12	—	7.1	0.5 ～ 1.4	—	0.7	0.8
R2	1.3 ～ 11	—	7.1	0.5 ～ 1.0	—	0.6	0.6
R3	1.1 ～ 12	—	7.2	0.5 ～ 1.2	—	0.8	0.9
R4	2.7 ～ 12	—	7.7	0.5 ～ 1.2	—	0.8	1.0
R5	0.8 ～ 12	—	6.7	0.5 ～ 1.3	—	0.8	0.9

注 1) x : 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y : 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均值の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典 : 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

鳴子ダム(ダムサイト)

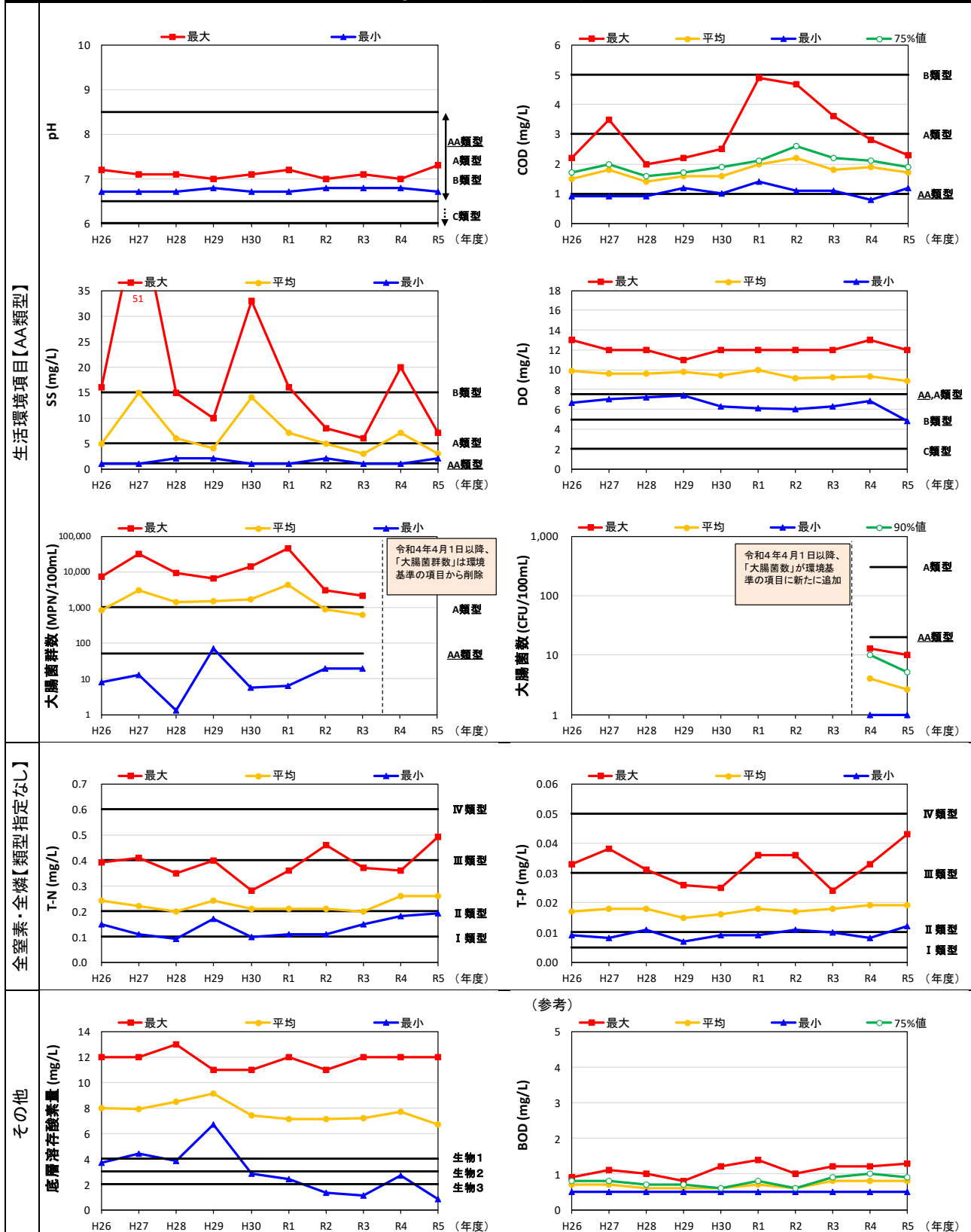
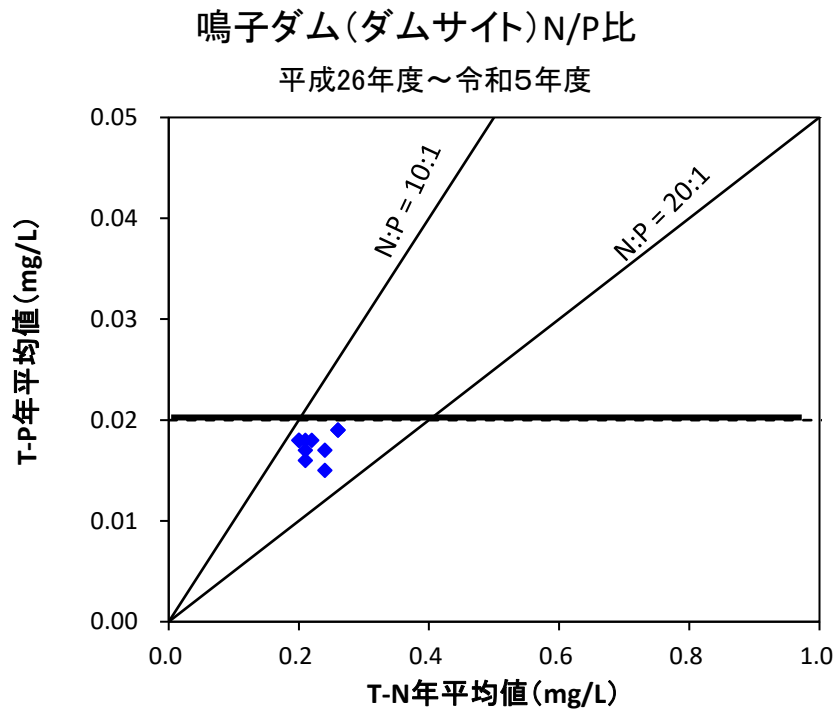


図 3.3-4 鳴子ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

鳴子ダム(ダムサイト)の N/P 比は、図 3.3-5 に示すとおりである。



データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.3.3 鳴子ダムの利用目的と利用状況

鳴子ダムの利用目的と利用状況は、表 3.3-4 及び表 3.3-5 に示すとおりである。

表 3.3-4 鳴子ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○	○			○		

出典：1. 「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/20/2022>)

2. 「令和3年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 鳴子ダム 定期報告書（概要版）」
(国土交通省 東北地方整備局、令和4年)

表 3.3-5 鳴子ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
灌漑用水	—	—	- 江合川沿岸の大崎市、美里町、涌谷町に広がる 10,223ha の農地に灌漑用水を補給している。 - 坂見堰用水として、最大 0.49m³/s を補給する。
発電	東北電力株式会社	ダム左岸上流約 700m 地点に取水塔を設けている。	鳴子発電所によって、最大取水量 21.0m³/s、最大出力 18,700kW の発電を行う。

出典：「令和3年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 鳴子ダム 定期報告書（概要版）」
(国土交通省 東北地方整備局、令和4年)

3.4 伊豆沼

3.4.1 伊豆沼の概要

伊豆沼の概要は表 3.4-1 に、諸元は表 3.4-2 に、流域概要は図 3.4-1 に示すとおりである。

表 3.4-1 伊豆沼の概要

名称	伊豆沼・内沼
管理者	宮城県
位置	宮城県登米市及び栗原市
流入河川	伊豆沼：荒川、照越川 内沼：八沢川、太田川
集水面積	52,65 (km ²)
環境基準類型	B

- 出典：1. 「伊豆沼・内沼自然再生全体構想 第2期」
(伊豆沼・内沼自然再生協議会、令和2年)
2. 「令和5年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和6年)

表 3.4-2 伊豆沼の諸元

	伊豆沼	内沼
湖面積	3.69 (km ²)	1.22 (km ²)
湖容積	279.2 万 (m ³)	95.5 万 (m ³)
平均水深	0.76 (m)	0.78 (m)
最大水深	1.6 (m)	1.6 (m)
滞留時間	14.6 日 (0.04 年 ^{出典2})	—

- 出典：1. 「伊豆沼・内沼自然再生全体構想 第2期」
(伊豆沼・内沼自然再生協議会、令和2年)
2. 「我が国の湖沼での沈水植物の再生及び利活用に関する資料集」
(財団法人 河川環境管理財団 河川環境総合研究所、平成23年)

注：内沼の滞留時間については、出典2に記載がなかった。

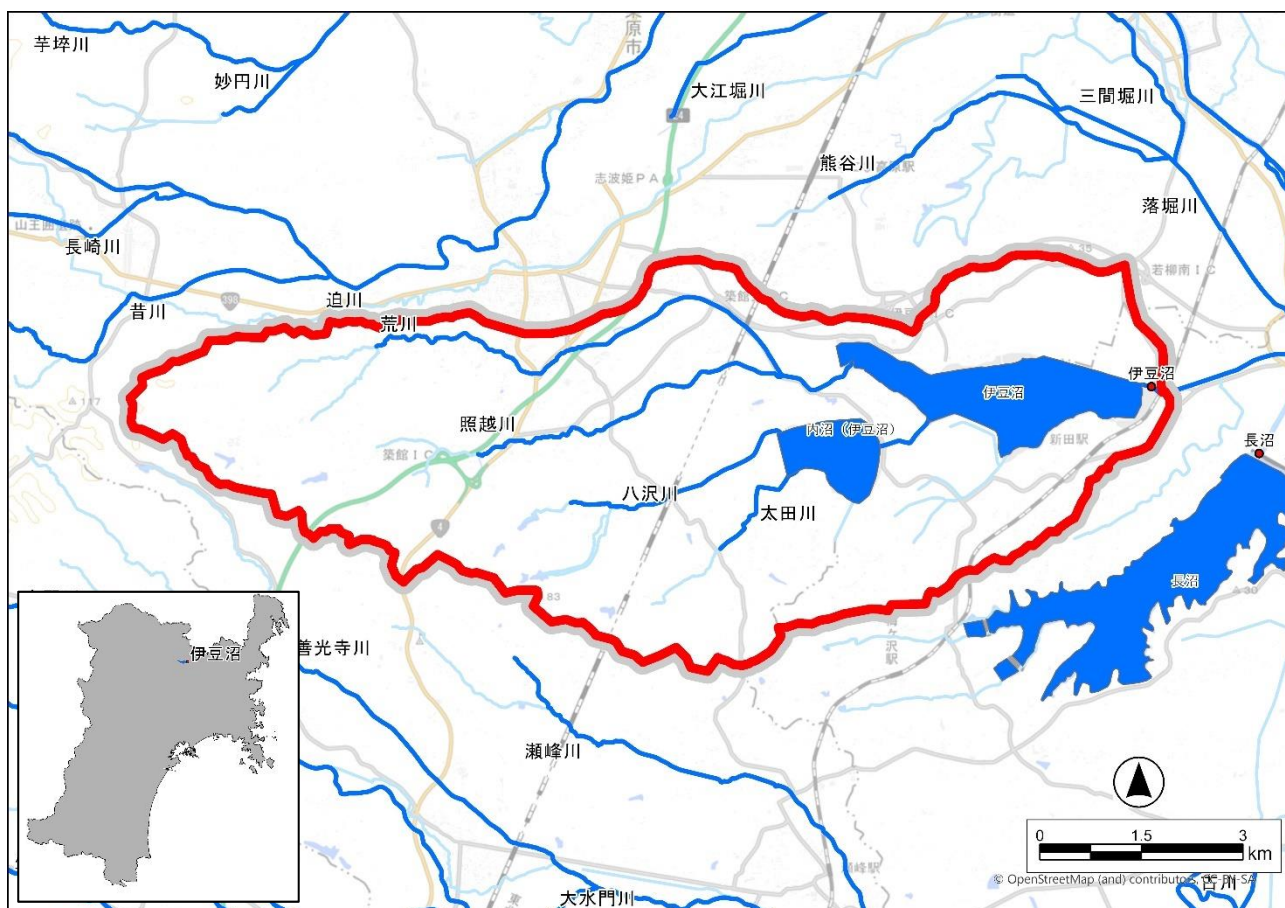
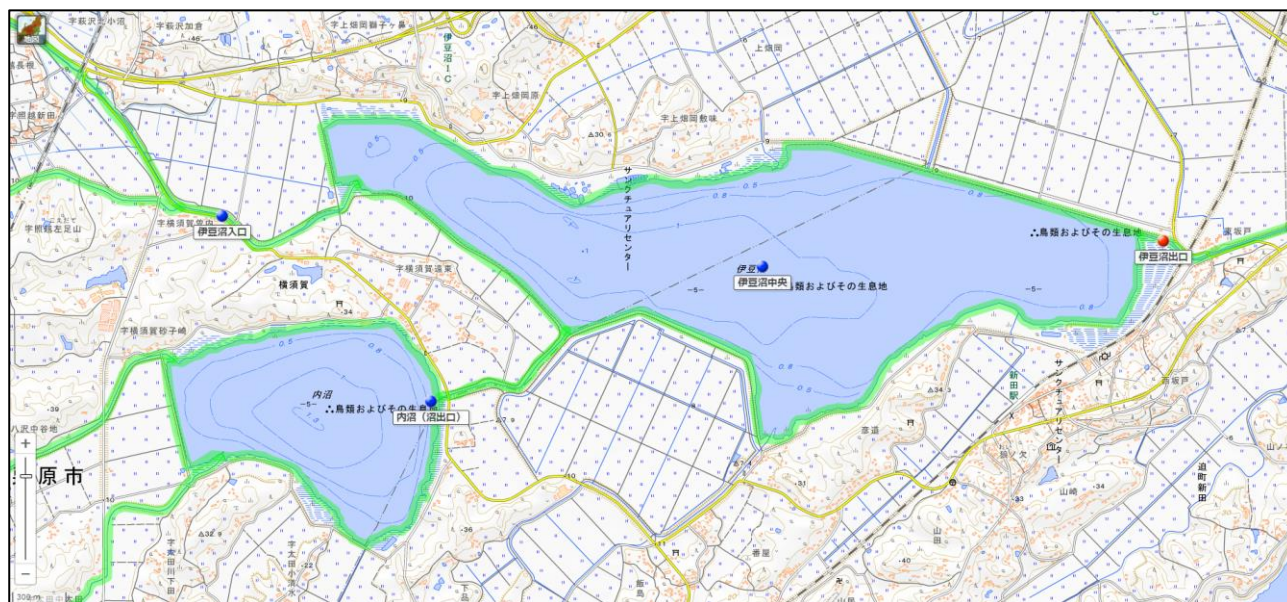


図 3.4-1 伊豆沼の流域概要図

3.4.2 水質の状況

伊豆沼の水質測定地点は、図 3.4-2 に示すとおりである。

伊豆沼の水質測定地点における水質（pH、D₀、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.4-3 及び図 3.4-3 に示すとおりである。



水質測定地点
の凡例

● 環境基準点
● 補助測定点

河川 B 類型、湖沼 B 類型

図 3.4-2 伊豆沼の水質測定地点

表 3.4-3 伊豆沼の水質経年変化

伊豆沼(伊豆沼出口)【生活環境項目:B類型】【全窒素・全磷:類型指定なし】

年度	pH(全層)			COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y		最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	6.9 ～ 7.7	0 / 12		6.8 ～ 15	12 / 12	9.2	9.6	7 ～ 110	7 / 12	28
H27	6.9 ～ 7.8	0 / 12		5.7 ～ 17	12 / 12	8.9	9.1	1 ～ 45	4 / 12	15
H28	6.7 ～ 8.3	0 / 12		7.0 ～ 22	12 / 12	11	11	3 ～ 150	6 / 12	42
H29	6.9 ～ 8.2	0 / 12		8.5 ～ 16	12 / 12	11	13	9 ～ 41	8 / 12	22
H30	6.9 ～ 8.8	1 / 12		8.0 ～ 18	12 / 12	13	14	6 ～ 72	6 / 12	22
R1	6.9 ～ 8.3	0 / 12		7.1 ～ 21	12 / 12	14	15	2 ～ 100	9 / 12	38
R2	6.9 ～ 8.0	0 / 12		8.7 ～ 22	12 / 12	14	16	6 ～ 100	8 / 12	34
R3	6.9 ～ 8.9	2 / 12		7.9 ～ 20	12 / 12	13	15	3 ～ 58	8 / 12	28
R4	6.7 ～ 8.7	1 / 12		8.9 ～ 29	12 / 12	17	20	14 ～ 84	9 / 12	36
R5	6.7 ～ 8.9	2 / 12		12 ～ 33	12 / 12	19	23	9 ～ 130	10 / 12	56

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	3.6 ～ 13	1 / 12	8.9	280 ～ 7,900	—	3,200		—		
H27	2.8 ～ 13	3 / 12	7.9	330 ～ 22,000	—	7,700		—		
H28	3.3 ～ 13	3 / 12	8.4	130 ～ 3,300	—	1,400		—		
H29	2.4 ～ 14	1 / 12	9.9	70 ～ 24,000	—	8,100		—		
H30	3.6 ～ 17	2 / 12	9.7	49 ～ 7,900	—	2,700		—		
R1	2.2 ～ 14	2 / 12	8.8	490 ～ 7,000	—	2,900		—		
R2	3.5 ～ 13	2 / 12	9.1	490 ～ 79,000	—	34,000		—		
R3	2.6 ～ 13	1 / 12	9.2	1,400 ～ 11,000	—	4,900		—		
R4	4.1 ～ 15	3 / 12	8.9	170 ～ 540,000	—	180,000	9 ～ 26,000	—	8,700	26,000
R5	3.3 ～ 14	2 / 12	9.2	700 ～ 110,000	—	43,000	41 ～ 1,200	—	470	1,200

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.50 ～ 1.4	—	0.81	0.038 ～ 0.10	—	0.072
H27	0.53 ～ 2.0	—	0.89	0.048 ～ 0.19	—	0.093
H28	0.55 ～ 3.0	—	1.4	0.057 ～ 0.27	—	0.13
H29	0.43 ～ 2.0	—	1.0	0.061 ～ 0.14	—	0.11
H30	0.52 ～ 2.1	—	1.1	0.059 ～ 0.15	—	0.096
R1	0.47 ～ 2.4	—	1.2	0.041 ～ 0.21	—	0.098
R2	0.46 ～ 1.9	—	1.2	0.048 ～ 0.22	—	0.091
R3	0.50 ～ 2.3	—	1.2	0.044 ～ 0.14	—	0.082
R4	0.45 ～ 2.5	—	1.2	0.037 ～ 0.31	—	0.11
R5	0.52 ～ 3.2	—	1.5	0.032 ～ 0.29	—	0.11

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—		1.9 ～ 4.8	—	3.4	3.9
H27		—		1.0 ～ 9.2	—	4.0	4.7
H28		—		0.9 ～ 10	—	4.3	5.2
H29		—		3.0 ～ 8.2	—	5.4	6.7
H30		—		2.2 ～ 11	—	6.4	7.8
R1		—		0.8 ～ 10	—	6.2	9.1
R2		—		2.3 ～ 17	—	7.2	7.6
R3		—		1.5 ～ 17	—	7.6	8.7
R4		—		3.3 ～ 17	—	9.1	11
R5		—		1.9 ～ 19	—	11	15

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

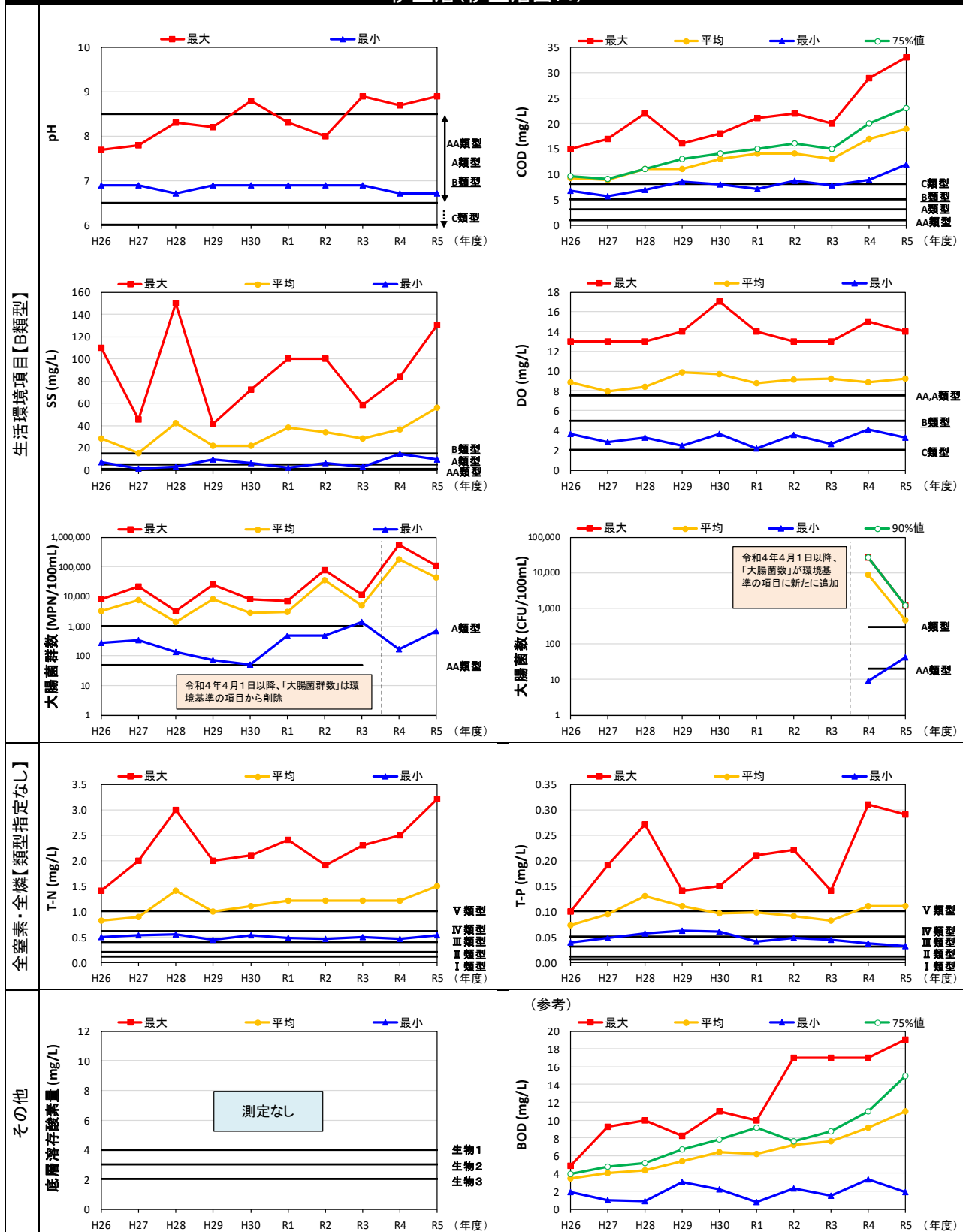
ただし、大腸菌群数及び大腸菌数については、B 類型では基準値が設定されていないため、x/y は全て「—」とした。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

伊豆沼(伊豆沼出口)



データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

伊豆沼の N/P 比は、図 3.4-4 に示すとおりである。

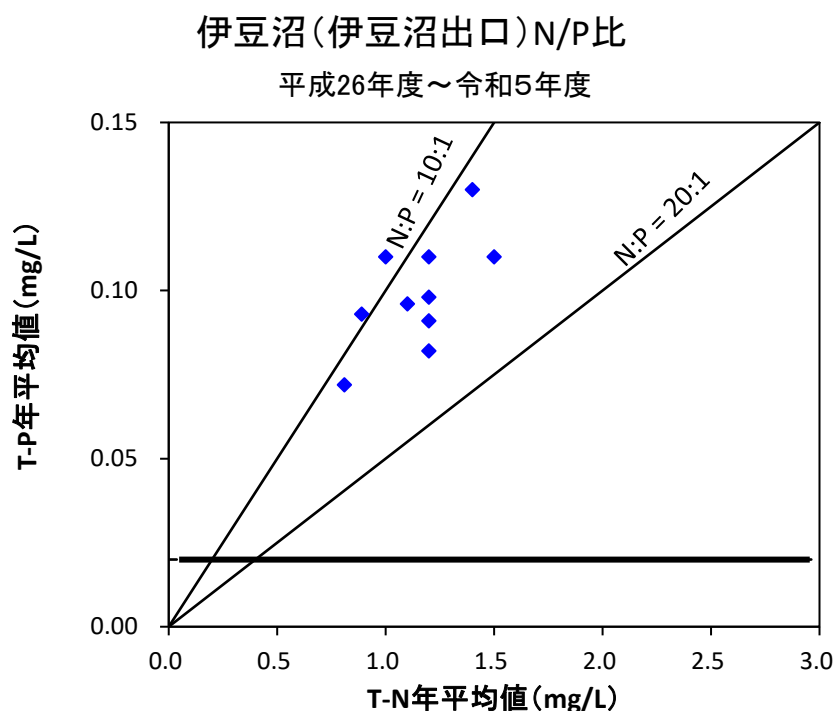


図 3.4-4 伊豆沼の N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.4.3 伊豆沼の利用状況

灌漑用の貯水や洪水調整の遊水地として利用されている。

出典：「伊豆沼・内沼自然再生協議会」（環境省 HP、<https://www.env.go.jp/nature/saisei/kyougi/izunuma/>）

3.5 長沼ダム

3.5.1 長沼ダムの概要

長沼ダムは、元々天然湖沼であった長沼の堤防を嵩上げた人工湖沼である。2014年に「洪水調節」、「流水の正常な機能の維持」、「レクリエーション（湖面の有効利用）」を目的とした多目的ダムとなっている。

長沼ダムの概要は表 3.5-1 に、諸元は表 3.5-2 に、流域概要は図 3.5-1 に示すとおりである。

長沼ダムにおける主な洪水調節は、間接流域である迫川からの洪水を幅 580 メートルの越流堤によって導水し、延長 2.7 キロメートルの導水路を経て長沼に流入させることを行っている。そのため、洪水時と通常時で流域が異なる。

表 3.5-1 長沼ダムの概要

名称	長沼ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県登米市迫町北方地先
流入河川名	北上川水系 迫川
集水面積	直接 16.0 間接 570.0 (km ²)
環境基準類型	B、生物 A

出典：1. 「長沼ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmdbk/naganuma-dam-gaiyou.html>)

2. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.5-2 長沼ダムの諸元

堤頂長	1,050 (m)
堤高	15.3 (m)
総貯水容量	31,800 (千 m ³)
有効貯水容量	30,600 (千 m ³)
滞留時間	—

出典：「長沼ダム」(ダム便覧 HP、<http://damnet.or.jp/cgi-bin/binranA/All.cgi?db4=0306>)

注：長沼ダムには流量計測設備がなく、平常時の流入量・放流量のデータが存在しないため、滞留時間は記載していない。

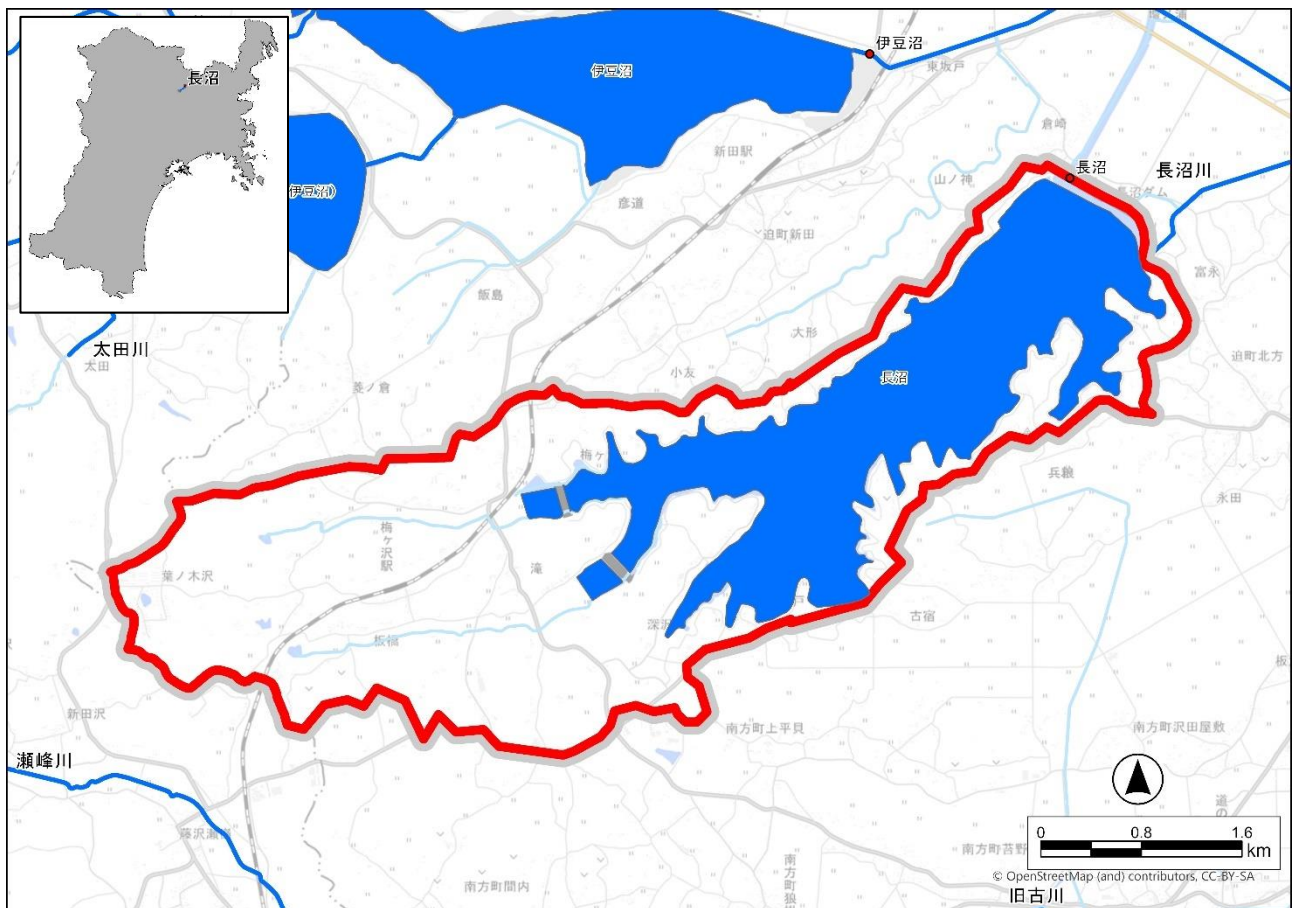


図 3.5-1 (1) 長沼ダムの流域概要図（直接流域のみ）

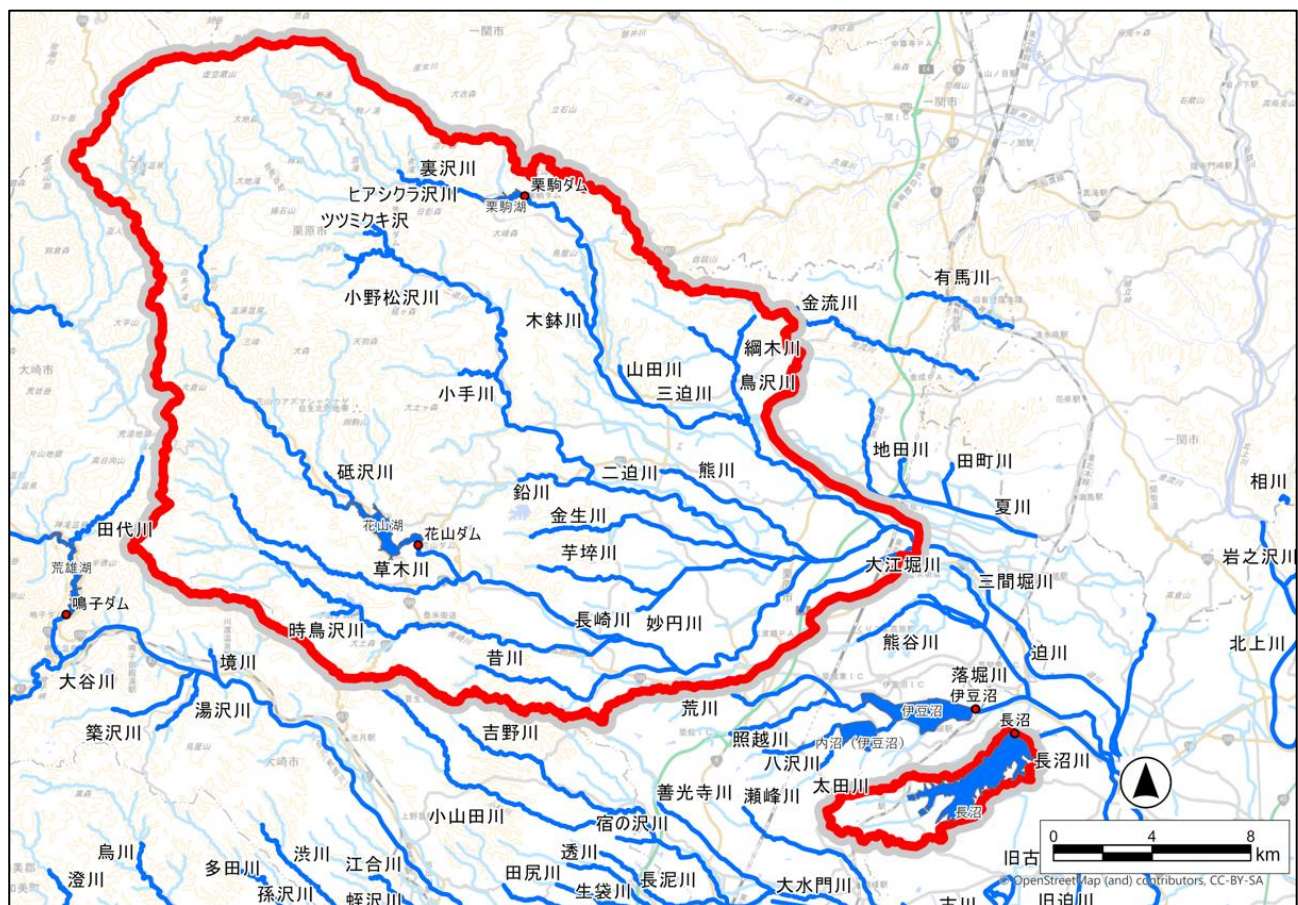
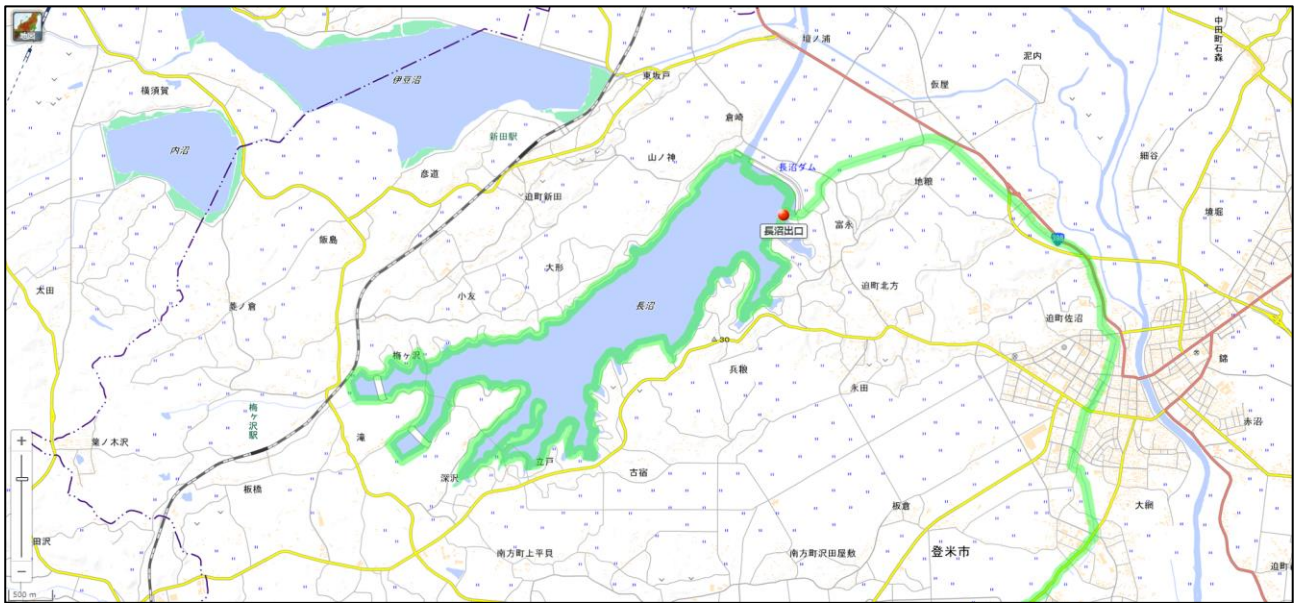


図 3.5-1 (2) 長沼ダムの流域概要図（間接流域含む）

3.5.2 水質の状況

長沼ダムの水質測定地点は、図 3.5-2 に示すとおりである。

長沼ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.5-3 及び図 3.5-3 に示すとおりである。



水質測定地点
の凡例

● 環境基準点

河川B類型、湖沼B類型

図 3.5-2 長沼ダムの水質測定地点

表 3.5-3 長沼ダムの水質経年変化

長沼(長沼出口)【生活環境項目:B類型】【全窒素・全燐:類型指定なし】

年度	pH(全層)			COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y		最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	6.8 ～ 7.6	0 / 12		4.5 ～ 14	10 / 12	8.0	8.8	2 ～ 48	2 / 12	12
H27	6.9 ～ 7.6	0 / 12		5.5 ～ 20	12 / 12	9.1	8.6	1 ～ 30	4 / 12	12
H28	7.0 ～ 7.6	0 / 12		3.4 ～ 9.0	11 / 12	7.5	8.2	1 ～ 7	0 / 12	3
H29	7.0 ～ 7.8	0 / 12		5.5 ～ 8.3	12 / 12	6.8	7.1	1 ～ 4	0 / 12	2
H30	7.0 ～ 7.7	0 / 12		5.9 ～ 8.6	12 / 12	7.4	7.9	1 ～ 5	0 / 12	3
R1	7.1 ～ 7.8	0 / 12		6.5 ～ 9.0	12 / 12	8.1	8.7	2 ～ 12	0 / 12	5
R2	7.0 ～ 7.9	0 / 11		7.3 ～ 13	11 / 11	10	12	3 ～ 28	3 / 11	11
R3	7.2 ～ 8.0	0 / 12		8.2 ～ 13	12 / 12	9.5	9.8	3 ～ 23	2 / 12	9
R4	7.0 ～ 7.8	0 / 12		8.9 ～ 13	12 / 12	10	10	3 ～ 19	1 / 12	8
R5	7.1 ～ 7.8	0 / 12		9.3 ～ 17	12 / 12	12	13	3 ～ 15	0 / 12	10

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	3.8 ～ 13	1 / 12	8.6	33 ～ 13,000	—	4,600		—		
H27	3.5 ～ 13	1 / 12	8.8	9 ～ 13,000	—	4,500		—		
H28	4.7 ～ 13	1 / 12	8.4	13 ～ 33,000	—	11,000		—		
H29	3.0 ～ 13	1 / 12	8.8	63 ～ 1,300	—	480		—		
H30	4.5 ～ 12	2 / 12	8.2	23 ～ 3,300	—	1,200		—		
R1	3.7 ～ 13	1 / 12	9.0	49 ～ 4,900	—	2,100		—		
R2	5.4 ～ 12	0 / 11	8.8	940 ～ 3,500	—	2,200		—		
R3	6.5 ～ 13	0 / 12	9.6	49 ～ 79,000	—	27,000		—		
R4	3.5 ～ 12	1 / 12	8.5	79 ～ 2,400	—	1,300	1 ～ 130	—	52	130
R5	5.4 ～ 11	0 / 12	8.2	170 ～ 22,000	—	12,000	10 ～ 36	—	20	36

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.35 ～ 1.3	—	0.63	0.014 ～ 0.20	—	0.058
H27	0.53 ～ 2.1	—	0.88	0.021 ～ 0.36	—	0.12
H28	0.39 ～ 0.63	—	0.48	0.019 ～ 0.055	—	0.030
H29	0.35 ～ 0.70	—	0.43	0.018 ～ 0.054	—	0.032
H30	0.36 ～ 0.55	—	0.41	0.019 ～ 0.041	—	0.030
R1	0.33 ～ 0.78	—	0.50	0.019 ～ 0.054	—	0.031
R2	0.41 ～ 1.1	—	0.67	0.023 ～ 0.073	—	0.042
R3	0.38 ～ 0.87	—	0.55	0.020 ～ 0.085	—	0.035
R4	0.53 ～ 1.0	—	0.66	0.026 ～ 0.067	—	0.038
R5	0.50 ～ 0.90	—	0.70	0.028 ～ 0.073	—	0.043

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—		1.3 ～ 6.1	—	3.3	3.6
H27		—		0.5 ～ 12	—	3.4	3.2
H28		—		0.8 ～ 3.0	—	1.8	2.1
H29		—		0.8 ～ 2.5	—	1.6	2.2
H30		—		1.0 ～ 2.9	—	1.6	1.9
R1		—		1.0 ～ 3.8	—	2.1	2.5
R2		—		1.4 ～ 7.3	—	3.5	5.4
R3		—		2.0 ～ 4.4	—	2.9	3.4
R4		—		2.0 ～ 5.7	—	3.0	3.3
R5		—		2.0 ～ 5.3	—	3.1	3.3

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

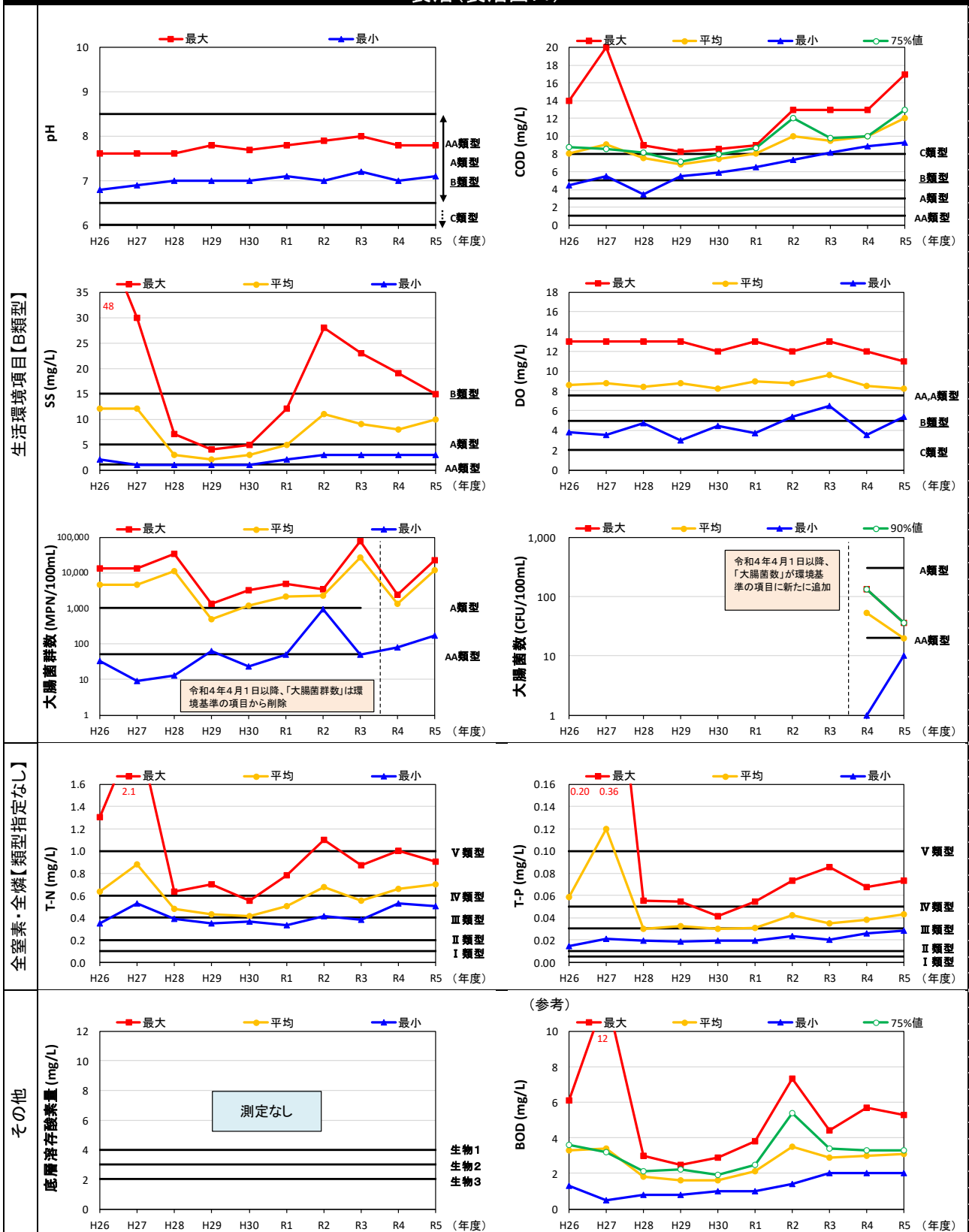
ただし、大腸菌群数及び大腸菌数については、B 類型では基準値が設定されていないため、x/y は全て「—」とした。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

長沼(長沼出口)



データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

長沼ダムの N/P 比は、図 3.5-4 に示すとおりである。

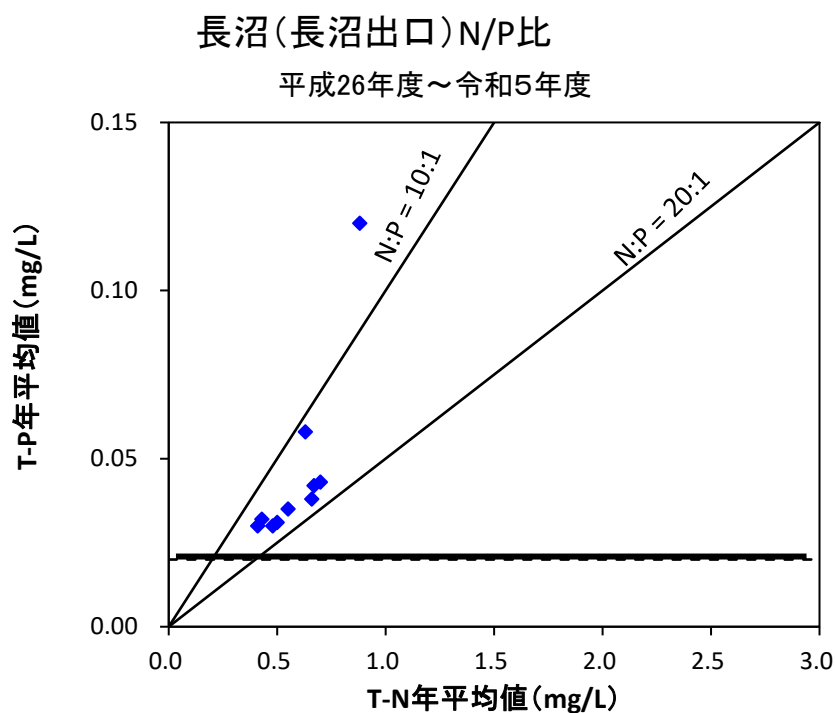


図 3.5-4 長沼ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
（「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.5.3 長沼ダムの利用目的と利用状況

長沼ダムの利用目的と利用状況は、表 3.5-4 及び表 3.5-5 に示すとおりである。

表 3.5-4 長沼ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○						○

出典：「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/194/2022>)

表 3.5-5 長沼ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
レクリエーション	—	—	・湖面の有効利用として、アジアボート選手権大会（1999 年）等の大規模な大会に利用されている。

出典：「長沼ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmdbk/naganuma-dam-gaiyou.html>)

なお、先述した通り長沼ダムは洪水時のみ迫川の水を越流堤によって導水し、延長 2.7 キロメートルの導水路を経て長沼に流入させることで洪水調節を行うが、令和 6 年現在、洪水調節を行ったのは平成 27 年 9 月の 1 回のみである。

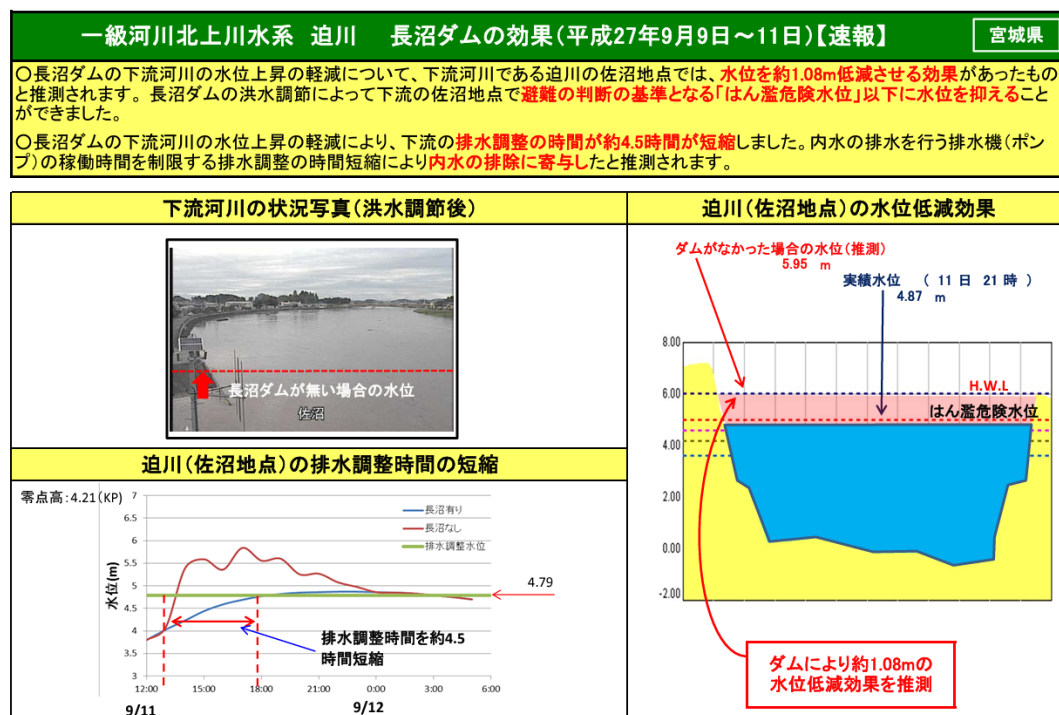


図 3.5-5 長沼ダムの洪水時運用 (平成 27 年 9 月 11 日)

出典：「一級河川北上川水系 迫川 長沼ダムの効果」(宮城県 HP)

(<https://www.pref.miyagi.jp/documents/13607/637975.pdf>)

3.6 漆沢ダム

3.6.1 漆沢ダムの概要

漆沢ダムの概要は表 3.6-1 に、諸元は表 3.6-2 に、流域概要は図 3.6-1 に示すとおりである。
貯水状況は図 3.6-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位 EL は 270.50m となっている。

なお、漆沢ダムは現在鳴瀬川総合開発事業において洪水調節専用ダムとして再開発が進められており、令和 18 年度に竣工予定である。このため、類型指定の対象となる水域は消失する。

表 3.6-1 漆沢ダムの概要

名称	漆沢ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県加美郡加美町漆沢
流入河川名	鳴瀬川水系 鳴瀬川
集水面積	58.9 (km ²)
環境基準類型	AA、生物 A

出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料
2. 「漆沢ダムの概要」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/dam-urusizawa.html>)
3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.6-2 漆沢ダムの諸元

堤頂長	310.0 (m)
堤高	80.0 (m)
総貯水容量	18,000 (千 m ³)
有効貯水容量	16,000 (千 m ³)
滞留時間	44 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 25 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。
データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」
(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/182/2022>)

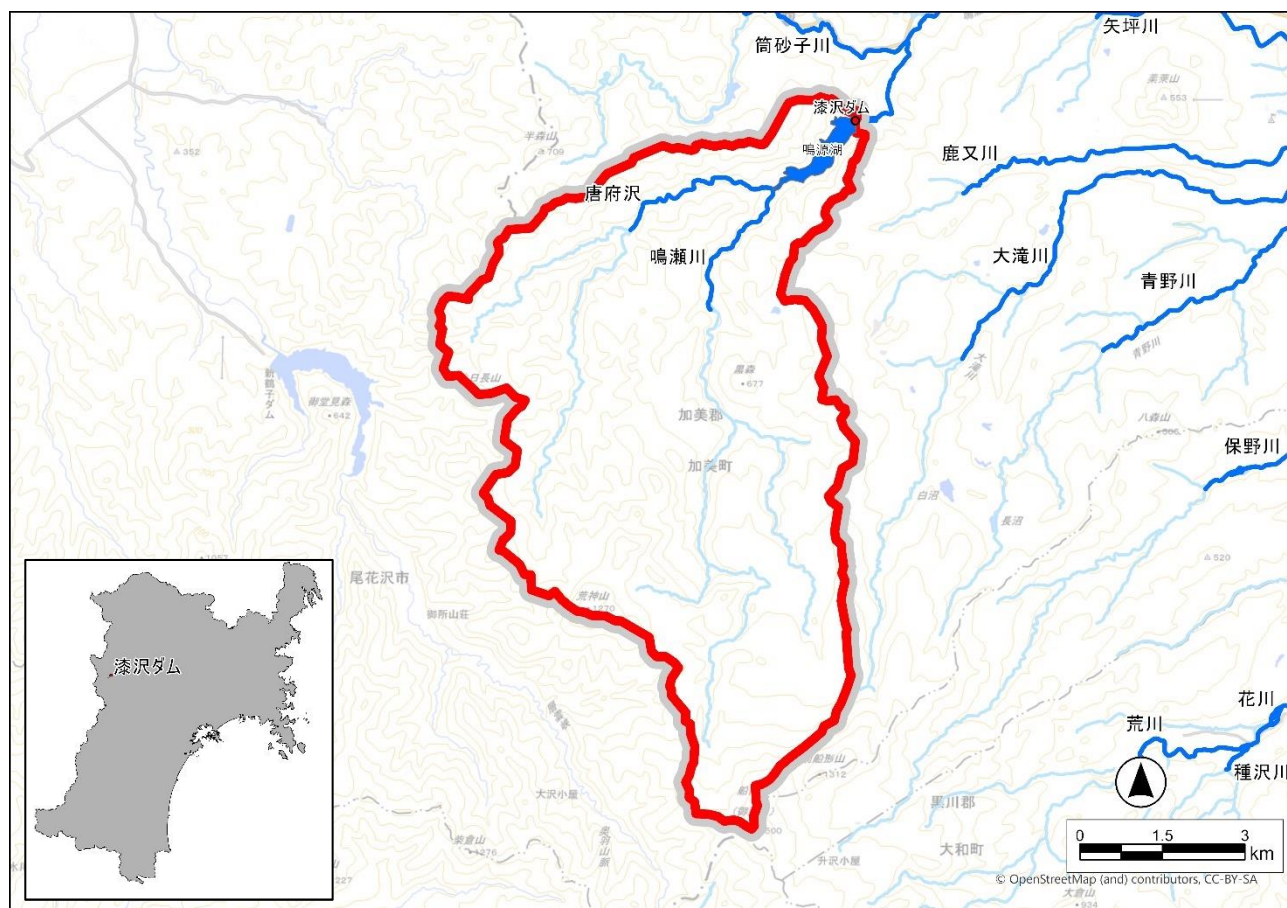


図 3.6-1 漆沢ダムの流域概要図

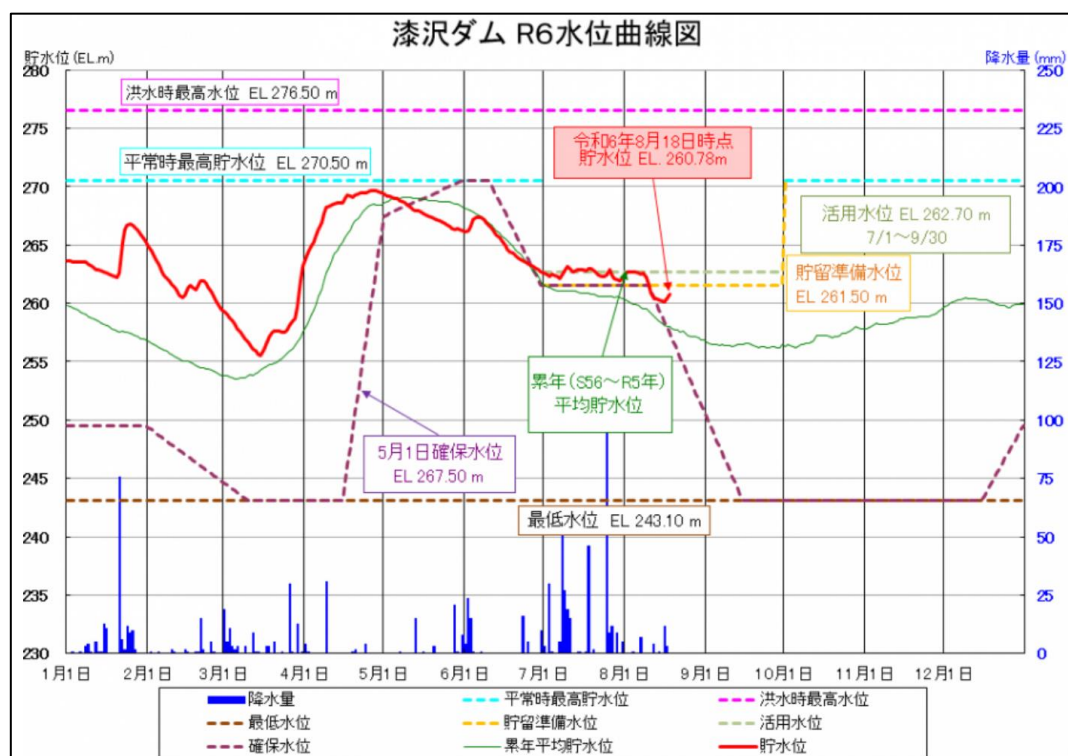


図 3.6-2 漆沢ダム貯水状況

出典：「県内の河川情報 データ一覧 貯水状況 大崎地方のダムの貯水位曲線」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/osdam/tyosui-r6.html#usdam>)

3.6.2 水質の状況

漆沢ダムの水質測定地点は、図 3.6-3 に示すとおりである。

漆沢ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.6-3 及び図 3.6-4 に示すとおりである。

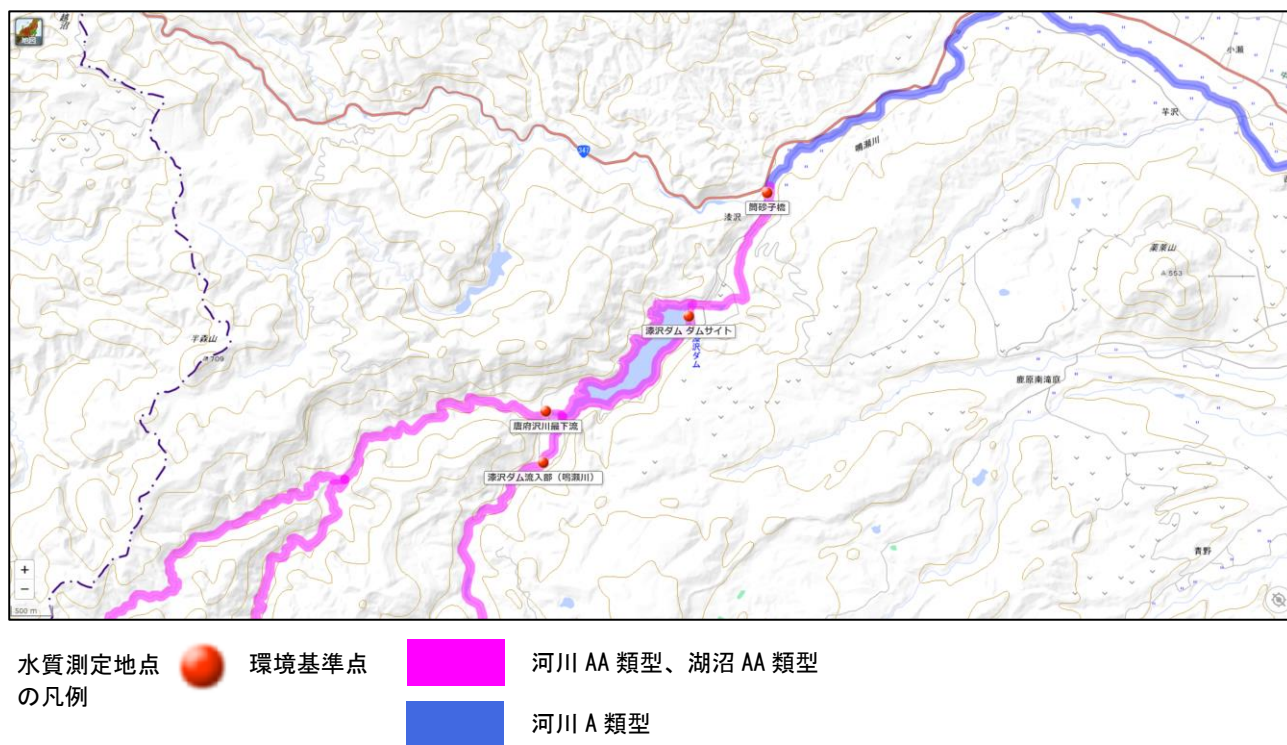


図 3.6-3 漆沢ダムの水質測定地点

表 3.6-3 漆沢ダムの水質経年変化

漆沢ダム(ダムサイト)【生活環境項目:AA類型】【全窒素・全磷:類型指定なし】

年度	pH(全層)			COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y		最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	6.9 ～ 8.0	0 / 9		0.9 ～ 11	8 / 9	3.8	4.3	1 ～ 16	8 / 9	5
H27	6.9 ～ 8.4	0 / 11		0.9 ～ 3.7	10 / 11	2.3	2.5	2 ～ 28	11 / 11	6
H28	7.1 ～ 9.5	1 / 9		1.4 ～ 9.9	9 / 9	3.6	3.4	1 ～ 38	7 / 9	12
H29	6.8 ～ 8.4	0 / 10		1.4 ～ 3.4	10 / 10	2.3	2.8	1 ～ 17	9 / 10	4
H30	7.0 ～ 7.6	0 / 10		1.7 ～ 5.1	10 / 10	3.0	3.3	1 ～ 8	9 / 10	4
R1	7.0 ～ 9.1	1 / 12		1.4 ～ 7.1	12 / 12	2.9	3.5	1 ～ 20	10 / 12	5
R2	7.1 ～ 9.1	1 / 10		1.3 ～ 11	10 / 10	3.3	3.6	1 ～ 24	9 / 10	7
R3	7.0 ～ 9.9	1 / 9		1.6 ～ 12	9 / 9	3.8	3.8	1 ～ 19	7 / 9	5
R4	6.8 ～ 8.7	1 / 10		1.8 ～ 4.6	10 / 10	3.0	3.6	2 ～ 26	10 / 10	6
R5	7.2 ～ 8.1	0 / 12		1.5 ～ 4.6	12 / 12	2.7	3.2	1 ～ 4	11 / 12	3

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	8.9 ～ 12	0 / 9	10	17 ～ 13,000	7 / 9	2,700		—		
H27	8.4 ～ 13	0 / 11	11	5 ～ 3,300	5 / 11	470		—		
H28	8.6 ～ 12	0 / 9	10	8 ～ 4,900	4 / 9	660		—		
H29	9.0 ～ 12	0 / 10	10	2 ～ 7,900	3 / 10	970		—		
H30	9.4 ～ 12	0 / 10	11	17 ～ 2,200	6 / 10	440		—		
R1	8.8 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 7,900	6 / 12	1,100		—		
R2	7.1 ～ 12	1 / 10	10	26 ～ 7,900	8 / 10	1,700		—		
R3	7.6 ～ 14	0 / 9	10	33 ～ 4,900	7 / 9	1,600		—		
R4	5.9 ～ 13	1 / 10	10	13 ～ 17,000	—	2,600	1 ～ 10	0 / 10	3	6
R5	8.3 ～ 13	0 / 12	11	5 ～ 4,900	—	1,000	1 ～ 17	0 / 12	4	16

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.15 ～ 0.78	—	0.32	0.010 ～ 0.040	—	0.022
H27	0.07 ～ 0.49	—	0.21	0.016 ～ 0.069	—	0.028
H28	0.08 ～ 1.2	—	0.30	0.007 ～ 0.067	—	0.033
H29	0.08 ～ 0.32	—	0.14	0.016 ～ 0.037	—	0.024
H30	0.08 ～ 0.42	—	0.19	0.016 ～ 0.046	—	0.029
R1	0.06 ～ 0.77	—	0.23	0.013 ～ 0.052	—	0.027
R2	0.05 ～ 2.1	—	0.39	0.005 ～ 0.15	—	0.035
R3	0.05 ～ 1.6	—	0.31	0.009 ～ 0.073	—	0.024
R4	0.05 ～ 0.34	—	0.16	0.006 ～ 0.027	—	0.018
R5	0.05 ～ 0.35	—	0.15	0.007 ～ 0.028	—	0.017

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—		0.5 ～ 4.5	—	1.4	1.6
H27		—		0.5 ～ 1.8	—	0.9	1.1
H28		—		0.5 ～ 5.8	—	1.4	1.5
H29		—		0.5 ～ 1.5	—	0.8	1.0
H30		—		0.5 ～ 2.5	—	1.0	1.0
R1		—		0.5 ～ 2.9	—	1.0	0.9
R2		—		0.5 ～ 10	—	1.8	1.1
R3		—		0.5 ～ 4.0	—	1.2	1.0
R4		—		0.5 ～ 3.3	—	1.3	1.5
R5		—		0.5 ～ 1.7	—	0.9	1.1

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

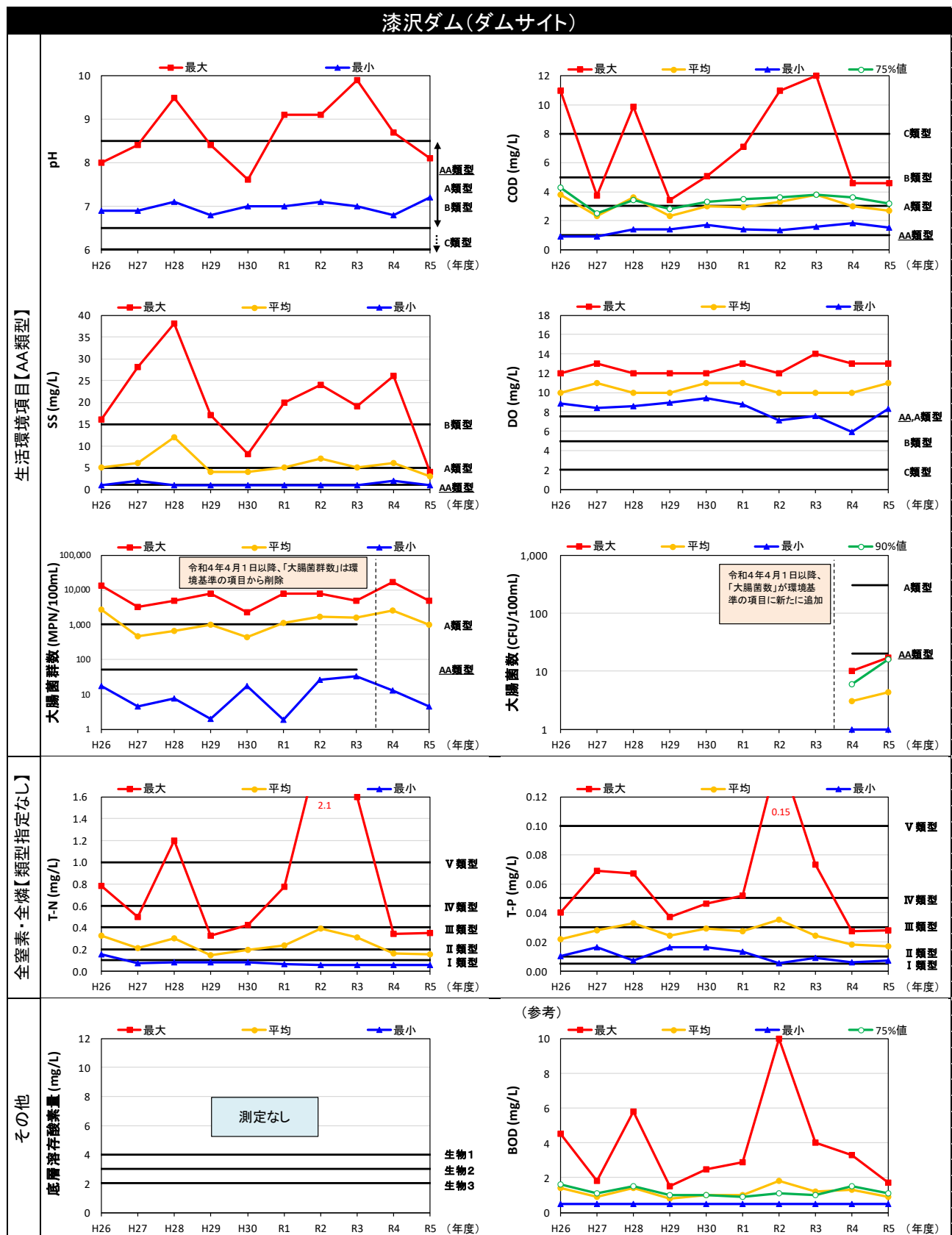


図 3.6-4 漆沢ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

漆沢ダム（ダムサイト）N/P 比は、図 3.6-5 に示すとおりである。

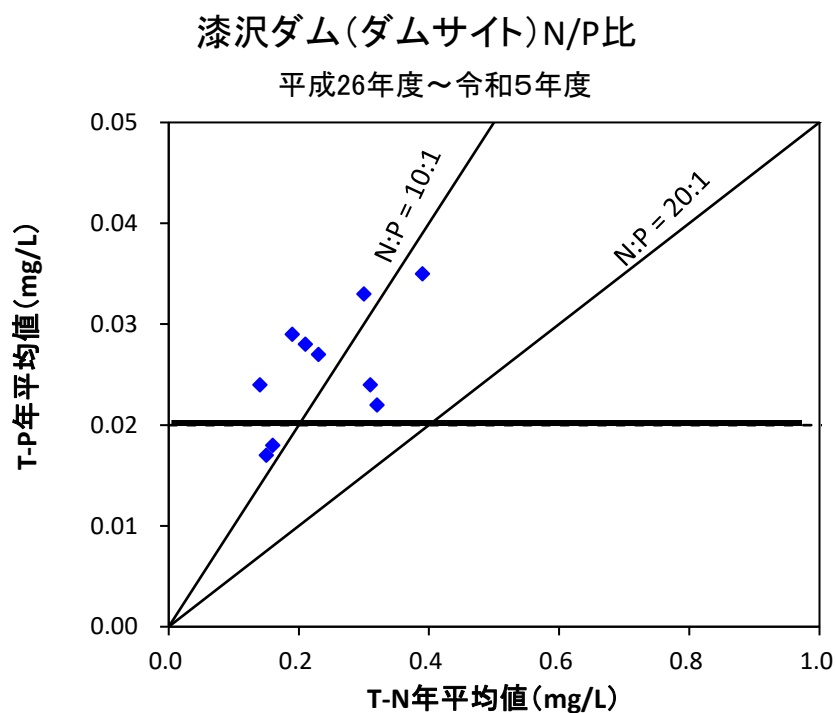


図 3.6-5 漆沢ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.6.3 漆沢ダムの利用目的と利用状況

漆沢ダムの利用目的と利用状況は、表 3.6-4 及び表 3.6-5 に示すとおりである。

表 3.6-4 漆沢ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○		○	○	○		

出典：「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/182/2022>)

表 3.6-5 漆沢ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
上水道用水	—	—	・大崎地区、黒川地区（大崎市他 9 町村）及び松島町へ日最大 90,000m ³ を供給している。
工業用水	—	—	・大崎地区、黒川地区へ日最大 60,000m ³ を供給している。
発電	東北電力株式会社	—	・最大出力 3,000kW で発電。

出典：「漆沢ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/dam-urusizawa.html>)

3.7 南川ダム

3.7.1 南川ダムの概要

南川ダムの概要は表 3.7-1 に、諸元は表 3.7-2 に、流域概要は図 3.7-1 に示すとおりである。
貯水状況は図 3.7-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 97.60m となっている。

表 3.7-1 南川ダムの概要

名称	南川ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県黒川郡大和町鎌房北
流入河川名	鳴瀬川水系 南川
集水面積	22.5 (km ²)
環境基準類型	A、Ⅱ、生物 A

出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料
2. 「南川ダムの概要」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/dam-minamikawa.html>)
3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.7-2 南川ダムの諸元

堤頂長	355.0 (m)
堤高	46.0 (m)
総貯水容量	10,000 (千 m ³)
有効貯水容量	9,200 (千 m ³)
滞留時間	130 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 23～26 年、28 年、平成 30 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。※平成 27 年、29 年はデータなし

データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/183/2022>)

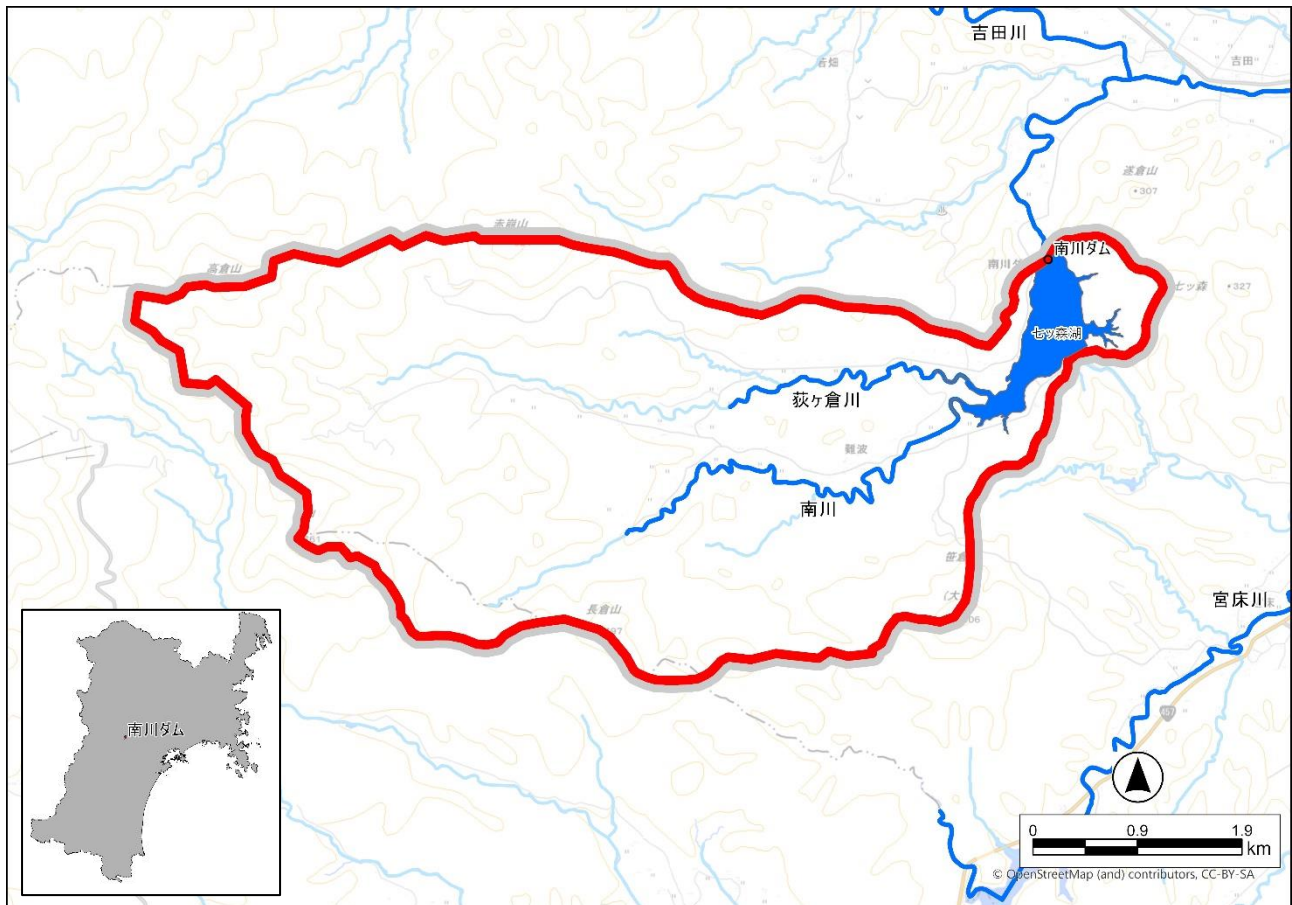


図 3.7-1 南川ダムの流域概要図

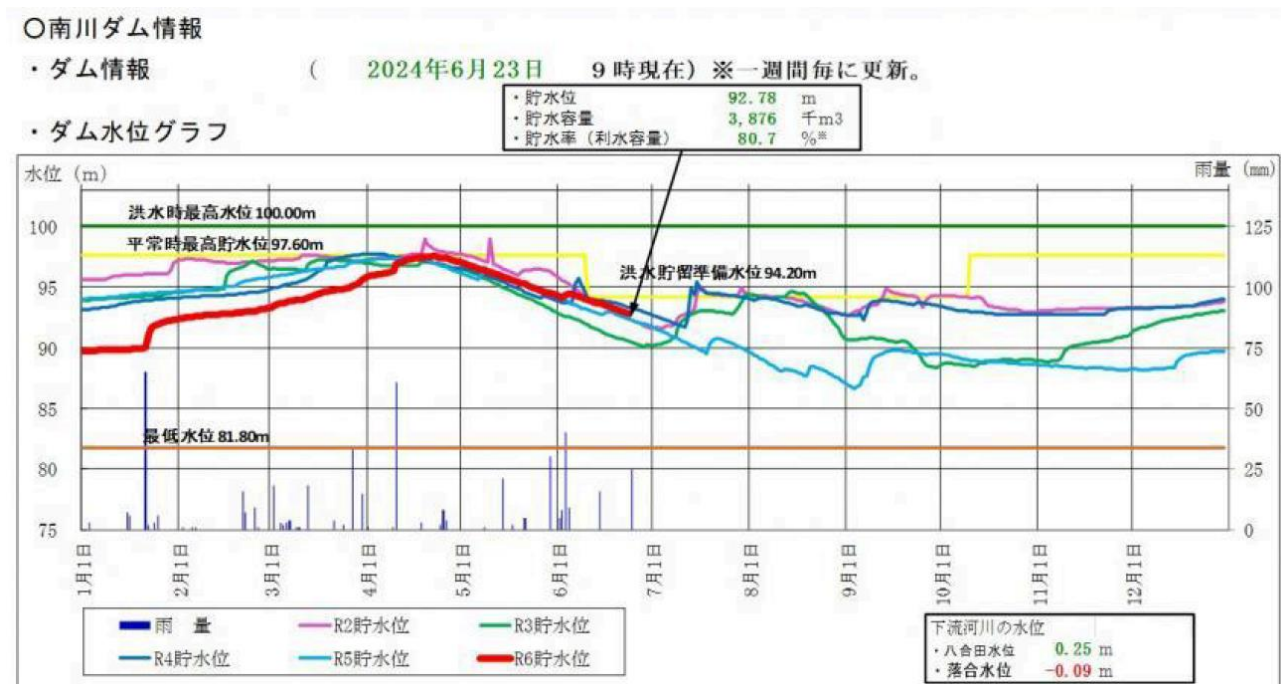


図 3.7-2 南川ダムの貯水状況

出典：「県内の河川情報 データー一覧 貯水状況 令和 6 年南川ダム貯水位グラフ」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/r4-1-minami-tyosuii.html>)

3.7.2 水質の状況

南川ダムの水質測定地点は、図 3.7-3 に示すとおりである。

南川ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.7-3 及び図 3.7-4 に示すとおりである。



図 3.7-3 南川ダムの水質測定地点

表 3.7-3 南川ダムの水質経年変化

南川ダム(ダムサイト)【生活環境項目:A類型】【全窒素・全燐:Ⅱ類型】

年度	pH(全層)		COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y	最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	7.0 ～ 8.2	0 / 12	2.1 ～ 6.2	7 / 12	3.4	3.6	1 ～ 6	1 / 12	3
H27	7.0 ～ 7.9	0 / 12	2.1 ～ 4.7	6 / 12	3.2	3.7	2 ～ 19	4 / 12	6
H28	7.1 ～ 7.8	0 / 12	1.4 ～ 4.1	1 / 12	2.7	2.9	1 ～ 7	1 / 12	3
H29	7.1 ～ 7.7	0 / 12	2.2 ～ 3.7	5 / 12	2.9	3.1	1 ～ 3	0 / 12	2
H30	7.2 ～ 8.1	0 / 12	2.2 ～ 4.7	7 / 12	3.3	3.6	1 ～ 5	0 / 12	2
R1	7.2 ～ 8.0	0 / 12	2.0 ～ 3.8	7 / 12	3.2	3.6	1 ～ 16	4 / 12	5
R2	7.3 ～ 7.8	0 / 12	2.3 ～ 4.2	4 / 12	2.9	3.2	1 ～ 5	0 / 12	2
R3	7.3 ～ 8.0	0 / 12	1.9 ～ 4.2	6 / 12	3.1	3.5	1 ～ 5	0 / 12	2
R4	7.3 ～ 8.6	1 / 12	2.6 ～ 4.4	7 / 12	3.4	3.8	1 ～ 5	0 / 12	3
R5	7.3 ～ 7.8	0 / 12	2.7 ～ 4.5	8 / 12	3.4	3.6	1 ～ 5	0 / 12	3

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	8.5 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 3,300	1 / 12	340		—		
H27	8.3 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 3,300	2 / 12	460		—		
H28	8.2 ～ 12	0 / 12	9.9	2 ～ 2,800	2 / 12	360		—		
H29	8.0 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 790	0 / 12	140		—		
H30	8.4 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 4,900	1 / 12	510		—		
R1	8.0 ～ 12	0 / 12	10	2 ～ 17,000	4 / 12	2,300		—		
R2	8.1 ～ 13	0 / 12	10	5 ～ 49,000	3 / 12	6,300		—		
R3	8.3 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 7,900	2 / 12	940		—		
R4	8.4 ～ 13	0 / 12	10	5 ～ 4,900	—	1,100	1 ～ 11	0 / 12	3	6
R5	8.2 ～ 13	0 / 12	10	13 ～ 4,900	—	1,000	1 ～ 4	0 / 12	2	3

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.29 ～ 0.75	12 / 12	0.45	0.011 ～ 0.030	12 / 12	0.018
H27	0.30 ～ 0.67	12 / 12	0.43	0.014 ～ 0.041	12 / 12	0.025
H28	0.19 ～ 0.35	11 / 12	0.29	0.013 ～ 0.023	12 / 12	0.017
H29	0.22 ～ 0.50	12 / 12	0.32	0.009 ～ 0.021	10 / 12	0.016
H30	0.20 ～ 0.39	11 / 12	0.28	0.007 ～ 0.021	8 / 12	0.015
R1	0.17 ～ 0.57	10 / 12	0.36	0.010 ～ 0.026	11 / 12	0.016
R2	0.18 ～ 0.39	11 / 12	0.28	0.008 ～ 0.026	7 / 12	0.013
R3	0.16 ～ 0.32	10 / 12	0.25	0.007 ～ 0.070	9 / 12	0.018
R4	0.10 ～ 0.36	9 / 12	0.25	0.007 ～ 0.020	7 / 12	0.013
R5	0.18 ～ 0.47	10 / 12	0.31	0.008 ～ 0.022	9 / 12	0.014

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—		0.6 ～ 1.7	—	1.1	1.2
H27		—		0.5 ～ 2.3	—	1.1	1.5
H28		—		0.5 ～ 1.6	—	0.8	0.8
H29		—		0.7 ～ 1.8	—	1.0	1.1
H30		—		0.5 ～ 1.6	—	0.9	0.8
R1		—		0.5 ～ 1.3	—	0.7	0.8
R2		—		0.5 ～ 2.0	—	0.7	0.8
R3		—		0.5 ～ 1.3	—	0.8	1.1
R4		—		0.5 ～ 2.7	—	1.1	1.4
R5		—		0.5 ～ 1.2	—	0.8	0.9

注 1) x : 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y : 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典 : 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

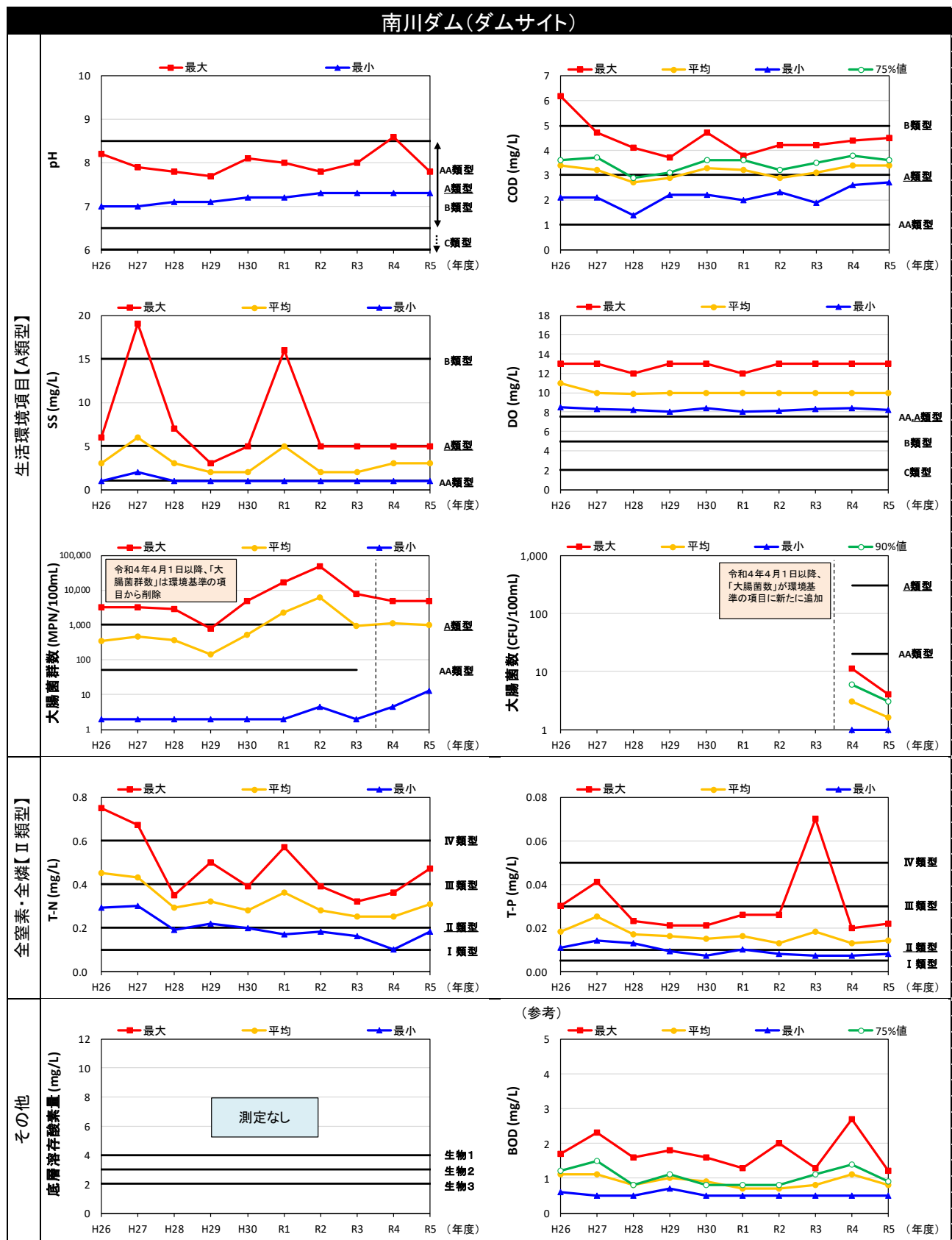


図 3.7-4 南川ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

南川ダムの N/P 比は、図 3.7-5 に示すとおりである。

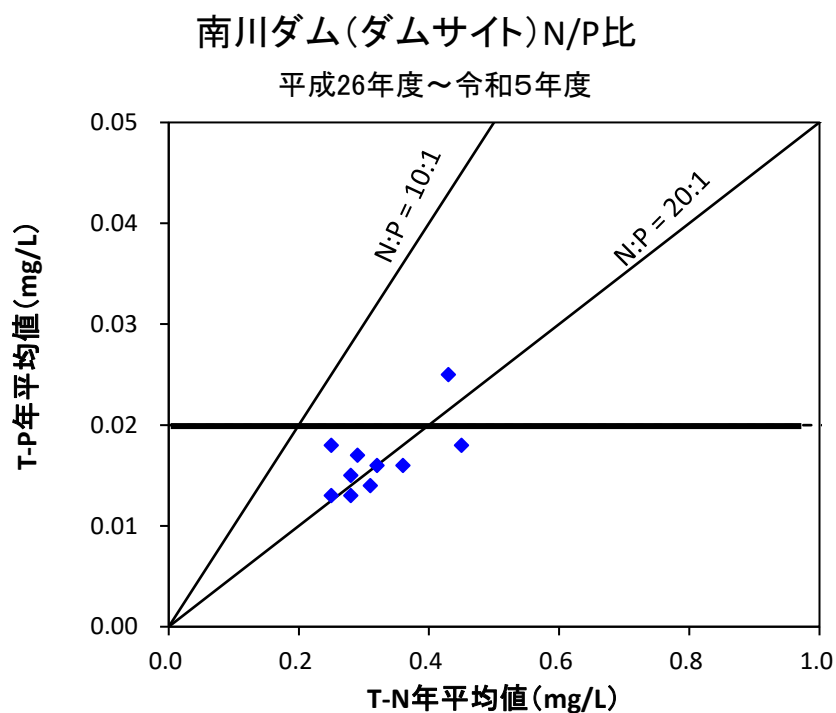


図 3.7-5 南川ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.7.3 南川ダムの利用目的と利用状況

南川ダムの利用目的と利用状況は、表 3.7-4 及び表 3.7-5 に示すとおりである。

表 3.7-4 南川ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○		○		○		

出典：1. 「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/183/2022>)

2. 「南川ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/sdam2454.html>)

表 3.7-5 南川ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
上水道用水	—	—	・大和町・富谷町・大衡村・大郷町・松島町の5町村に、最大40,000m ³ /日の取水を可能にしている。
発電	—	—	・最大220kWの電力を発電・供給している。

出典：「南川ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/sdam2454.html>)

3.8 釜房ダム

3.8.1 釜房ダムの概要

釜房ダムの概要は表 3.8-1 に、諸元は表 3.8-2 に、流域概要は図 3.8-1 に示すとおりである。
貯水状況は図 3.8-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 149.8m となっている。

表 3.8-1 釜房ダムの概要

名称	釜房ダム
管理者	国土交通省東北地方整備局
位置	宮城県柴田郡川崎町
流入河川名	名取川水系 基石川
集水面積	195.3 (km ²)
環境基準類型	AA、生物 A、湖沼Ⅱ

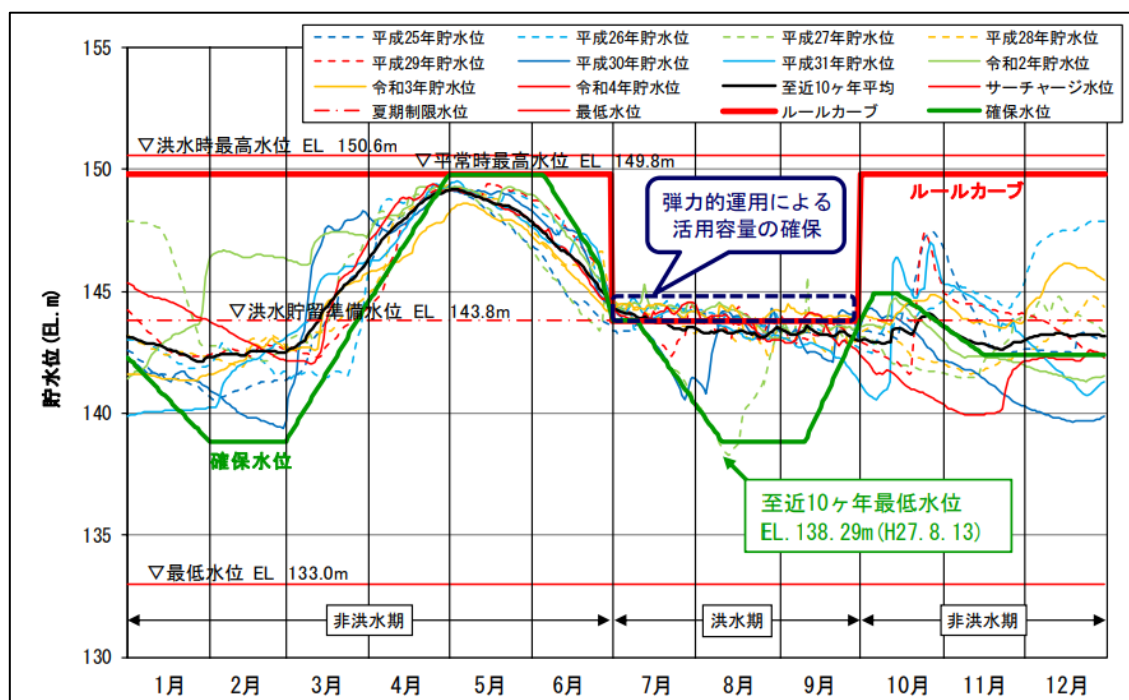
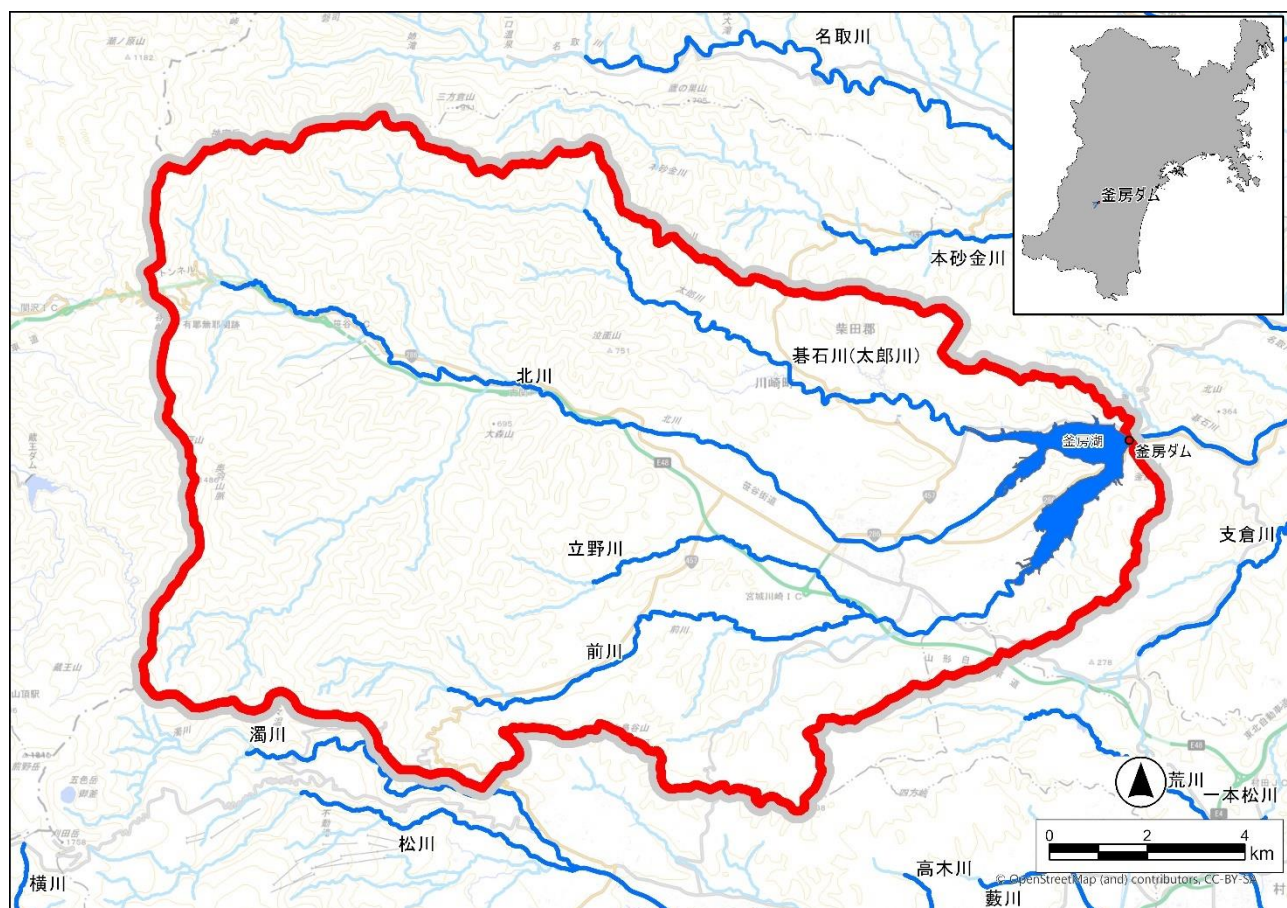
出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料
2. 「釜房ダムの紹介」
(釜房ダム HP、<https://www.thr.mlit.go.jp/kamafusa/dam.html>)
3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.8-2 釜房ダムの諸元

堤頂長	177.0 (m)
堤高	45.5 (m)
総貯水容量	45,300 (千 m ³)
有効貯水容量	39,300 (千 m ³)
滞留時間	49 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 25 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。
データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」
(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/22/2022>)



出典：「令和5年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 釜房ダム 定期報告書（概要版）」
（国土交通省 東北地方整備局、令和6年）

3.8.2 水質の状況

釜房ダムの水質測定地点は、図 3.8-3 に示すとおりである。

釜房ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.8-3 及び図 3.8-4 に示すとおりである。

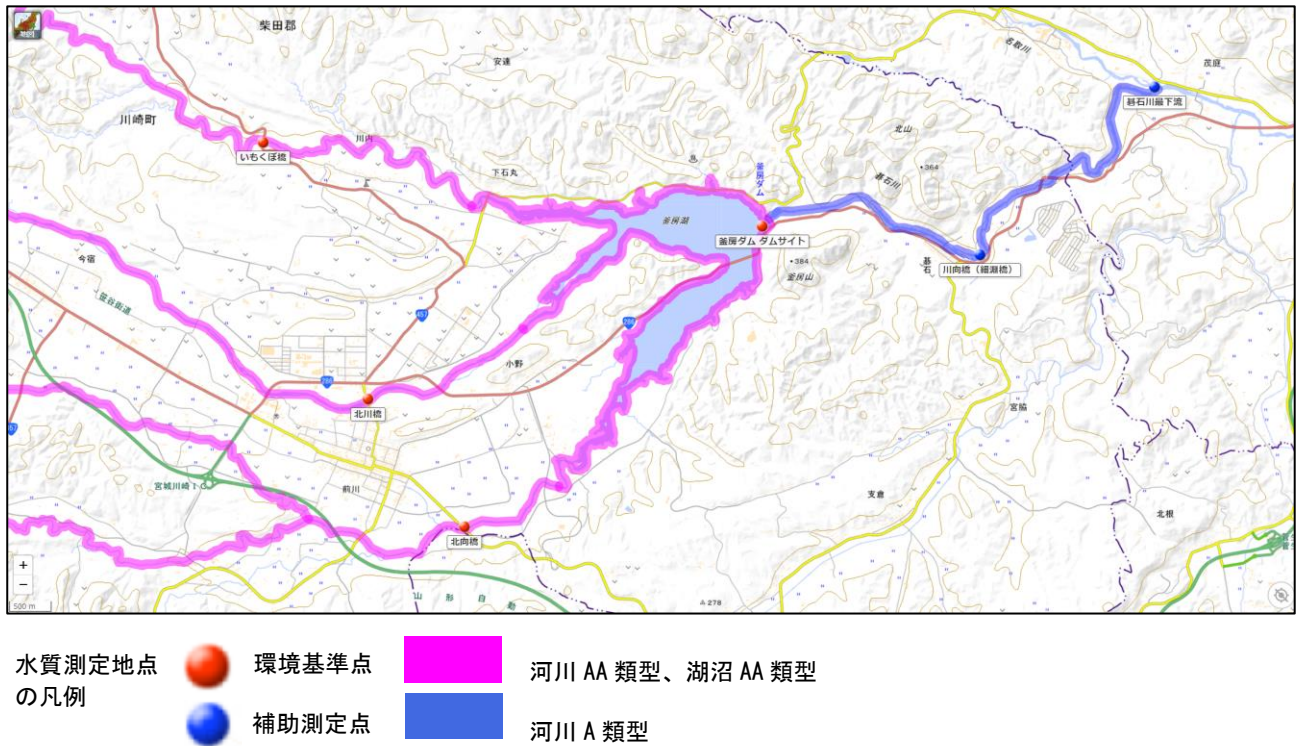


図 3.8-3 釜房ダムの水質測定地点

表 3.8-3 釜房ダムの水質経年変化

釜房ダム(ダムサイト)【生活環境項目:AA類型】【全窒素・全磷:Ⅱ類型】

年度	pH(全層)			COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y		最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	7.2 ～ 7.8	0 / 12		1.9 ～ 3.6	12 / 12	2.7	2.9	3 ～ 17	12 / 12	6
H27	7.0 ～ 7.6	0 / 12		1.8 ～ 5.3	12 / 12	2.8	2.7	3 ～ 13	12 / 12	8
H28	7.1 ～ 7.7	0 / 11		1.7 ～ 2.9	11 / 11	2.3	2.8	2 ～ 15	11 / 11	6
H29	7.0 ～ 7.4	0 / 12		1.5 ～ 3.1	12 / 12	2.1	2.3	3 ～ 8	12 / 12	6
H30	7.2 ～ 7.5	0 / 12		1.3 ～ 3.0	12 / 12	2.2	2.3	4 ～ 10	12 / 12	6
R1	7.1 ～ 7.6	0 / 10		1.4 ～ 3.6	10 / 10	2.5	3.0	3 ～ 9	10 / 10	6
R2	7.2 ～ 7.7	0 / 12		1.8 ～ 2.9	12 / 12	2.4	2.7	4 ～ 11	12 / 12	7
R3	7.2 ～ 7.5	0 / 12		1.9 ～ 3.2	12 / 12	2.5	2.8	3 ～ 8	12 / 12	5
R4	7.2 ～ 7.7	0 / 12		1.8 ～ 2.9	12 / 12	2.4	2.7	3 ～ 11	12 / 12	6
R5	7.1 ～ 7.7	0 / 12		1.7 ～ 3.5	12 / 12	2.7	3.2	3 ～ 9	12 / 12	6

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	7.0 ～ 13	1 / 12	10	15 ～ 3,700	9 / 12	1,000		—		
H27	6.9 ～ 13	2 / 12	9.8	21 ～ 29,000	10 / 12	3,000		—		
H28	7.4 ～ 13	1 / 11	10	7 ～ 6,100	8 / 11	1,100		—		
H29	6.3 ～ 13	2 / 12	10	44 ～ 12,000	11 / 12	3,000		—		
H30	6.7 ～ 14	1 / 12	11	7 ～ 5,600	8 / 12	970		—		
R1	6.1 ～ 13	2 / 10	10	12 ～ 21,000	6 / 10	3,300		—		
R2	7.2 ～ 13	1 / 12	10	16 ～ 3,300	8 / 12	990		—		
R3	6.9 ～ 13	1 / 12	10	26 ～ 8,600	8 / 12	2,200		—		
R4	6.6 ～ 13	1 / 12	10		—		1 ～ 42	4 / 12	11	24
R5	6.8 ～ 13	2 / 12	9.3		—		1 ～ 54	1 / 12	9	11

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.43 ～ 0.71	12 / 12	0.52	0.012 ～ 0.030	12 / 12	0.017
H27	0.28 ～ 1.2	12 / 12	0.57	0.010 ～ 0.056	11 / 12	0.022
H28	0.24 ～ 0.51	11 / 11	0.40	0.010 ～ 0.029	10 / 11	0.017
H29	0.35 ～ 0.59	12 / 12	0.46	0.010 ～ 0.037	11 / 12	0.018
H30	0.29 ～ 0.51	12 / 12	0.40	0.012 ～ 0.022	12 / 12	0.018
R1	0.22 ～ 0.47	10 / 10	0.36	0.010 ～ 0.020	9 / 10	0.014
R2	0.27 ～ 0.53	12 / 12	0.40	0.008 ～ 0.023	10 / 12	0.015
R3	0.28 ～ 0.55	12 / 12	0.38	0.009 ～ 0.029	9 / 12	0.015
R4	0.30 ～ 0.58	12 / 12	0.44	0.009 ～ 0.023	11 / 12	0.016
R5	0.36 ～ 0.69	12 / 12	0.50	0.013 ～ 0.028	12 / 12	0.020

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26	4.7 ～ 13	—	9.3	0.8 ～ 2.8	—	1.4	1.4
H27	3.6 ～ 13	—	8.9	0.7 ～ 2.8	—	1.4	1.6
H28	4.6 ～ 13	—	9.6	0.8 ～ 1.8	—	1.2	1.4
H29	3.2 ～ 13	—	9.3	0.5 ～ 1.9	—	0.9	0.8
H30	4.1 ～ 14	—	9.7	0.8 ～ 1.6	—	1.1	1.2
R1	3.6 ～ 13	—	9.4	0.5 ～ 1.8	—	1.0	1.2
R2	4.6 ～ 13	—	9.6	0.6 ～ 1.3	—	0.8	0.8
R3	4.9 ～ 13	—	10	0.7 ～ 1.6	—	1.0	1.1
R4	5.1 ～ 13	—	9.7	0.6 ～ 1.1	—	0.8	0.9
R5	4.5 ～ 13	—	8.6	0.7 ～ 1.5	—	1.0	1.1

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

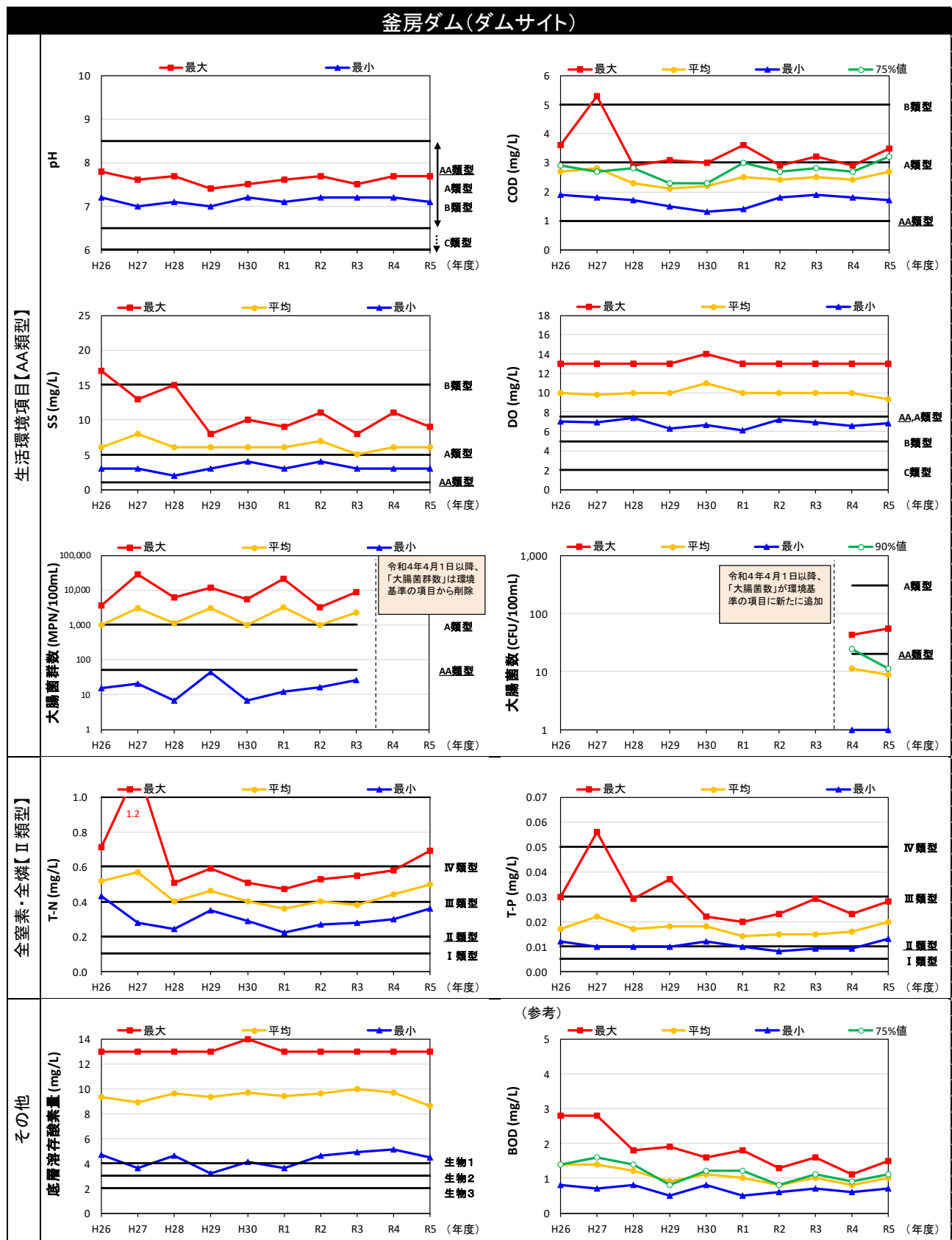


図 3.8-4 釜房ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

釜房ダムの N/P 比は、図 3.8-5 に示すとおりである。

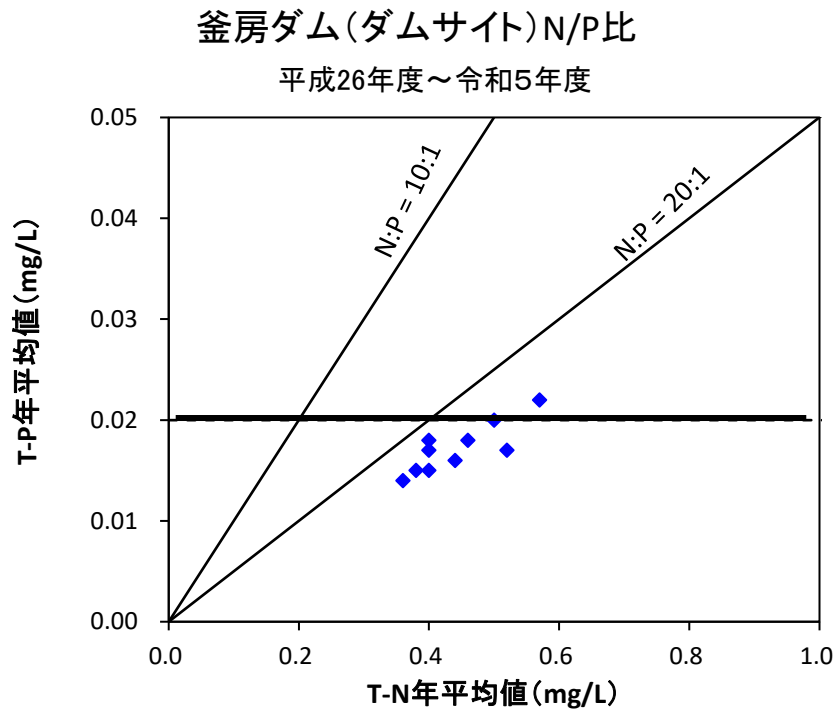


図 3.8-5 釜房ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用

（「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.8.3 釜房ダムの利用目的と利用状況

釜房ダムの利用目的と利用状況は、表 3.8-4、表 3.8-5 及び図 3.8-6 に示すとおりである。

表 3.8-4 釜房ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○	○	○	○	○		

出典：1. 「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/22/2022>)

2. 「令和5年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 釜房ダム 定期報告書(概要版)」
(国土交通省 東北地方整備局、令和6年)

表 3.8-5 釜房ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
水道用水	—	—	・仙台市、川崎町、名取市、多賀城市及び七ヶ浜町へ最大約 2.3m ³ /s (約 200,000m ³ /日) を供給している。
工業用水	—	—	・仙台内陸工業地帯の南部・東部地区及び仙台新港工業地区へ、最大約 0.6m ³ /s (約 52,000m ³ /日) を供給している。
不特定灌漑用水	—	—	・名取市、岩沼市、仙台市及び川崎町へ、最大約 9.0m ³ /s を供給している。
発電	東北電力株式会社	—	・釜房発電所及び碁石川発電所へ、最大 6.0m ³ /s (約 518,400m ³ /日) を供給している。



図 3.8-6 釜房ダムの利水状況図

出典：「令和5年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 釜房ダム 定期報告書(概要版)」
(国土交通省 東北地方整備局、令和6年)

3.9 大倉ダム

3.9.1 大倉ダムの概要

大倉ダムの概要は表 3.9-1 に、諸元は表 3.9-2 に、流域概要は図 3.9-1 に示すとおりである。
貯水状況は図 3.9-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 270.60m となっている。

表 3.9-1 大倉ダムの概要

名称	大倉ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県川内市青葉区大倉字岩下
流入河川名	名取川水系 大倉川
集水面積	88.5 (km ²)
環境基準類型	AA、Ⅱ、生物 A

- 出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料
2. 「仙台環境開発大倉ダムの概要」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/dam-okura.html>)
3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.9-2 大倉ダムの諸元

堤頂長	323.0 (m)
堤高	82.0 (m)
総貯水容量	28,000 (千 m ³)
有効貯水容量	25,000 (千 m ³)
滞留時間	58 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 25 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。
データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」
(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/184/2022>)

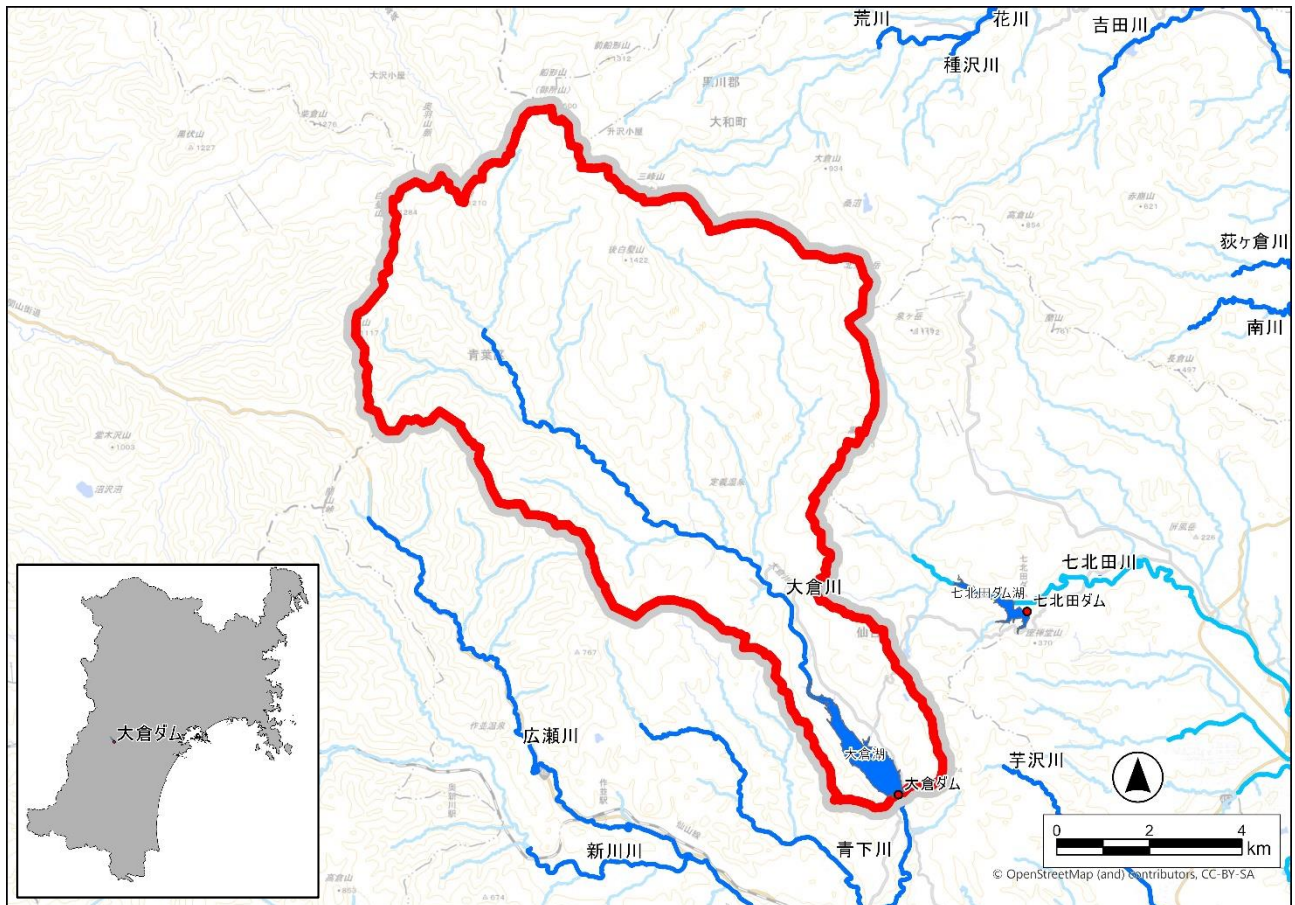


図 3.9-1 大倉ダムの流域概要図

○大倉ダム情報

・ダム情報

(2024年6月23日 9時現在) ※1週間毎に更新。

・ダム水位グラフ

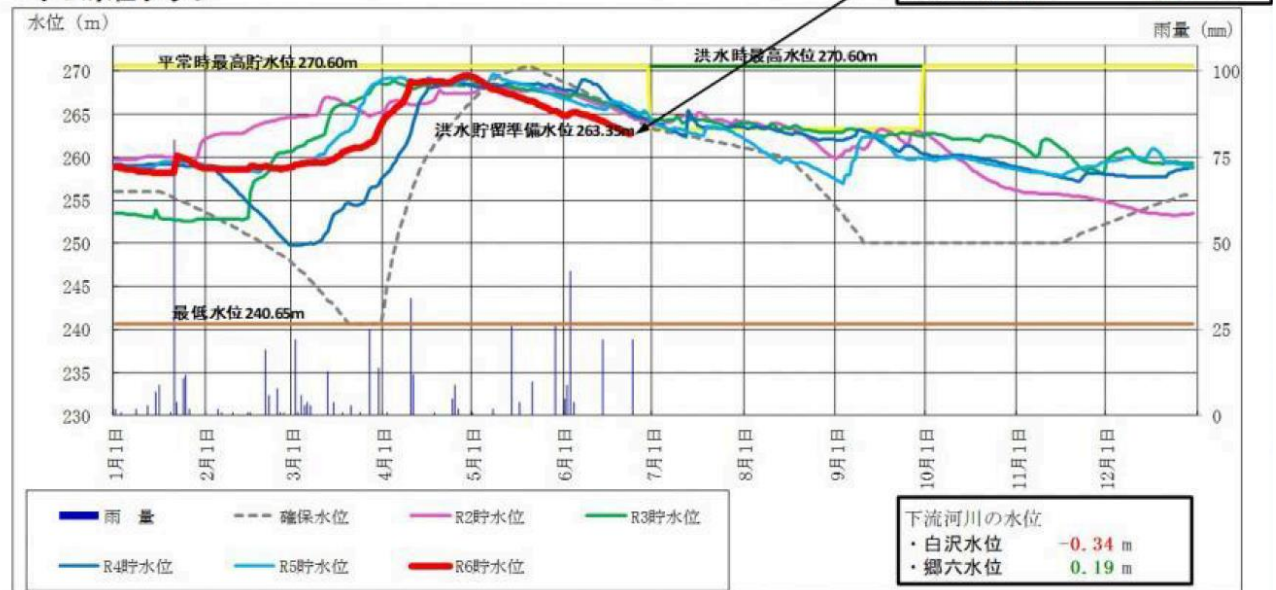


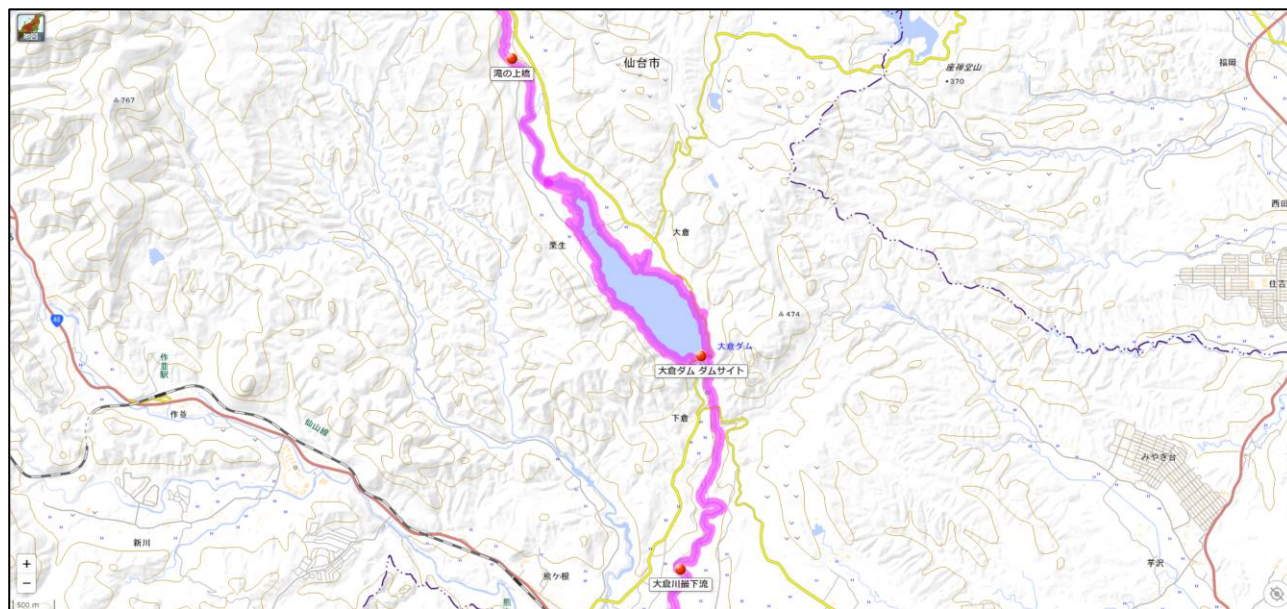
図 3.9-2 大倉ダムの貯水状況

出典：「県内の河川情報 データー一覧 貯水状況 令和6年大倉ダム貯水位グラフ」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/r4-1-ookura-tyosuii.html>)

3.9.2 水質の状況

大倉ダムの水質測定地点は、図 3.9-3 に示すとおりである。

大倉ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.9-3 及び図 3.9-4 に示すとおりである。



水質測定地点の凡例

	環境基準点		河川 AA 類型、湖沼 AA 類型
---	-------	---	-------------------

図 3.9-3 大倉ダムの水質測定地点

表 3.9-3 大倉ダムの水質経年変化

大倉ダム(ダムサイト)【生活環境項目:AA類型】【全窒素・全磷:Ⅱ類型】

年度	pH(全層)		COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y	最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	7.3 ～ 8.1	0 / 12	1.2 ～ 2.7	12 / 12	1.8	2.2	1 ～ 4	9 / 12	2
H27	7.2 ～ 7.7	0 / 12	1.2 ～ 3.0	12 / 12	1.9	2.0	1 ～ 8	6 / 12	2
H28	7.2 ～ 7.8	0 / 12	1.3 ～ 2.9	12 / 12	2.0	2.5	1 ～ 15	8 / 12	4
H29	7.0 ～ 8.3	0 / 12	1.3 ～ 3.5	12 / 12	2.4	3.0	1 ～ 5	9 / 12	3
H30	7.3 ～ 8.0	0 / 12	1.3 ～ 3.4	12 / 12	2.2	2.4	1 ～ 6	6 / 12	2
R1	7.3 ～ 8.1	0 / 12	1.2 ～ 2.6	12 / 12	2.0	2.4	1 ～ 9	5 / 12	2
R2	7.3 ～ 8.0	0 / 12	1.4 ～ 3.2	12 / 12	1.9	2.1	1 ～ 7	6 / 12	3
R3	7.1 ～ 8.0	0 / 12	1.3 ～ 2.5	12 / 12	1.9	2.3	1 ～ 8	3 / 12	2
R4	7.3 ～ 8.2	0 / 12	1.7 ～ 2.8	12 / 12	2.3	2.7	1 ～ 2	4 / 12	1
R5	7.3 ～ 8.2	0 / 12	1.6 ～ 3.2	12 / 12	2.3	2.4	1 ～ 6	5 / 12	2

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	8.8 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 3,300	5 / 12	370		—		
H27	8.7 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 24,000	6 / 12	2,900		—		
H28	8.5 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 2,200	4 / 12	280		—		
H29	9.3 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 1,700	3 / 12	190		—		
H30	8.2 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 2,300	3 / 12	220		—		
R1	8.4 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 2,300	3 / 12	260		—		
R2	8.7 ～ 12	0 / 12	10	2 ～ 2,200	2 / 12	210		—		
R3	8.3 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 2,200	3 / 12	280		—		
R4	8.3 ～ 13	0 / 12	10		—		1 ～ 4	0 / 12	1	2
R5	8.2 ～ 13	0 / 12	10		—		1 ～ 6	0 / 12	2	5

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.12 ～ 0.28	1 / 12	0.17	0.004 ～ 0.015	6 / 12	0.010
H27	0.08 ～ 0.20	0 / 12	0.14	0.003 ～ 0.019	2 / 12	0.008
H28	0.11 ～ 0.22	1 / 12	0.14	0.003 ～ 0.019	4 / 12	0.009
H29	0.09 ～ 0.20	0 / 12	0.14	0.003 ～ 0.014	3 / 12	0.008
H30	0.08 ～ 0.23	1 / 12	0.14	0.003 ～ 0.015	1 / 12	0.007
R1	0.10 ～ 0.21	1 / 12	0.14	0.004 ～ 0.020	3 / 12	0.010
R2	0.09 ～ 0.24	1 / 12	0.13	0.005 ～ 0.012	4 / 12	0.009
R3	0.09 ～ 0.18	0 / 12	0.12	0.003 ～ 0.016	1 / 12	0.007
R4	0.09 ～ 0.21	1 / 12	0.14	0.008 ～ 0.015	4 / 12	0.010
R5	0.12 ～ 0.18	0 / 12	0.14	0.005 ～ 0.014	3 / 12	0.008

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—			—		
H27		—			—		
H28		—			—		
H29		—			—		
H30		—			—		
R1		—			—		
R2		—			—		
R3		—			—		
R4		—			—		
R5		—			—		

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

大倉ダム(ダムサイト)

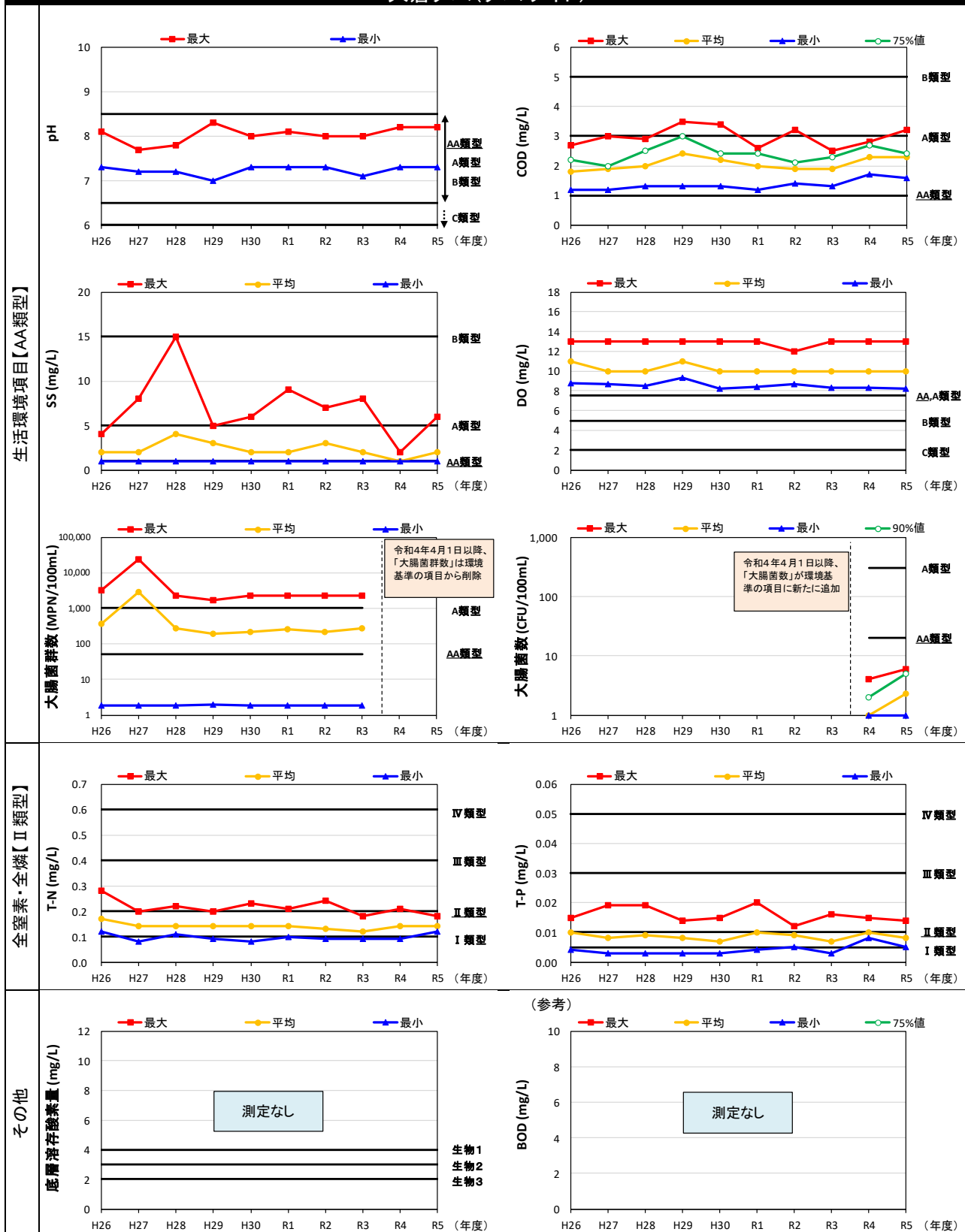


図 3.9-4 大倉ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

大倉ダムの N/P 比は、図 3.9-5 に示すとおりである。

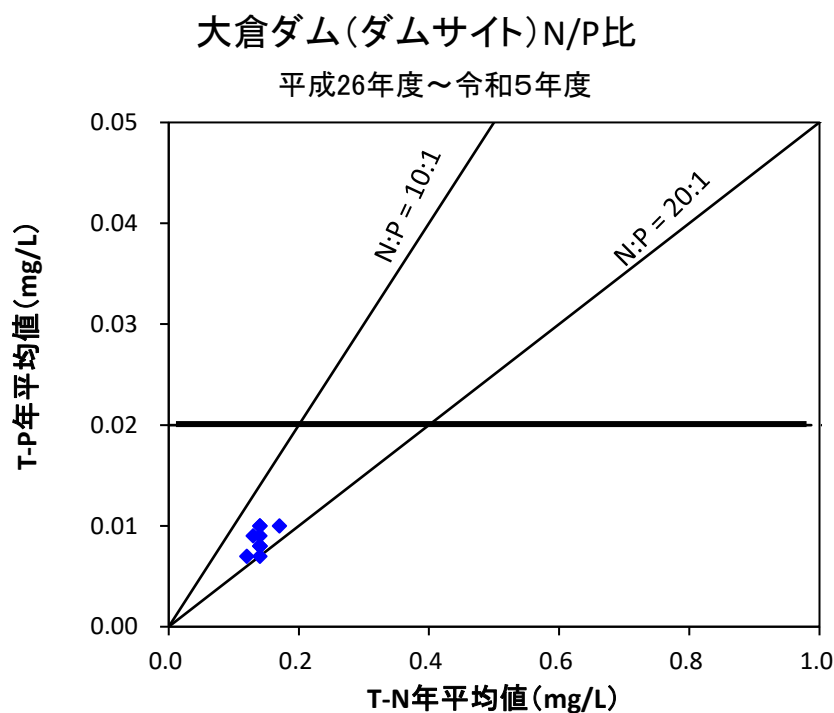


図 3.9-5 大倉ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全磷比が 20 以下であり、かつ全磷濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.9.3 大倉ダムの利用目的と利用状況

大倉ダムの利用目的と利用状況は、表 3.9-4 及び表 3.9-5 に示すとおりである。

表 3.9-4 大倉ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○		○	○	○	○		

出典：「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/184/2022>)

表 3.9-5 大倉ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
灌漑用水	—	—	・大倉川及び広瀬川沿岸の灌漑用水の補給を行っている。
上水道用水	—	—	・仙台市、塩竈市に日最大 154,675m ³ を供給している。
工業用水	—	—	・仙台市、多賀城市、塩竈市の工業地帯の工場に日最大 100,000m ³ を供給している。
水力発電	—	—	・最大 6.5m ³ /秒の水を使用し最大出力 5,200kW の電力を発電している。

出典：「大倉ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/sdam2492.html>)

3.10 樽水ダム

3.10.1 樽水ダムの概要

樽水ダムの概要は表 3.10-1 に、諸元は表 3.10-2 に、流域概要は図 3.10-1 に示すとおりである。

貯水状況は図 3.10-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位 EL は 55.70m となっている。

表 3.10-1 樽水ダムの概要

名称	樽水ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県名取市高館川上字長畑
流入河川名	名取川水系 増田川
集水面積	9.7 (km ²)
環境基準類型	A

出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料

2. 「樽水ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/dam-tarumizu.html>)

3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.10-2 樽水ダムの諸元

堤頂長	256.5 (m)
堤高	43.0 (m)
総貯水容量	4,700 (千 m ³)
有効貯水容量	4,200 (千 m ³)
滞留時間	178 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 25 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。

データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/185/2022>)

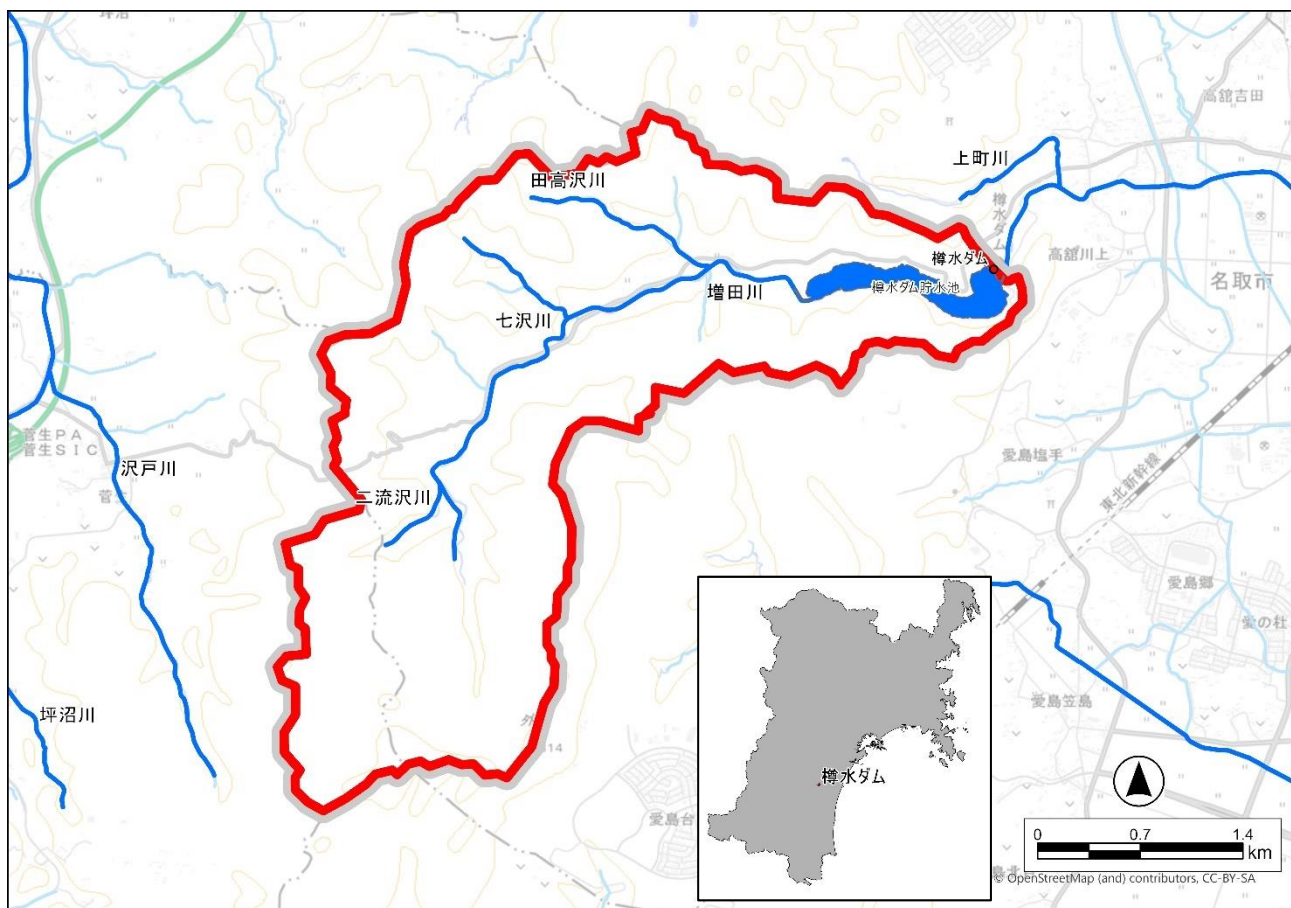


図 3.10-1 樽水ダム流域概要図

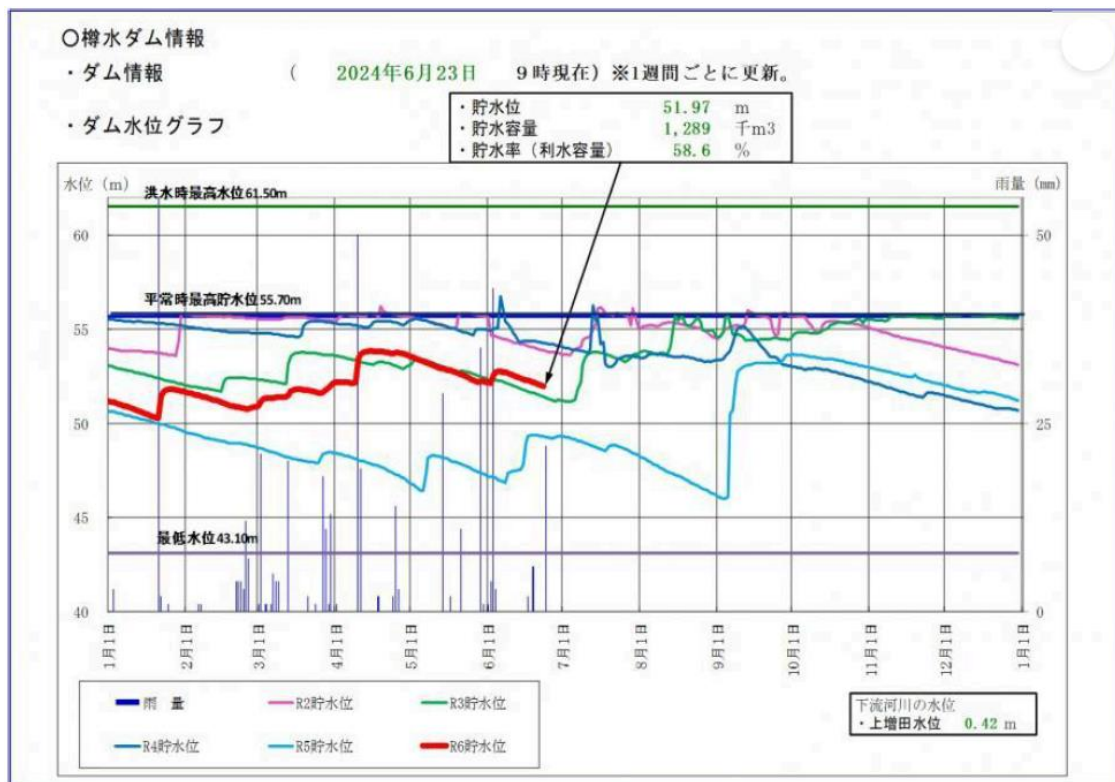


図 3.10-2 樽水ダムの貯水状況

出典：「県内の河川情報 データー一覧 貯水状況 令和 6 年樽水ダム貯水位グラフ」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/r4-1-tarumizu-tyosuii.html>)

3.10.2 水質の状況

樽水ダムの水質測定地点は、図 3.10-3 に示すとおりである。

樽水ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.10-3 及び図 3.10-4 に示すとおりである。



水質測定地点
の凡例



環境基準点



河川 A 類型、湖沼 A 類型



河川 B 類型

図 3.10-3 樽水ダムの水質測定地点

表 3.10-3 樽水ダムの水質経年変化

樽水ダム(ダムサイト)【生活環境項目:A類型】【全窒素・全磷:類型指定なし】

年度	pH(全層)		COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y	最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	7.3 ～ 8.3	0 / 12	2.7 ～ 4.0	7 / 12	3.3	3.5	1 ～ 3	0 / 12	1
H27	7.1 ～ 8.0	0 / 12	2.1 ～ 3.8	6 / 12	3.0	3.4	1 ～ 8	1 / 12	2
H28	7.3 ～ 7.9	0 / 12	1.5 ～ 4.4	5 / 12	3.1	3.6	1 ～ 4	0 / 12	2
H29	7.3 ～ 8.4	0 / 12	2.6 ～ 7.4	8 / 12	4.0	4.2	1 ～ 9	3 / 12	3
H30	7.4 ～ 7.9	0 / 12	2.6 ～ 4.9	5 / 12	3.4	3.8	1 ～ 3	0 / 12	2
R1	7.2 ～ 8.5	0 / 12	2.3 ～ 5.8	8 / 12	3.6	3.9	1 ～ 42	3 / 12	6
R2	7.2 ～ 8.2	0 / 12	2.8 ～ 4.0	8 / 12	3.3	3.7	1 ～ 4	0 / 12	2
R3	7.4 ～ 7.9	0 / 12	2.7 ～ 4.4	8 / 12	3.3	3.4	1 ～ 3	0 / 12	2
R4	7.4 ～ 8.4	0 / 12	2.5 ～ 5.2	10 / 12	3.9	4.4	1 ～ 8	1 / 12	3
R5	7.3 ～ 8.3	0 / 12	2.7 ～ 5.0	10 / 12	3.7	4.0	1 ～ 4	0 / 12	2

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	7.9 ～ 13	0 / 12	10	5 ～ 1,100	2 / 12	330		—		
H27	7.7 ～ 13	0 / 12	9.9	5 ～ 7,900	6 / 12	2,600		—		
H28	8.2 ～ 12	0 / 12	10	2 ～ 7,000	3 / 12	1,200		—		
H29	8.4 ～ 13	0 / 12	11	5 ～ 17,000	4 / 12	2,400		—		
H30	8.6 ～ 13	0 / 12	10	5 ～ 7,900	4 / 12	1,300		—		
R1	7.8 ～ 12	0 / 12	9.9	2 ～ 49,000	6 / 12	9,400		—		
R2	7.9 ～ 13	0 / 12	9.7	23 ～ 22,000	6 / 12	3,300		—		
R3	7.9 ～ 13	0 / 12	9.7	2 ～ 33,000	4 / 12	3,900		—		
R4	8.3 ～ 12	0 / 12	10	5 ～ 4,900	—	580	1 ～ 1	0 / 12	1	1
R5	6.6 ～ 11	1 / 12	9.5	5 ～ 24,000	—	3,700	1 ～ 20	0 / 12	5	13

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.34 ～ 0.63	—	0.47	0.003 ～ 0.022	—	0.013
H27	0.17 ～ 0.63	—	0.40	0.009 ～ 0.026	—	0.016
H28	0.19 ～ 0.49	—	0.34	0.009 ～ 0.021	—	0.015
H29	0.19 ～ 0.59	—	0.45	0.011 ～ 0.044	—	0.020
H30	0.23 ～ 0.48	—	0.35	0.004 ～ 0.022	—	0.012
R1	0.18 ～ 0.80	—	0.46	0.010 ～ 0.044	—	0.018
R2	0.24 ～ 0.53	—	0.35	0.006 ～ 0.019	—	0.012
R3	0.19 ～ 0.41	—	0.27	0.005 ～ 0.017	—	0.010
R4	0.17 ～ 0.46	—	0.32	0.006 ～ 0.025	—	0.013
R5	0.27 ～ 0.72	—	0.54	0.006 ～ 0.018	—	0.012

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—		0.5 ～ 1.6	—	0.8	0.8
H27		—		0.5 ～ 1.3	—	0.8	0.9
H28		—		0.5 ～ 1.7	—	0.9	0.9
H29		—		0.5 ～ 1.7	—	1.1	1.6
H30		—		0.5 ～ 1.5	—	0.7	0.7
R1		—		0.5 ～ 1.5	—	0.7	0.7
R2		—		0.5 ～ 1.2	—	0.7	0.8
R3		—		0.5 ～ 1.0	—	0.7	0.8
R4		—		0.5 ～ 1.6	—	0.9	1.1
R5		—		0.5 ～ 1.5	—	0.8	1.0

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

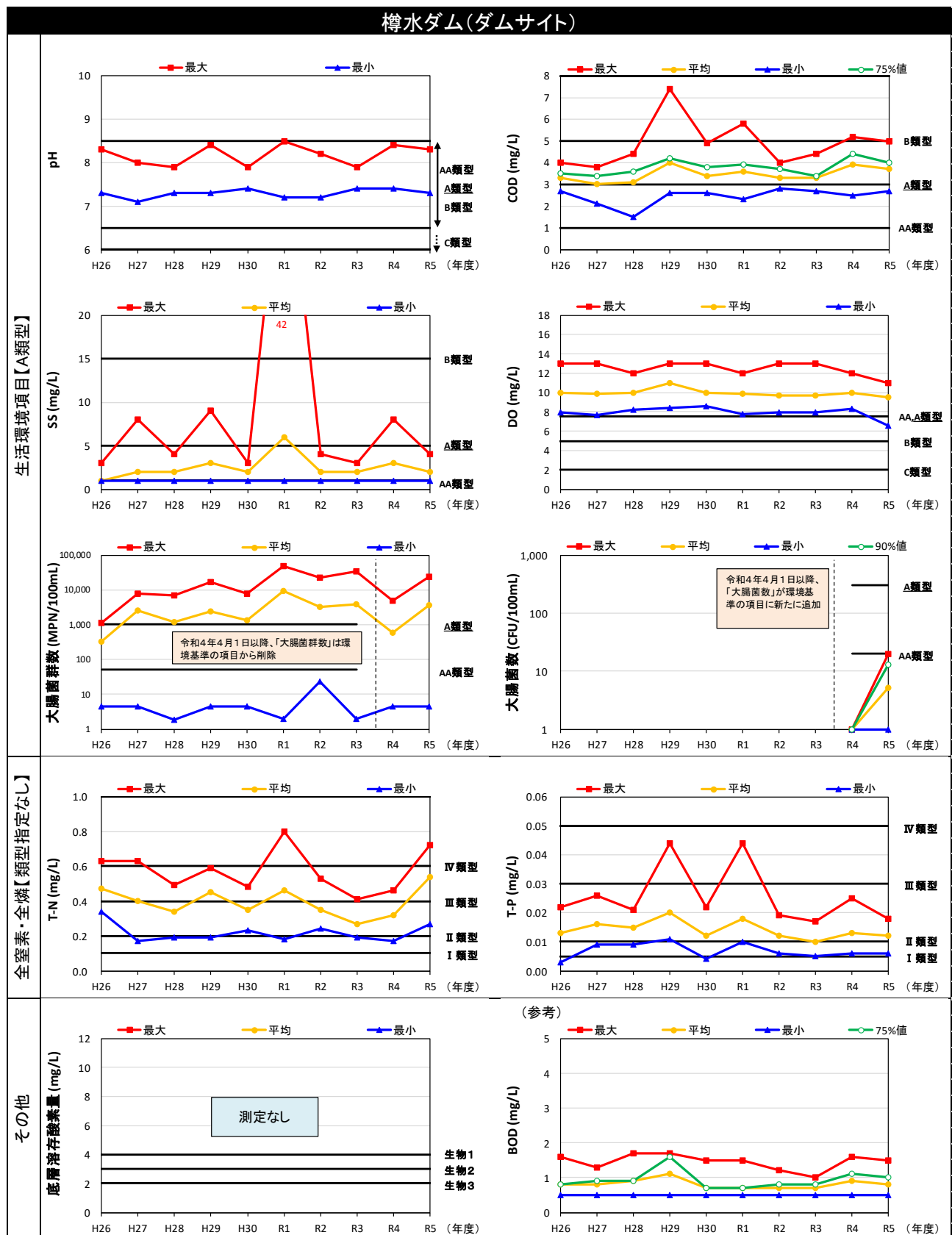


図 3.10-4 樽水ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

樽水ダムの N/P 比は、図 3.10-5 に示すとおりである。

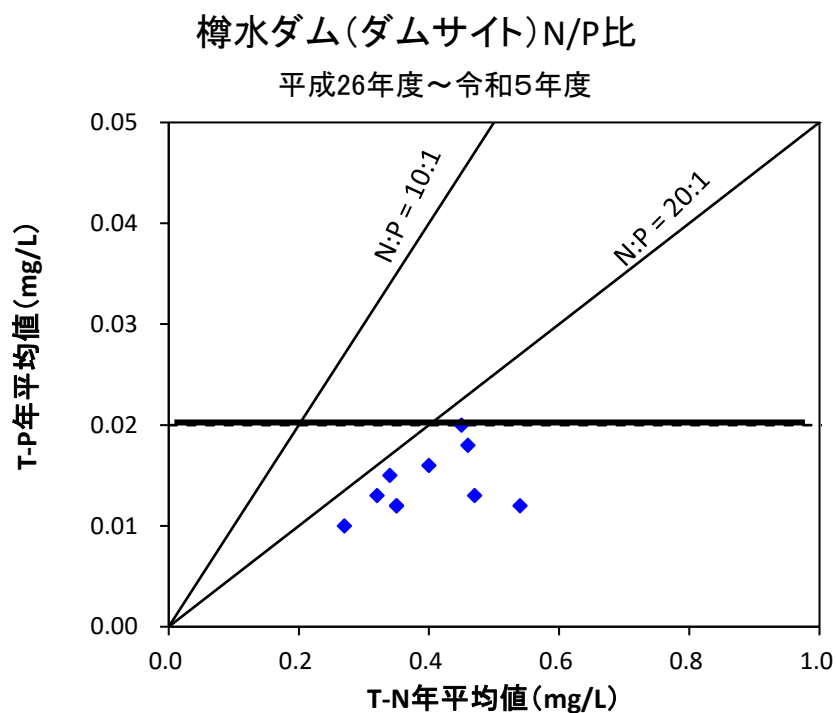


図 3.10-5 樽水ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.10.3 樽水ダムの利用目的と利用状況

樽水ダムの利用目的と利用状況は、表 3.10-4 及び表 3.10-5 に示すとおりである。

表 3.10-4 樽水ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○		○				

出典：「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/185/2022>)

表 3.10-5 樽水ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
上水道用水	—	—	・名取市へ日最大 13,000 立方メートルの上水道用水を供給している。

出典：「樽水ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/dam-tarumizu.html>)

3.11 七北田ダム

3.11.1 七北田ダムの概要

七北田ダムの概要は表 3.11-1 に、諸元は表 3.11-2 に、流域概要は図 3.11-1 に示すとおりである。

貯水状況は図 3.11-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 243m となっている。

表 3.11-1 七北田ダムの概要

名称	七北田ダム
管理者	宮城県
位置	宮城県仙台市泉区福岡字蒜但木
流入河川名	七北田川水系 七北田川
集水面積	20.0 (km ²)
環境基準類型	A、II

出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料

2. 「七北田ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/dam-nanakita.html>)

3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.11-2 七北田ダムの諸元

堤頂長	420.0 (m)
堤高	74.0 (m)
総貯水容量	9,200 (千 m ³)
有効貯水容量	8,500 (千 m ³)
滞留時間	153 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 25 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。
データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/186/2022>)

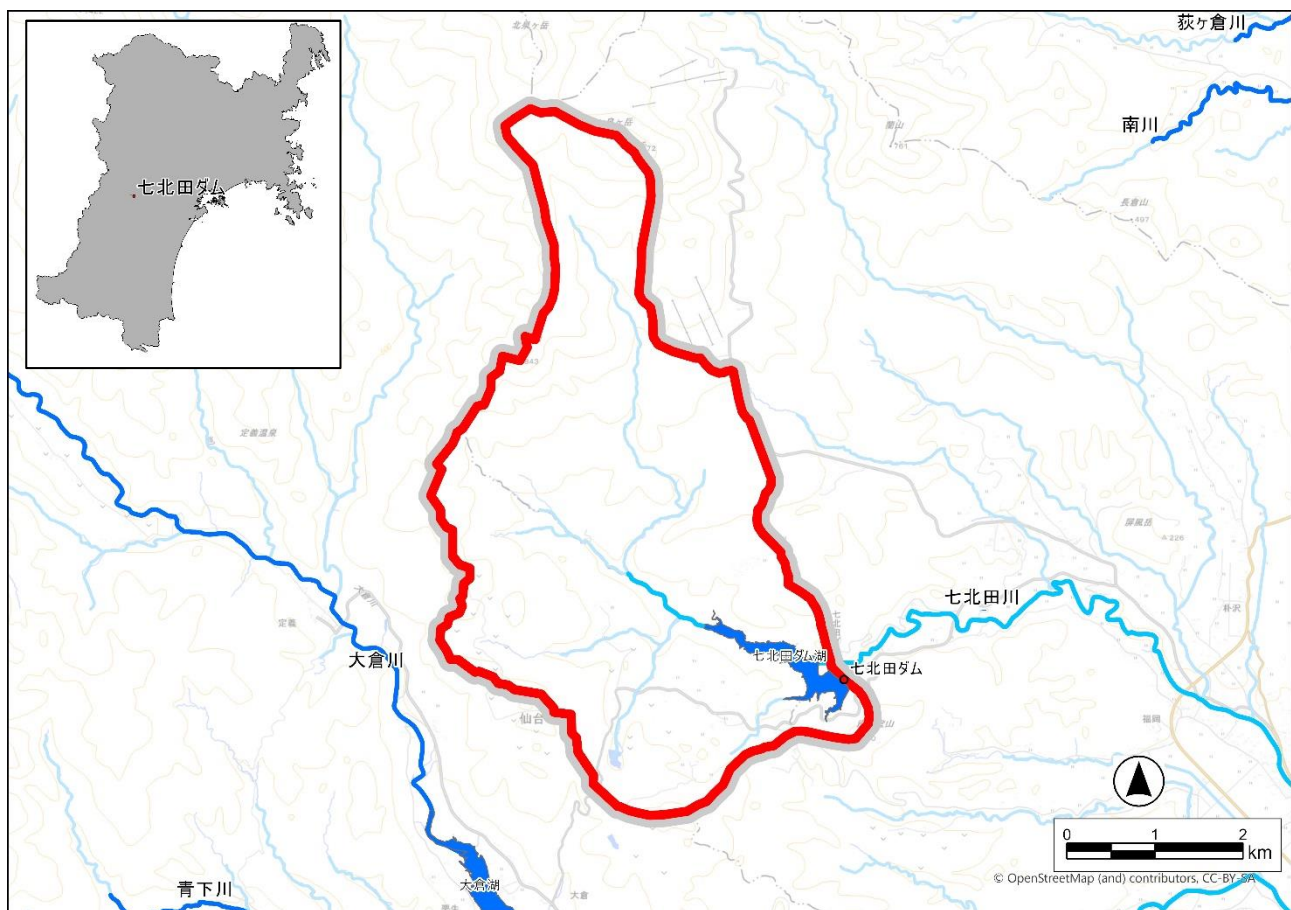


図 3.11-1 七北田ダムの流域概要図

○七北田ダム情報

・ダム情報

(2024年6月23日 9時現在) ※一週間毎に更新。

・ダム水位グラフ

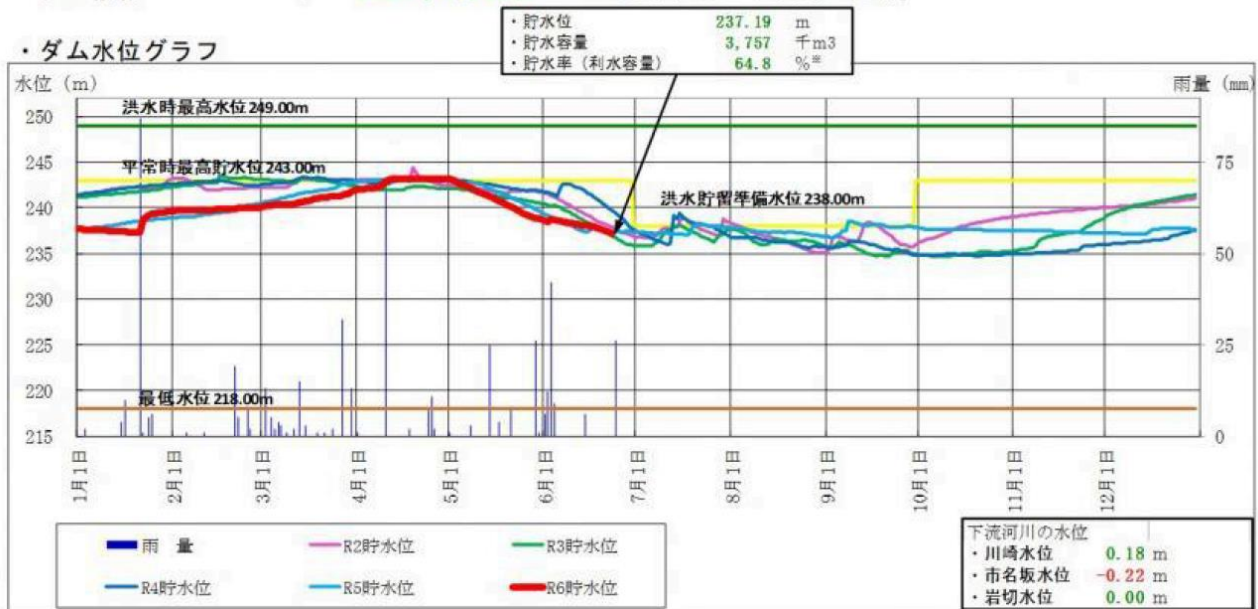


図 3.11-2 七北田ダムの貯水状況

出典：「県内の河川情報 データー一覧 貯水状況 令和6年七北田ダム貯水位グラフ」
(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/r4-1-nanakiyta-tyosuii.html>)

3.11.2 水質の状況

七北田ダムの水質測定地点は、図 3.11-3 に示すとおりである。

七北田ダムの水質測定地点における水質（pH、D_O、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.11-3 及び図 3.11-4 に示すとおりである。

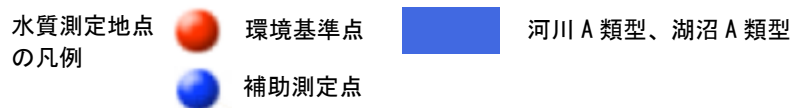


図 3.11-3 七北田ダムの水質測定地点

表 3.11-3 七北田ダムの水質経年変化

七北田ダム(ダムサイト)【生活環境項目:A類型】【全窒素・全磷:Ⅱ類型】

年度	pH(全層)			COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y		最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	7.4 ～ 8.6	1 / 12		1.9 ～ 4.4	6 / 12	3.2	3.7	1 ～ 4	0 / 12	2
H27	7.4 ～ 8.6	1 / 12		2.1 ～ 4.6	4 / 12	3.0	3.4	1 ～ 12	2 / 12	4
H28	7.3 ～ 9.2	2 / 12		2.0 ～ 11.0	5 / 12	4.1	4.1	1 ～ 16	2 / 12	4
H29	7.4 ～ 9.8	3 / 12		2.0 ～ 19.0	4 / 12	5.3	3.3	1 ～ 22	2 / 12	5
H30	7.4 ～ 8.4	0 / 12		2.4 ～ 3.9	4 / 12	3.0	3.6	1 ～ 3	0 / 12	1
R1	7.4 ～ 9.3	2 / 12		1.9 ～ 10.0	7 / 12	3.8	4.6	1 ～ 6	1 / 12	2
R2	7.3 ～ 8.3	0 / 12		1.9 ～ 4.1	4 / 12	2.9	3.2	1 ～ 5	0 / 12	2
R3	7.3 ～ 9.8	3 / 12		2.1 ～ 30.0	5 / 12	6.0	4.8	1 ～ 46	3 / 12	7
R4	7.4 ～ 8.8	2 / 12		1.9 ～ 5.8	5 / 12	3.3	3.4	1 ～ 12	1 / 12	3
R5	7.4 ～ 9.9	2 / 12		2.2 ～ 22.0	7 / 12	6.3	4.7	1 ～ 22	3 / 12	5

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	9.2 ～ 14	0 / 12	11	2 ～ 130	0 / 12	59		—		
H27	9.1 ～ 13	0 / 12	10	8 ～ 790	0 / 12	150		—		
H28	9.2 ～ 13	0 / 12	11	2 ～ 2,400	2 / 12	380		—		
H29	8.3 ～ 15	0 / 12	11	2 ～ 490	0 / 12	100		—		
H30	9.0 ～ 13	0 / 12	10	2 ～ 4,900	2 / 12	690		—		
R1	9.2 ～ 12	0 / 12	10	7 ～ 17,000	1 / 12	1,500		—		
R2	9.5 ～ 13	0 / 12	10	17 ～ 4,900	3 / 12	720		—		
R3	8.9 ～ 14	0 / 12	11	5 ～ 4,900	3 / 12	850		—		
R4	9.7 ～ 13	0 / 12	11		—		1 ～ 43	0 / 12	6	17
R5	8.8 ～ 14	0 / 12	11		—		1 ～ 45	0 / 12	5	5

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.14 ～ 0.34	9 / 12	0.25	0.008 ～ 0.023	11 / 12	0.017
H27	0.17 ～ 0.70	8 / 12	0.29	0.010 ～ 0.034	11 / 12	0.021
H28	0.15 ～ 1.0	9 / 12	0.34	0.011 ～ 0.063	12 / 12	0.026
H29	0.10 ～ 1.4	8 / 12	0.42	0.011 ～ 0.081	12 / 12	0.027
H30	0.10 ～ 0.29	5 / 12	0.19	0.011 ～ 0.033	12 / 12	0.018
R1	0.10 ～ 0.78	8 / 12	0.30	0.007 ～ 0.040	11 / 12	0.022
R2	0.11 ～ 0.30	5 / 12	0.18	0.008 ～ 0.028	11 / 12	0.016
R3	0.07 ～ 0.93	9 / 12	0.39	0.013 ～ 0.088	12 / 12	0.030
R4	0.10 ～ 0.46	6 / 12	0.22	0.012 ～ 0.055	12 / 12	0.021
R5	0.11 ～ 1.6	7 / 12	0.38	0.009 ～ 0.032	11 / 12	0.019

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26		—			—		
H27		—			—		
H28		—			—		
H29		—			—		
H30		—			—		
R1		—			—		
R2		—			—		
R3		—			—		
R4		—			—		
R5		—			—		

注 1) x : 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y : 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典 : 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

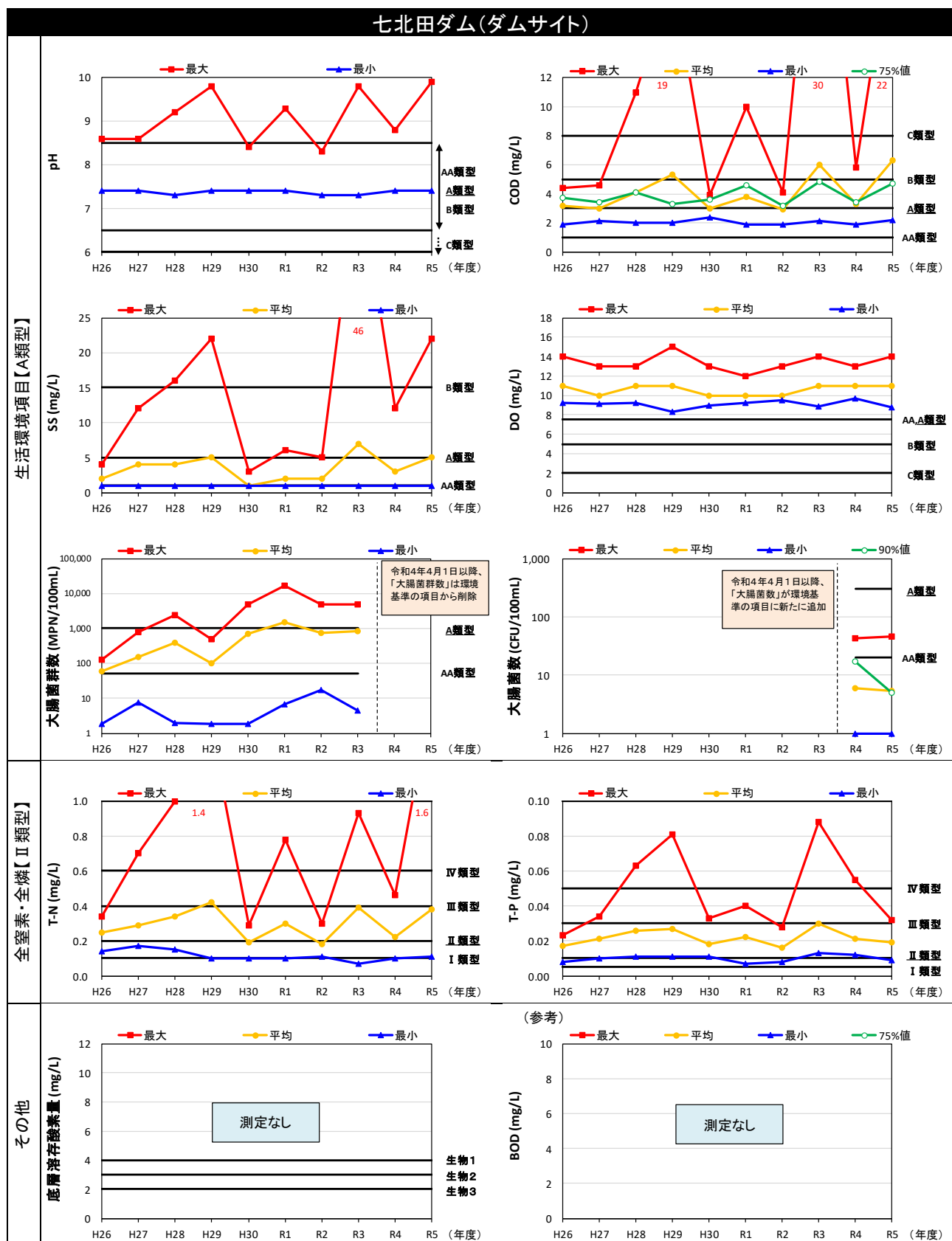


図 3.11-4 七北田ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

七北田ダム（ダムサイト）N/P 比は、図 3.11-5 に示すとおりである。

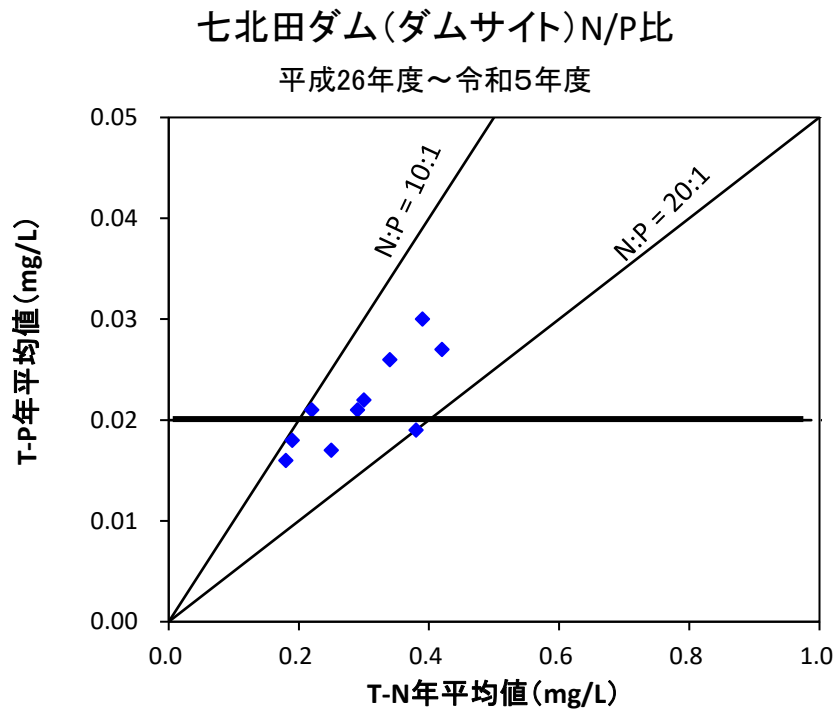


図 3.11-5 七北田ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全リン比が 20 以下であり、かつ全リン濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
（「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.11.3 七北田ダムの利用目的と利用状況

七北田ダムの利用目的と利用状況は、表 3.11-4 及び表 3.11-5 に示すとおりである。

表 3.11-4 七北田ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○		○				

出典：「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/186/2022>)

表 3.11-5 七北田ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
上水道用水	—	—	・仙台市に最大 55,000m ³ /日、塩釜市に最大 13,000m ³ /日の取水を可能にしている。

出典：「七北田ダムの概要」

(宮城県 HP、<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/snd-dam/sdam2479.html>)

3.12 セブ宿ダム

3.12.1 セブ宿ダムの概要

セブ宿ダムの概要は表 3.12-1 に、諸元は表 3.12-2 に、流域概要は図 3.12-1 に示すとおりである。

貯水状況は図 3.12-2 に示すとおりであり、平常時最高貯水位は 293.5m となっている。

表 3.12-1 セブ宿ダムの概要

名称	セブ宿ダム
管理者	国土交通省東北地方整備局
位置	宮城県刈田郡セブ宿町切通
流入河川名	阿武隈川水系 白石川
集水面積	236.6 (km ²)
環境基準類型	A、Ⅱ、生物 A

出典：1. 宮城県環境生活部 提供資料

2. 「みやぎの水がめ セブ宿ダム」

(セブ宿ダム HP、<https://www.thr.mlit.go.jp/shichika/06pamphlet/image/ippan.pdf>)

3. 「令和 5 年度宮城県環境白書 資料編」(宮城県、令和 6 年)

表 3.12-2 セブ宿ダムの諸元

堤頂長	565.0 (m)
堤高	90.0 (m)
総貯水容量	109,000 (千 m ³)
有効貯水容量	99,500 (千 m ³)
滞留時間	124 (日)

出典：宮城県環境生活部 提供資料

注：滞留時間は、有効貯水容量を年平均流入量（過去 10 年間（平成 25 年～令和 4 年）の平均）で除して算出した。

データの出典：「貯水位、流入量及び放流量に関する年表（流況）」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form02/download/27/2022>)

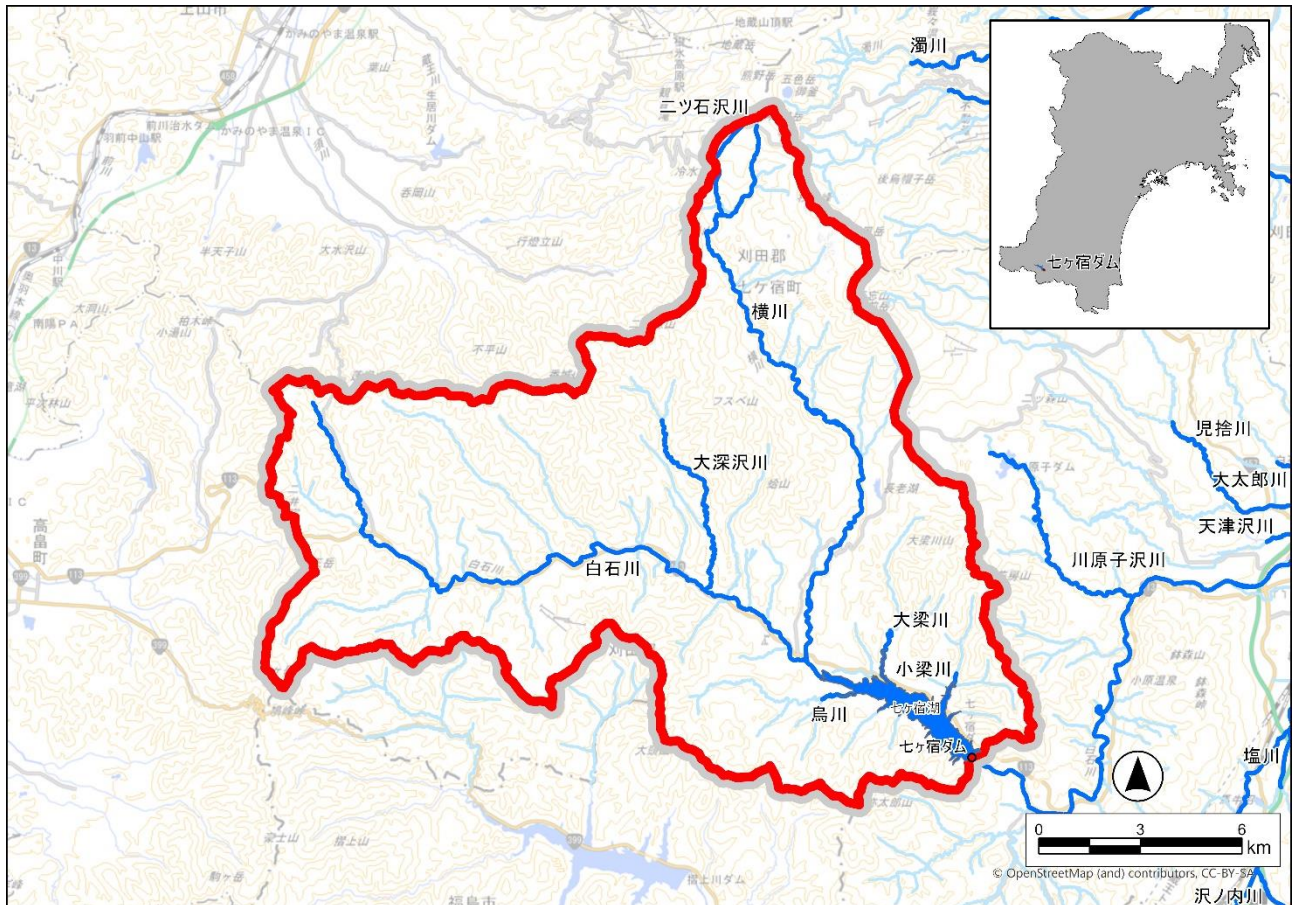
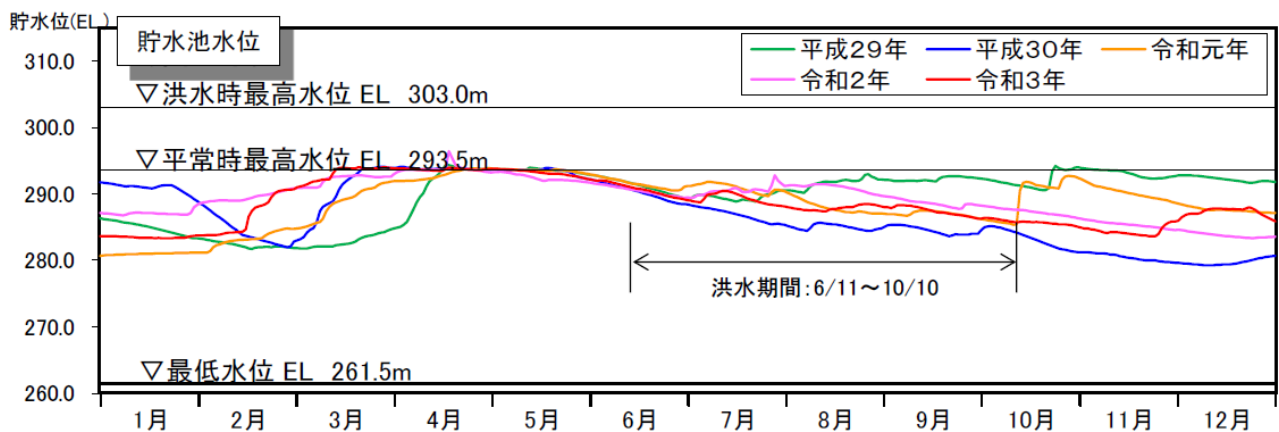


図 3.12-1 セッケ宿ダムの流域概要図



出典：「令和4年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 セッケ宿ダム 定期報告書（概要版）」
 （国土交通省 東北地方整備局、令和5年）

図 3.12-2 セッケ宿ダムの貯水状況

3.12.2 水質の状況

七ヶ宿ダムの水質測定地点は、図 3.12-3 に示すとおりである。

七ヶ宿ダムの水質測定地点における水質（pH、DO、SS、BOD、COD、大腸菌群数、大腸菌数、T-N、T-P）の推移は表 3.12-3 及び図 3.12-4 に示すとおりである。

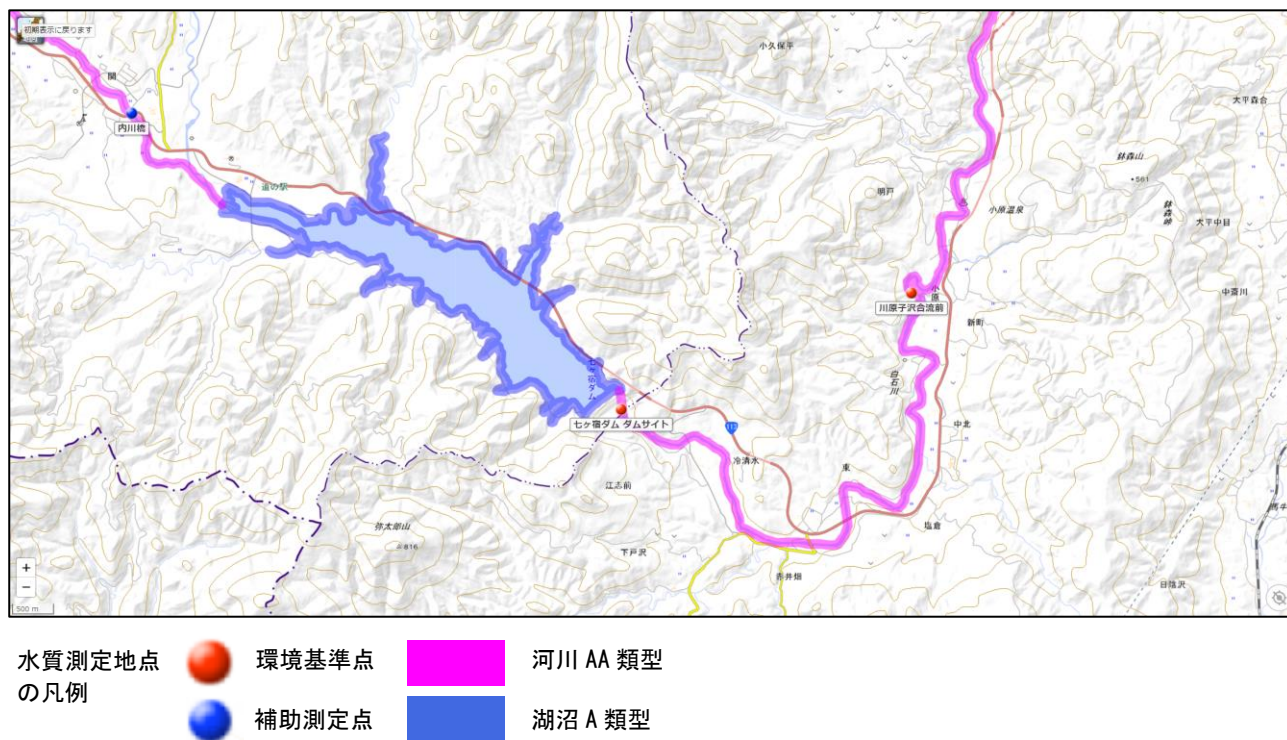


図 3.12-3 七ヶ宿ダムの水質測定地点

表 3.12-3 セケ宿ダムの水質経年変化

セケ宿ダム(ダムサイト)【生活環境項目:A類型】【全窒素・全磷:Ⅱ類型】

年度	pH(全層)			COD(mg/L、全層)				SS(mg/L、全層)		
	最小～最大	x/y		最小～最大	x/y	年平均値	75%値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	6.9 ～ 7.4	0 / 12		1.3 ～ 4.6	1 / 12	2.2	2.3	1 ～ 61	2 / 12	8
H27	7.2 ～ 7.4	0 / 12		1.3 ～ 2.7	0 / 12	2.0	2.4	1 ～ 11	2 / 12	4
H28	7.1 ～ 7.4	0 / 11		1.6 ～ 2.4	0 / 11	1.9	2.0	1 ～ 4	0 / 11	3
H29	7.1 ～ 7.5	0 / 12		1.4 ～ 2.4	0 / 12	1.9	2.2	1 ～ 9	2 / 12	4
H30	7.1 ～ 7.4	0 / 12		0.8 ～ 2.5	0 / 12	1.9	2.2	1 ～ 6	1 / 12	3
R1	7.1 ～ 7.4	0 / 12		1.3 ～ 3.0	0 / 12	2.2	2.4	1 ～ 7	2 / 12	3
R2	7.2 ～ 7.7	0 / 12		1.7 ～ 3.3	1 / 12	2.2	2.4	2 ～ 15	3 / 12	5
R3	7.3 ～ 7.4	0 / 12		1.3 ～ 2.7	0 / 12	2.1	2.3	1 ～ 3	0 / 12	2
R4	7.0 ～ 7.5	0 / 12		1.5 ～ 2.5	0 / 12	2.1	2.2	1 ～ 3	0 / 12	2
R5	7.1 ～ 7.4	0 / 11		1.8 ～ 3.3	1 / 12	2.4	2.5	1 ～ 4	0 / 12	2

年度	DO(mg/L、全層)			大腸菌群数(MPN/100mL、全層)			大腸菌数(CFU/100mL、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	90%値
H26	7.5 ～ 14	0 / 12	10	10 ～ 3,700	3 / 12	720		—		
H27	8.1 ～ 13	0 / 12	11	10 ～ 1,100	1 / 12	210		—		
H28	6.0 ～ 12	4 / 11	8.6	3 ～ 22,000	4 / 11	3,100		—		
H29	7.2 ～ 13	1 / 12	9.5	2 ～ 2,200	1 / 12	540		—		
H30	8.0 ～ 13	0 / 12	10	6 ～ 19,000	3 / 12	2,000		—		
R1	6.7 ～ 12	1 / 12	9.9	10 ～ 8,200	1 / 12	860		—		
R2	7.2 ～ 12	1 / 12	9.7	25 ～ 2,900	2 / 12	500		—		
R3	6.8 ～ 13	2 / 12	9.8	20 ～ 8,600	2 / 12	990		—		
R4	6.8 ～ 13	1 / 12	9.8		—		1 ～ 2	0 / 12	1	1
R5	6.3 ～ 12	2 / 12	9.3		—		1 ～ 3	0 / 12	1	2

年度	T-N(mg/L、上層)			T-P(mg/L、上層)		
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値
H26	0.19 ～ 0.36	10 / 12	0.27	0.005 ～ 0.022	2 / 12	0.009
H27	0.17 ～ 0.42	10 / 12	0.27	0.005 ～ 0.021	3 / 12	0.009
H28	0.16 ～ 0.30	9 / 11	0.25	0.005 ～ 0.014	3 / 11	0.008
H29	0.11 ～ 0.37	11 / 12	0.27	0.004 ～ 0.015	5 / 12	0.009
H30	0.23 ～ 0.42	12 / 12	0.33	0.005 ～ 0.009	0 / 12	0.007
R1	0.19 ～ 0.50	11 / 12	0.31	0.004 ～ 0.013	2 / 12	0.007
R2	0.20 ～ 0.38	11 / 12	0.29	0.005 ～ 0.013	3 / 12	0.008
R3	0.20 ～ 0.55	11 / 12	0.35	0.005 ～ 0.012	1 / 12	0.008
R4	0.27 ～ 0.50	12 / 12	0.38	0.006 ～ 0.009	0 / 12	0.007
R5	0.14 ～ 0.63	11 / 12	0.42	0.006 ～ 0.013	4 / 12	0.009

年度	底層溶存酸素量(mg/L、下層)			BOD(mg/L、全層)			
	最小～最大	x/y	年平均値	最小～最大	x/y	年平均値	75%値
H26	7.5 ～ 13	—	10	0.5 ～ 0.8	—	0.6	0.7
H27	8.3 ～ 13	—	11	0.5 ～ 1.0	—	0.7	0.7
H28	4.4 ～ 12	—	8.5	0.5 ～ 1.0	—	0.6	0.7
H29		—		0.5 ～ 0.8	—	0.6	0.7
H30		—		0.5 ～ 0.9	—	0.7	0.8
R1	6.1 ～ 12	—	9.8	0.5 ～ 0.9	—	0.6	0.7
R2	6.1 ～ 12	—	9.4	0.5 ～ 1.1	—	0.6	0.6
R3	4.7 ～ 13	—	9.6	0.5 ～ 0.7	—	0.6	0.7
R4	5.5 ～ 13	—	9.6	0.5 ～ 0.7	—	0.6	0.6
R5	4.7 ～ 12	—	9.2	0.5 ～ 1.3	—	0.8	0.9

注 1) x: 日間平均値が水質環境基準を満たしていない測定日数、y: 総測定日数

2) x/y の「—」は類型指定されていないことを示す。

3) 空欄は欠測を示す。

4) 年平均値の算出において、個別の測定値が報告下限値未満の場合は、報告下限値の数値として取り扱う。

データの出典: 「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」(宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度) 及び宮城県環境生活部提供資料

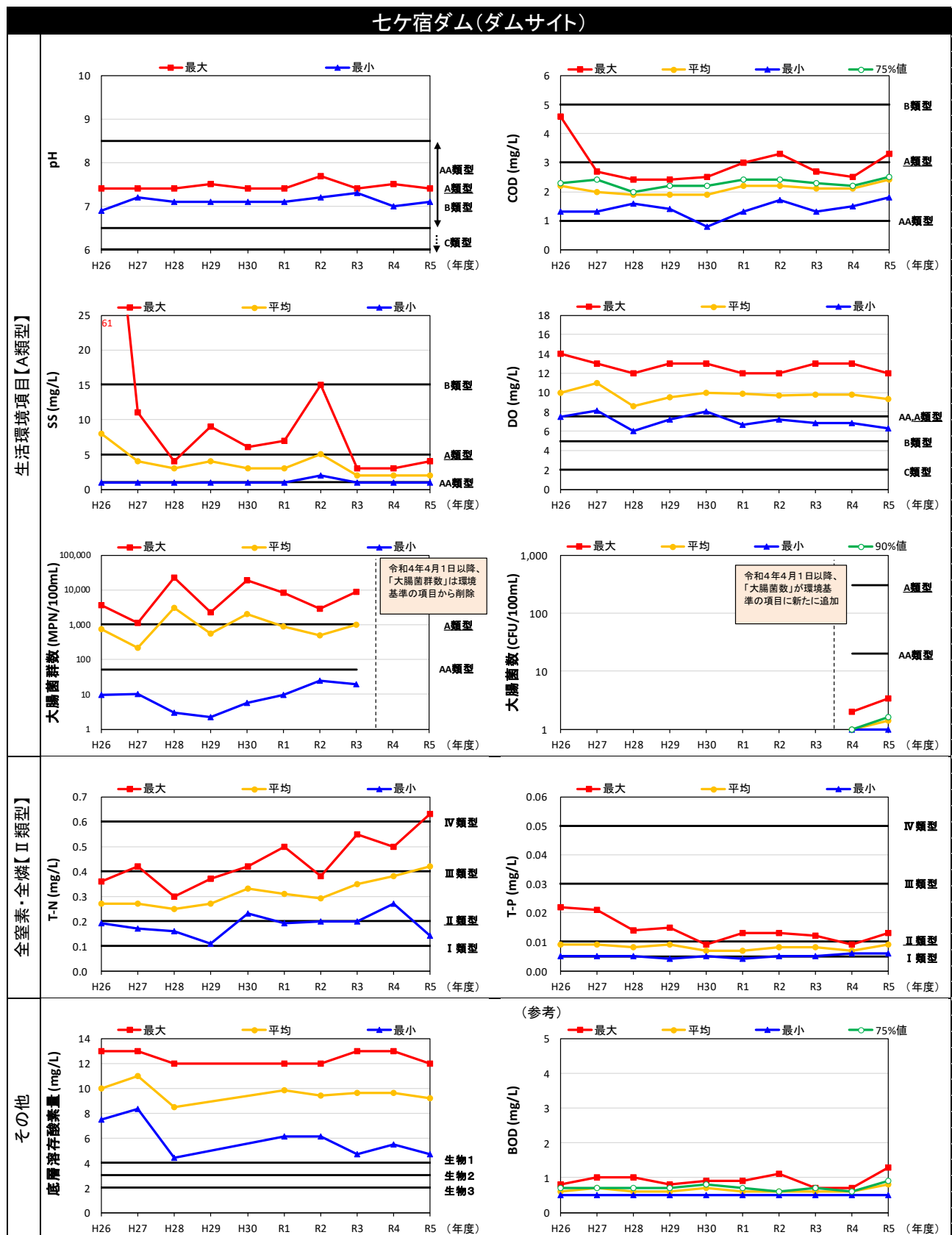


図 3.12-4 セケ宿ダムにおける水質の推移

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

七ヶ宿ダム（ダムサイト）N/P 比は、図 3.12-5 に示すとおりである。

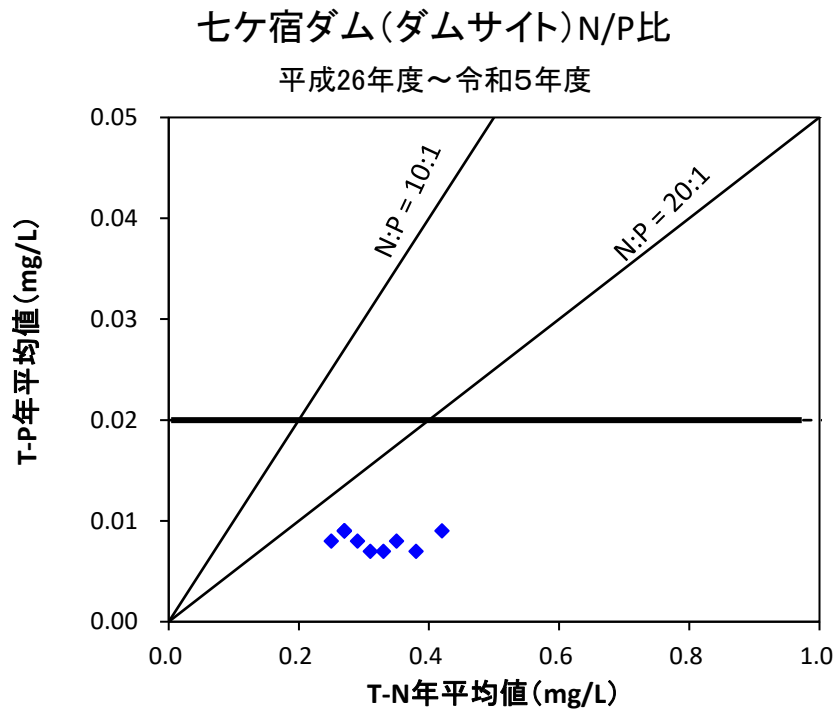


図 3.12-5 七ヶ宿ダムの N/P 比

データの出典：「公共用水域水質及び地下水質測定結果報告書」（宮城県、平成 26 年度～令和 4 年度）及び宮城県環境生活部提供資料

<参考>T-N の項目の基準値を適用すべき湖沼の条件

全窒素が湖沼植物プランクトンの増殖の要因となる湖沼（全窒素/全磷比が 20 以下であり、かつ全磷濃度が 0.02mg/L 以上である湖沼。）についてのみ適用
 （「水質汚濁に係る環境基準について」（告示・S46.12.28 環告 59））

3.12.3 セケ宿ダムの利用目的と利用状況

セケ宿ダムの利用目的と利用状況は、表 3.12-4、表 3.12-5 及び図 3.12-6 に示すとおりである。

表 3.12-4 セケ宿ダムの利用目的

洪水調整	流水機能維持	農業用水	水道用水	工業用水	発電	消流雪用水	レクリエーション
○	○	○	○				

出典：「ダム基本諸元一覧表」

(ダム諸量データベース HP、<https://mudam.nilim.go.jp/chronology/form01/27/2022>)

表 3.12-5 セケ宿ダムの利用状況

用途	取水者	取水場所	特記事項
特定灌漑用水	—	—	- 宮城県営畑地帯総合土地改良事業、仙南土地改良事業 - 灌漑面積は2,807haであり、最大約6.2m³/sを供給している。
水道用水	—	—	- 仙台市をはじめとする8市9町に供給している。 - 日最大補給量は595,900m³(約7.2m³/s)である。

■水道給水区域・かんがい区域図

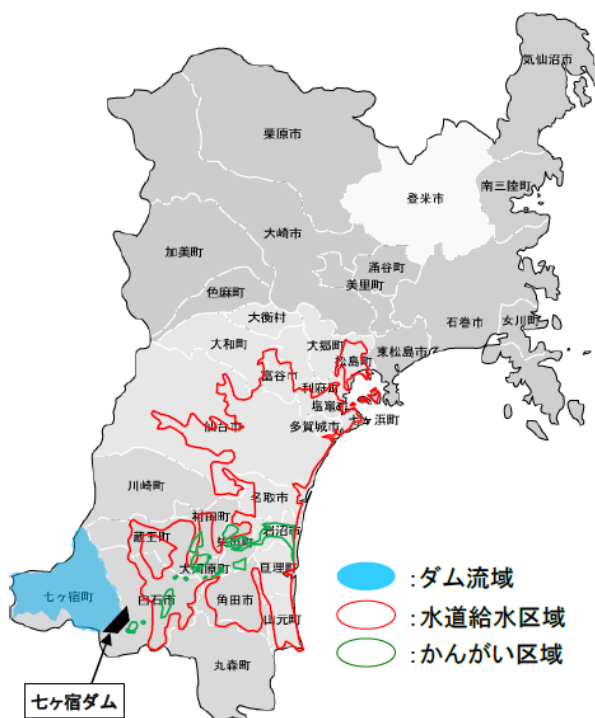


図 3.12-6 セケ宿ダムの水道給水区域・灌漑区域図

出典：「令和4年度 東北地方ダム管理フォローアップ委員会 セケ宿ダム 定期報告書（概要版）」
(国土交通省 東北地方整備局、令和4年)